

(千葉大学学位申請論文)

# フットスケープデザインに関する調査・研究

2006年7月

金 明 蘭

# フットスケープデザインに関する調査・研究

## 目次

### 序論

#### 第1章. 韓国「文化の通り」の歩道舗装デザイン に対する利用者意識

1. はじめに
2. 研究方法
3. 一般歩道舗装と「文化の通り」歩道舗装についてのアンケートの調査結果
4. 歩道舗装の色彩と素材についての調査結果
5. フットスケープデザイン の選好調査
6. 考察
7. まとめ

#### 第2章. 韓国「文化通り」のフットスケープデザインの現況と分析

1. 研究の背景と目的
2. 研究方法
3. 韓国「文化通り」の街路空間特性
4. 韓国「文化通り」の フットスケープデザイン現況分析結果
5. 考察とまとめ

#### 第3章. 街づくりにおける日本のフットスケープデザインの事例研究

1. 研究目的
2. 研究方法
3. 日本のフットスケープデザイン (歩道舗装デザイン)
4. 日本の景観舗装とフットスケープデザインの現地調査
5. 日本のフットスケープデザインの分類と考察
6. まとめ

#### 第4章. 国外地域的事例の比較と韓国のフットスケープデザインの方法論

1. はじめに
2. 街路景観におけるフットスケープデザインの個性
3. 街路景観におけるフットスケープデザインの個性表現
4. 韓国の地域的フットスケープデザイン
5. 個性化のためのフットスケープデザインガイドライン
6. まとめ

#### 第5章. フットスケープデザインの枠組みの構築

1. 研究の背景と目的
2. 研究の方法
3. フットスケープデザインとは
4. 舗面の機能
5. 歩道の舗装材と舗装工法
6. フットスケープデザインの造形についての考察
7. フットスケープデザインの空間目的別機能
8. まとめ

## 終章 韓国における地域特性に対応したフットスケープデザインの指針

1. 地域的、親環境的フットスケープデザイン開発のための事例およびDB化研究
2. フットスケープデザインの意識調査結果
3. フットスケープデザイン要素としての舗装材料
4. フットスケープデザインイラスト集
5. 地域別フットスケープデザイン事例、親環境的フットスケープデザイン事例分類
6. フットスケープデザイン応用開発事例とシミュレーション提案
7. フットスケープデザイン資料ホームページ構築([Http://paving.nabia.net](http://paving.nabia.net))
8. 親近感と豊かさ、快適さのためのフットスケープデザイン戦略的ガイドラインを提案する
9. 色彩
10. 周辺環境との調和および親環境的フットスケープデザイン適用
11. 地区別フットスケープデザインのガイドライン

## 謝辞

### 付録目次

1. 論文審査（公聴会）の発表資料
2. フットスケープデザイン資料
  - 2-1. 韓国文化通りフットスケープデザイン事例のイラスト化
  - 2-2. 日本、ヨーロッパフットスケープデザイン事例のイラスト化
  - 2-3. 各国フットスケープデザインの事例
  - 2-4. フットスケープデザイン開発事例とSIMULATION
3. 参考文献
4. フットスケープデザインの意識調査用シート
5. 文化通りの造成現況

## 序論

## 1. はじめに

本論文は韓国産業資源部と韓国デザイン振興院 (KIDP) のデザイン基盤技術開発事業に関する研究開発の課題として採択され2003年1月から1年間研究した成果である。

現在韓国の景観は先進諸外国に比べて劣っていると指摘されている。全国的に各地域の特性が無く、無国籍な環境になっている。計画性の無い西洋化の流入、注目性のみを強調する看板の氾濫の結果、漫然とした街路景観が形成されている。そのため、騒音問題防止と地域性のある優秀な景観デザイン分野の研究が切実に求められている。すでに形成された環境要素の中で一番視覚的に影響力がある建物である。しかし、建物は大部分が私的財産であるため、景観を改善しようと考えたとき形成された建物にはたらしかけて、地域的固有性を形成していくことは不可能に近い。しかし、道路の場合は公共施設として地域のイメージを調整するのに適している。機能が優先される車道と違って、歩行者空間は移動目的以外に都市住民の健康と情報交流などのための集合機能が求められる空間である。それゆえ、歩道は各地域のイメージと固有性を調整するのに適切な場所といえる。そのような歩行者空間を構築する為には、歩道に関する理論的研究が必要である。歩道の舗面においては、より良いフットスケープデザイン (footscapedesign) 開発が進められることが求められている。本研究は、韓国の地域街路景観のアイデンティティ確立はフットスケープデザイン開発を通して進展するという視点に立ち、歩行者空間におけるフットスケープデザインに関する理論的背景定立を目指すものである。そして、フットスケープデザインにおける地域的・親環境的のありかたをを探究し、体系的に定立していくものとする。全世界的に見て歩道舗装デザインに関する理論的研究はほとんどみられない。本研究のキーワードであるフットスケープデザインという用語は一般的に常用される用語ではないが、「足に触れる空間デザイン」つまり「歩道舗装デザイン」「歩行者空間の舗装デザイン」などととらえることができる。

日本では、1982年の道路審議会にける道路整備の指針として、従来の道路整備がとかく機能本位で行われていたのに対し、親しみと潤いのある道路づくり掲げ、人間性豊かな道づくりの推進、安全で快適な歩道の充実、緑豊かな道路空間の創出などを提言している。具体的な整備内容としては、

美観やゆとりに配慮し、特に都市を代表するメインストリートや歴史的街並においてはその都市のシンボルとなる個性的で親しみと潤いのある道路を整備する、重要な道路にはすべて歩道を設ける、道路景観の向上、沿道の生活環境保全のための植樹帯整備など道路緑化の推進などをあげている。この提言の内容はまさに車のための道路から人のための道路づくりを目指すものである。道路の位置付けを、従来は平面的な単なる交通路とみなしていたものを、美観やゆとりを配慮した公共空間として考えるようになってきている。さらに、歩道を設けて沿道の生活環境保全の面まであげており、現代の社会ニーズに対応する道路づくりが提唱されている。この提言のように都市のシンボルとなる個性的で親しみと潤いのある道路の整備を通して、今日の日本の個性的な街路景観が生まれてきたと考えられる。

このようなフットスケープデザインの機能と個性に対する概念は、これからの課題として、韓国の地方自治団体にも関心高くなっている。その点において、本研究は国外地域的事例の比較とともに韓国のシンボルとなる個性的で親しみと潤いのあるフットスケープデザインの個性化を目的とする。しかしこの論文はあくまでもフットスケープデザイン分野の舗装材料の中にもブロック工法に関心が集って各国のフットスケープデザイン事例の現況調査と整理だけに止まってあり広いフットスケープデザイン研究としては入り口なものである。今からこの分野の研究が波及されもっと進めて行くことを期待することである。

## 2. 韓国の「文化通り」

文化環境とは民族、歴史、文化を内包する環境として、個人的にはその地域文化を身に付けて健康で豊かな文化生活を満喫するようにし、地域的には形成された文化を利用して経済的利益を創出する背景となるものである。韓国では地方自治体の開幕と共に各地域のアイデンティティ確立の必要性を察知し、地域のイメージ作り、正体性の確立などが活発に行われている。

そのような地域事業の目標として各地域において歩行者専用道路として象徴通りを作ろうとする動きがある。都市の代表的幹線道路は「都市のシンボルになる街路」として「象徴通り (Symbol road)」となる。象徴通りは都市において地理的に中心的な位置にあることだけではなく、都市活動の中核となる街路である。沿道には都市を代表する建物が存在する場合も多

い。パリのシャンゼリゼ通りのように、象徴通りは都市構造の中軸であり都市の顔となる。韓国では1990年頃から都市の象徴通りとしての「文化通り」に関心が持たれるようになった。1990年度から1994年度まで文化観光部が釜山をはじめとした10都市に「文化通り」の設置を支援した。その後「文化通り」は各地に設置されるようになり、2002年度の文化観光部の発表では国内82カ所にのぼっている。このような韓国の「文化通り」は地域の象徴通りとして、また、多くの人々が集う歩行者専用道路として、それぞれの地域で代表的な景観の場所となっている。本研究では、韓国「文化通り」を韓国のフットスケープデザインの代表的あるいは模範事例となるべきものと認識して現況の分析を行う。分析を通して得られた結果から、地域のアイデンティティを活かした地域的FSDと親環境的FSD開発の方法とその拡大、波及のための方策を見出していく。

### 3. 研究の進め方

研究を進めるにあたり、「道路・舗装材料・舗装工法」に関連した土木工学関係の書籍、「道」に関わる文献、「ランドスケープ」に関する景観デザイン、「都市デザイン」に関する文献などを中心にフットスケープデザインに関わる既往研究の調査を行った。収集した文献を中心に「歩道・歩行者空間・フットスケープデザイン」における概念の定立、「歩道舗装」における素材と工法の定立、「フットスケープデザイン」における基本技法、造形要素、機能別類型を定立した。

本研究では、文化観光部で指定した「文化通り」のフットスケープデザインの現状の把握と開発の方向性を探る。「文化通り」歩道舗装と一般歩道舗装の現状を調査し、歩道舗装材における素材面、デザイン面、色彩面、施工状態面の確認と比較を行った。また、「文化通り」と一般歩道にのフットスケープデザインに対する都市住民の意識調査を行った。アンケートは、(1)回答者の属性、(2)国内歩道舗装の歩道舗装の評価と問題点、(3)「文化通り」の訪問経験と「文化通り」歩道舗装に関する関心度、(4)「文化通り」歩道舗装と一般歩道舗装の比較、(5)各地域に望ましい歩道舗装の色彩選択と素材(インターロッキングブロックと粘土ブロック)のイメージ選択、(6)「文化の通り」の歩道舗装に関するイメージ表現とイメージ選択、以上六つの項目で構成した。2003年3月に書面によるアンケートを実施した。700枚を配布し有効回答を得た。

地域環境に適応したフットスケープデザインのありかたと方策を探るためには、世界各地のさまざまな状況の下で、つくられて、また、使われてきた通りの事例分析が必要である。本研究では、韓国以外に、ヨーロッパならびに日本のフットスケープデザインの現地調査を行い、その事例を分析し。舗装の原点といえるヨーロッパでは、各国の首都を中心に集客の多い観光地と地域性がよく表現されている都市を対象として選択した。そして各地域の中央路と歩行者専用道路を中心に現況調査をした。主にデジタルカメラを用い、遠景、近景、ストリートファニチャー、サイン、舗装材料を識別出来るように撮影した。得られたデータに基づき、フットスケープデザインにおける「色彩」「デザイン特性」「施工法によるパターン及びデザイン構成形式」「舗装材料及びその他」「代表的写真」「イメージ」「通りの性格」について分析を行った。日本における現地調査は日本の大都市ならびに景観が優れているとされる都市を対象とした。各都市では駅前に立地する中央商店街などの繁華街と歩行者専用道路を中心に現況を調査した。各事例の分析はヨーロッパの調査と同様に行った。また、各地域の街づくりに関する情報収集を進め、参考文献の入手と一部の地方自治体の行政担当者へのインタビューを実施した。

韓国、ヨーロッパ、日本で調査し分析して得られた結果に基づき、総合的なフットスケープデザインのデータベースの構築を行った。データベースはフットスケープデザイン開発の進展に寄与することを目指し、ウェブサイトで公開している。地域的なフットスケープデザインとしての代表的事例、親環境的なフットスケープデザインとしての代表的事例を紹介し、さらに、日本の調査対象地域の FSD 色彩、デザイン特性、施行法、舗装材料、イメージ類型、通りの性格などを分析して図表化したものを公開している。

## 第1章

### 韓国「文化通り」の歩道舗装デザイン に対する利用者意識

## 1. はじめに

### 1.1. 研究の背景と目的

韓国では、地方自治の時代が開幕するとともに各地域のアイデンティティを確立する必要性が強く認識されるようになり、地域のイメージづくりやオリジナリティの確立などが活発に行われている。現在、韓国の街路景観は欧米などの先進諸外国に比べて劣っていることが指摘されている。都市開発において計画性の無い西洋化が進行し、また、注目性のみを強調する商業看板が氾濫するようになり、韓国各都市の街路景観は没個性で雑然とした状態にある。そのため、騒音問題防止の対策と地域性のある優れた景観形成が切迫した社会要請となっており、景観デザイン分野の研究が切実に求められている。都市環境要素のなかで視覚的影響力が一番大きいのは建築である。しかし、その多くが私的財産である建造物に対し、都市景観全体のイメージ形成を誘導するためにデザイン的はたらきかけを行うのは極めて困難である。それに比べて道路の場合、そのほとんどは公共財産であるため、自治体の意思と政策に基づいてフットスケープデザイン

(Footscape Design・歩道舗装デザイン；以下FSDと記す)を施すことが可能であり、地域のアイデンティティ表現の自由度が高い。そのため、地域街路景観のアイデンティティ確立には、FSD開発が最も重要な誘因となるといっても過言ではない。そこで、筆者らは、韓国における地域街路の景観アイデンティティの確立に向け、FSD開発のありかたを探るための調査研究を行った。また、地球環境保全に向けた施策が求められる今日、街路景観デザインにおいても親環境的な視点での配慮が不可欠である。

本章は、韓国政府文化観光部で指定された「文化通り (munkha keori)」におけるFSDの現況を概括し、歩道舗装に対する認識、選好、要望等のアンケート調査の解析を通して「文化通り」のFSDに対する利用者意識の構造を究明することを目的とする。

性別	男性 (47%)		女性 (52%)		無記名 (1%)
年齢	20代 (64%)	30代 (25%)	40代 (8%)	50代 (2%)	その他 (1%)
職業	学生 (43%)	会社員 (28%)	専門職 (20%)	主婦 (5%)	その他 (4%)
地域	京畿道 (21%)	仁川 (25%)	ソウル (48%)	その他 (2%)	無記名 (5%)

表 1. 回答者の属性

### 1.2. 「文化通り」とは

歩道歩行利用者のFSDに対する意識調査を行うには、多くの人達が集まって歩く、各地の歩行者専用道路あるいは歩車共存道路を対象として選定することが必要である。本章では、韓国政府文化観光部で指定した「文化通り」を中心に、各地の歩道を選定した〔注1〕。韓国の「文化通り」は、各地域における伝統行事をはじめとして各種イベント、展示、飲食などさまざまな文化活動を催すことで人が多く集まる活気ある通りを作ろうとして企画されたものである。「文化通り」を構成する基本要素は、「文化活動」とその文化活動が行われる物理的空間環境すなわち「通り」である。そして、一番大事な文化活動の主体は「人間」である。この「文化活動」、「通り」、「人間」、三要素を通して「文化通り」が構成されるといえる。1990年度から関心が持たれるようになり、文化観光部は1990年度から94年まで釜山をはじめソウル、仁川、江原道、春川、光州、大田、全州、公州、木浦の10都市において「文化通り」の制定と実施のための支援を行った。以後「文化通り」は各地方において制定され、2002年度に発表された文化観光部の資料によると全国で82ヵ所に上っている。このような「文化通り」はそれぞれの地域の象徴通りであり、また、多くの人達が集合する歩行者専用道路として地域景観の代表的事例ともなっている。本章でFSDの調査研究対象として各地の「文化通り」を選定した理由は、韓国の場合、「文化通り」を中心に歩行者専用道路の概念が導入された経緯があり、「文化通り」を中心としてFSDの大切さが要求されつつあるためである。しかしながら、まだ、それぞれの都市の特徴を引き出していない「文化通り」が多く、各地の「文化通り」の雰囲気似通ってしまい没個性に陥っているという実相がある。

一般歩道舗装の水準	非常に優秀である		優秀である		どちらともいえない		劣等である		非常に劣等である		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
素材	8名	2%	81名	18%	271名	60%	79名	18%	8名	2%	447名
デザイン	26名	6%	104名	23%	220名	50%	78名	17%	18名	4%	446名
色彩	26名	6%	106名	24%	232名	52%	70名	16%	11名	2%	445名
施工状態	43名	10%	113名	25%	175名	39%	83名	19%	32名	7%	446名

表2. 一般歩道舗装の評価

### 1.3. 粘土ブロックの親環境性について

本章では、FSDの素材として特に粘土ブロックの有用性に着眼し、その普及に向け、アンケートにおいて選好度調査を実施した。粘土ブロックは土を主原料として製造されており、人体に有害な成分の発生および環境汚染がほとんどない。また、保水性を有することで調湿の機能があり、快適な湿度を維持する役割を果たす。蓄熱放射面でも優れており、保水した水

分の蒸発散による潜熱も作用し、真夏の暑い時間帯においても路面温度の上昇を抑制する。特にアスファルト・コンクリートと比べた場合にその差は大きい。

## 2. 研究方法

一般路と「文化通り」の FSD についての一般市民の意識を把握するため、アンケート調査を行った。また、各地域の「文化通り」の歩道舗装の素材と施工方法を確認するため自治体の管理責任者へのインタビュー調査を実施した。

アンケート調査項目は、(1) 回答者の属性、(2) 国内歩道舗装の評価と問題点、(3) 「文化通り」の訪問経験と「文化通り」歩道舗装に関する関心度、(4) 「文化通り」歩道舗装と一般歩道舗装の比較、(5) 各地域に望ましい歩道舗装の色彩選択と素材（[インターロッキングブロック]と[粘土ブロック]）のイメージ選択、(6) 「文化通り」の歩道舗装に関するイメージ表現とイメージ選択、以上六つの項目で構成した。アンケートの実施時期は 2003 年 3 月である。配布数は 700 部、回収数および有効回答数は 457 部（回収率 68%）であった。アンケート回答者の属性は表 1 に示すとおりである [注 2]。

## 3. 一般歩道と「文化通り」の舗装についてのアンケートの調査結果

### 3.1. 一般歩道舗装の評価

「文化通り」の FSD の評価の比較対象として、一般歩道の FSD の評価を調べた。一般歩道舗装における「素材面」「デザイン面」「色彩面」「施工状態面」について質問した結果を表 2 に示す。一般歩道舗装の素材に関してどう思うかの設問に対しては、「どちらともいえない」が 60%と過半を占め、「優秀である」18%、「非常に優秀である」2%、「劣等である」18%、「非常に劣等である」2%と、良く評価する声と批判する声はほぼ同数であった。一般歩道舗装のデザインに関してどう思うかの設問に対しては、「どちらともいえない」が 50%であり、「優秀である」「非常に優秀である」と回答したのが合わせて 29%、「劣等である」「非常に劣等である」と回答したのが合わせて 21%と、批判する声より優秀と評価する声が若干多いとはいえ、特に評価を表さない意見が半数を占める。一般歩道舗装の色彩に関してどう思うかの設問においても、ほぼ同様の回答傾向がみ

られる。以上の結果を見ると、一般歩道舗装における「素材面」「デザイン面」「色彩面」については、優秀と評価する意見と批判する意見がそれぞれ1/4前後ほどみられるが、半数以上の人びとは評価をするほどの意識を有していないと解することができる。一方、一般歩道舗装の施工状態に関してどう思うかの設問に対しては、「どちらともいえない」が39%と多いものの、「優秀である」と「非常に優秀である」を合わせると35%ほどになり1/3強を占めている。「劣等である」と「非常に劣等である」を合わせたものは26%であり、評価が分散されている。「素材面」「デザイン面」「色彩面」への評価意識が希薄なのになら、**「施工状態面」への評価意識は比較的はっきりしているといえる。**

現在の一般歩道舗装における問題点として何が認識されているか問うた設問では、「頻繁に行われる工事による経済的損失」30%、「画一化された灰色のセメントまたはコンクリート歩道ブロックで感じられる周辺景観または自然と遊離した情緒」27%、「歩行を妨げる凹凸の酷い歩道舗装」27%、「歩道舗装による地下水不足（歩道舗装で雪、雨などが海にそのまま流されるため）」16%であった〔図1〕。

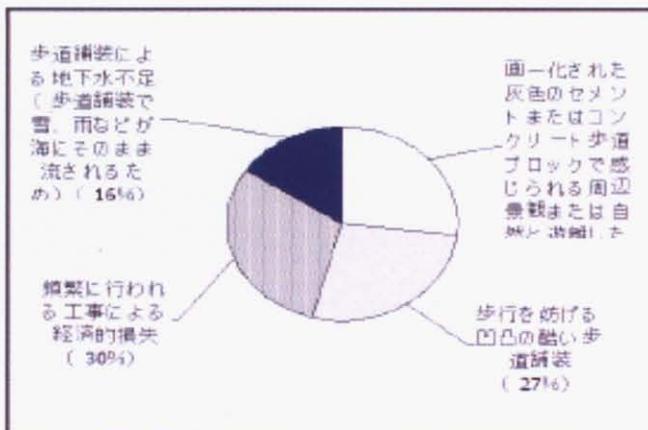


図1. 一般歩道舗装の問題点と考える項目

### 3.2. 一般歩道舗装と「文化通り」歩道舗装に対する比較

#### (1) 「文化通り」への訪問経験

「文化通り」への関心度合いを確認するために、「文化通り」訪問の経験度合いを尋ねた。回答者の76%が「文化通り」を訪れた経験を有する〔図2〕。「文化通り」は住民の活動領域として認識されていると読み取れる。

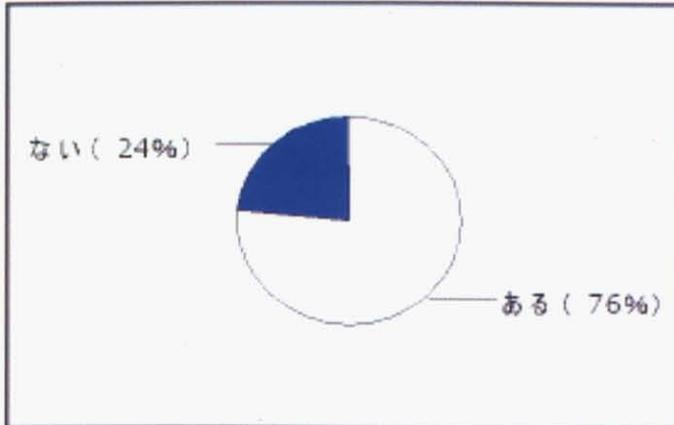


図2. 「文化通り」を訪れた経験の有無

「文化通り」を訪れた経験がない回答者は2割強ほどだが、その理由については、「興味がなかったから」が52%と半数を超える。また、「『文化通り』がどこなのか知らないから」が17%ほどおり、訪れた経験がない回答者のおよそ2/3が、「文化通り」にあまり関心を寄せていないといえる。ほかには「住まいの周辺に『文化通り』がなかったから」「機会がなかった」「忙しかったから」「遠いから」など地理的・時間的等の制約から訪れたことがないと回答している〔図3〕。

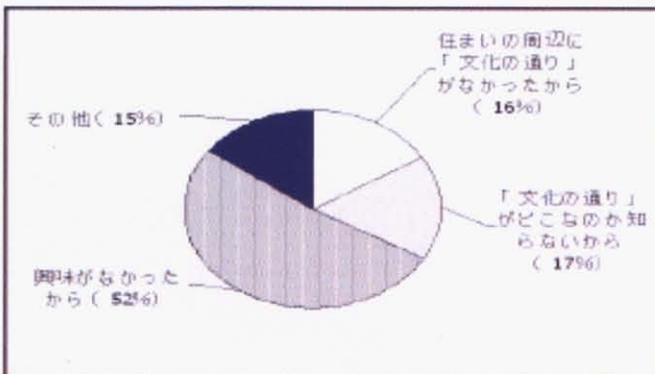


図3. 「文化通り」を訪れた経験がない理由

## (2) 一般歩道と「文化通り」歩道の舗装に対する比較の認識

「文化通り」を訪れた経験がある回答者に、「文化通り」歩道舗装が一般歩道舗装と見分けできると思うか質問すると、「はい」が51%、「いいえ」が49%とほぼ半々に分かれた〔図4〕。

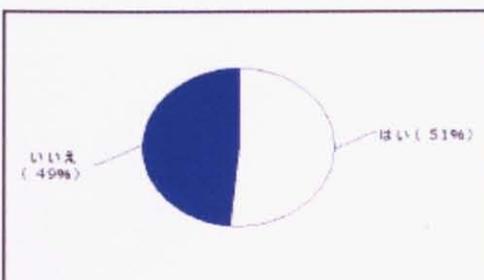


図4. 「文化通り」歩道舗装と一般歩道舗装を見分けた度合い

また、一般歩道舗装と「文化通り」舗装の「素材面」「デザイン面」「色彩面」「施工・管理面」をどのように比較しているかその認識を質疑した。その結果は、「素材面」「デザイン面」「色彩面」「施工・管理面」四つの要素とも、「どちらともいえない」との回答が割合が多いことから、半数近くの人びとは一般歩道と「文化通り」の舗装状況について、どちらが優れているか特に認識はしていない。ただし、「デザイン面」「色彩面」の設問については優劣の意見が若干明確に回答されており、両設問とも30%弱の回答者が「文化通り」の舗装は一般歩道の舗装に比べ優れていると答えている。同時に、25%強の回答者が「文化通り」の舗装は一般歩道の舗装に比べ劣っていると答えている（表3）。

比較	非常に優秀である		優秀である		どちらともいえない		劣等である		非常に劣等である		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
素材	2名	1%	37名	23%	89名	54%	34名	21%	1名	1%	163名
デザイン	2名	1%	45名	28%	71名	44%	41名	25%	4名	2%	163名
色彩	0名	0%	48名	29%	72名	45%	38名	23%	5名	3%	163名
施工状態	3名	2%	37名	23%	88名	54%	28名	17%	7名	4%	163名

表3. 「文化の通り」歩道舗装を一般歩道舗装との〔素材面〕、〔デザイン面〕、〔色彩面〕、〔施工・管理面〕の比較

### 3.3. 「文化通り」歩道舗装に対する関心度

「文化通り」を訪問した経験のある人びとに対して「文化通り」の歩道舗装に関心を持って見たことがあるかと質問した結果、「ない」と答えたのが55%で、「ある」が45%であった〔図5〕。

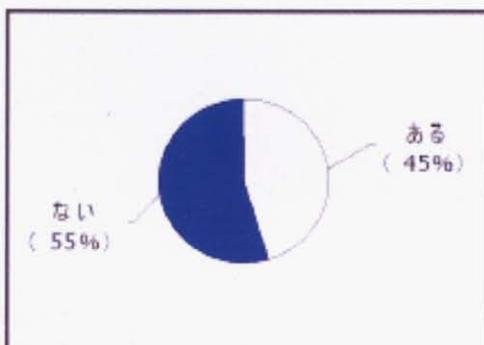
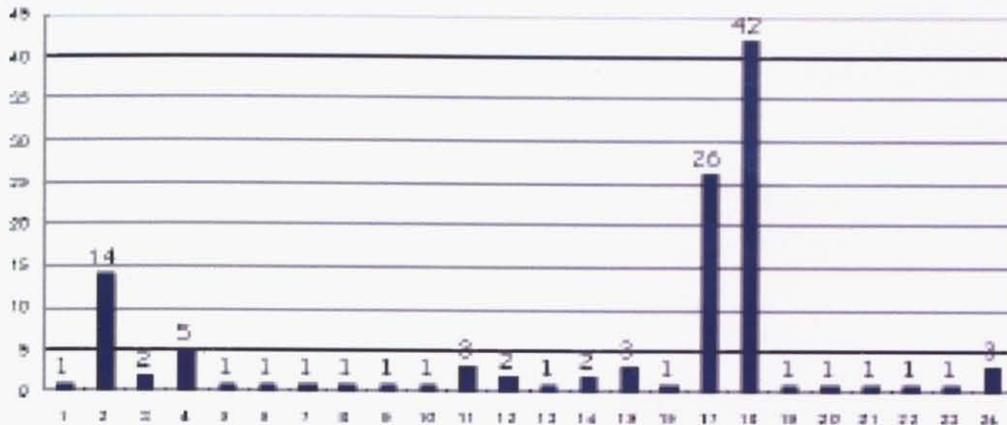


図5. 「文化通り」歩道舗装に関心を持って見たことがあるかの有無

上記の設問に対して「ある」と答えた人に対し歩道舗装が一番印象的であった「文化通り」の場所を自由記述形式で尋ねた設問の回答結果を図6に示す。ソウル市「仁寺洞通り」〔図7〕が42名で最も多くあげられた。



[1. 徳壽宮側のギャラリー], [2. 慶州普門観光園地], [3. NAHYESEOK通り], [4. 徳壽宮石垣通り], [5. 明洞], [6. 民俗博物館], [7. 釜山アシアン路], [8. 富川アニメーション通り], [9. 益唐], [10. 三成洞], [11. 上巖競技場], [12. 新浦洞・月尾島], [13. アカデミー劇場], [14. エキスポ], [15. 汝矣島公園], [16. 芸術の殿堂], [17. オリンピック公園], [18. 仁寺洞通り], [19. 仁川文化会館], [20. 全州太極路], [21. 天安新都市], [22. コエクスモール], [23. 現代美術館], [24. 弘益大学校]

図6. 歩道舗装が一番印象的であるとしてあげられた「文化通り」の場所



図7. 仁寺洞伝統文化の通り

続いて、ソウル市「オリンピック公園」26名、慶州市「慶州普門園地」14名が多くあげられている。5名の回答が得られたソウル市「壽宮石垣通り」〔図8〕も含め、回答が多かった場所は国内に限らず国外からも人が集まる観光名所である〔注3〕。アンケート回答者の9割以上がソウルと首都圏に居住するにもかかわらず、ソウルと首都圏以外に位置する「慶州普門園地」を多くの人があげている。

回答者があげた印象的な通りは24カ所にのぼるが、そのうち文化観光部が指定した「文化通り」は、水原市「羅恵錫通り（洪蘭波の通り）」、ソウル市「三成洞（＝貿易金融の通り）」、仁川市「新浦洞・月尾島（＝月尾島文化通り）」、ソウル市「芸術の殿堂（＝文化芸術の通り）」、ソウ

ル市「仁寺洞通り（＝仁寺洞伝統文化通り）」、ソウル市「弘益大學校（＝大学路文化芸術の通り）」の6カ所のみである。

「文化通り」のなかで歩道舗装が一番印象的であった場所の回答に関して、その歩道舗装が一番印象的だった理由を問うた設問では、「素材が独特で環境に配慮している」が29%、「デザイン面で優れている」が27%、「色彩が周囲と調和している」27%、「施工と管理が優秀である」17%の順であった〔図9〕。



図8. 徳壽宮石垣通り

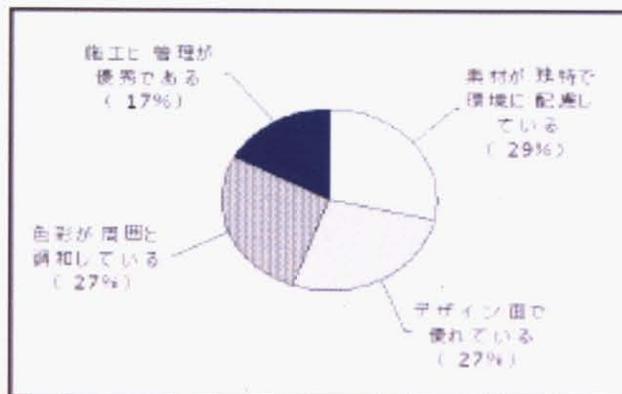


図9. 「文化通り」歩道舗装が一番印象的だった理由

## 4. 歩道舗装の色彩と素材についての調査結果

### 4.1. 「文化通り」歩道舗装の素材と施工方法

2003年5月から6月にかけて、文化観光部により指定された「文化通り」82ヶ所をより詳細に把握するために、各区役所の管理責任者にインタビュー調査を行った。調査項目は「道路性格」「道路類型」「舗装材料」「施工方法」「舗装デザインの造形的要素」である。

「文化通り」に使われた歩道舗装材と施工方法を分類したものを表4に示す。歩道舗装材は、「c:アスファルトまたはアスファルトコンクリート混合物（以下、アスコンと記す）」〔注4〕が23カ所と一番多く利用されており、「a:インターロッキングブロック」17カ所、「b:粘土ブロック」15カ所、「e:花崗岩」14カ所、「h:濟州板石・石材・大理石」5カ所、「d:I型コンクリートブロック・コンクリート」4カ所、「f:陶磁器質タイル」5カ所、「g:透水コンクリート」〔注5〕1カ所、「i:煉瓦」、「j:芝生」、「j:クッションのあるブロック」が各1カ所であった。施工方法は「2:第二次製品型（＝ブロック工法）」〔注6〕が34カ所、「1:現場施工型（＝ローリング工法）」〔注7〕が23カ所であった。

地域別 (箇所数)	「文化通り」の名	材料 地域	歩道舗装材										施工方法			
			a	b	c	d	e	f	g	h	l	j	1	2		
ソウル(21)	大学路文化芸術通り	鍾路区				●										◎
	仁寺洞伝統文化通り	鍾路区		●												◎
	淑明女子大学校の前文化通り	龍山区		●												◎
	素月通り	城東区	●	●	●									◎	◎	
	濫達通り	廣津区														
	文化通り	東大門区														
	映画通り	城北区														
	伝統文化通り	城北区	●		●	●								◎	◎	
	江北文化芸術通り	江北区														
	文化芸術通り	陽川区	●	●	●			●						◎	◎	
	ウエディング通り	西大門区	●										●		◎	
	家具通り	西大門区	●		●									◎	◎	
	九老5洞文化通り	九老区	●	●						●					◎	
	中央大學校周辺文化通り	銅雀区	●	●	●					●				◎	◎	
	落星垜文化通り	冠岳区	●		●									◎	◎	
	文化芸術通り	瑞草区	●	●			●								◎	
	ファッション文化通り	江南区	●		●									◎	◎	
	情報通信通り	江南区					●								◎	
	家具文化通り	江南区	●		●									◎	◎	
貿易金融通り	江南区							●					◎			

釜山(7)	PIFF文化通り	中区		●		●													◎	
	テズラク文化通り	中区			●	●													◎ ◎	
	龍頭山文化通り	中区		●		●													◎	
	釜山鎮区文化通り	釜山鎮区																		
	梵魚路文化通り	金井区																		
	海辺文化芸術通り	海雲臺区																		
	月見丘 文化通り	海雲臺区		●	●														◎ ◎	
大邱(2)	鳳山文化通り	中区			●														◎	
	藥令市通り	中区				●			●										◎	
仁川(3)	月尾島文化通り	中区		●	●														◎ ◎	
	南洞文化通り	南洞区																		
	富平文化通り	富平区																		
光州(1)	芸術通り	東区			●														◎	
大田(4)	温泉路文化通り	儒城区			●	●														◎
	大学路文化通り	儒城区																		
	ウヌンジョンイ文化通り	中区			●	●														◎
	文化通り	中区																		
蔚山(2)	文化通り	中区																		
	文化芸術通り	南区	●							●										◎
京畿道(12)	羅憲錫、洪蘭坡通り	水原市		●		●														◎
	城南文化通り	城南市																		

京畿道 (12)	光明文化通り	光明市			●		●											◎	
	平澤文化通り	平澤市	●		●													◎	◎
	松炭観光特区文化通り	平澤市					●	●											◎
	茶山文化公園内文化通り	南楊州市								●									◎
	河南文化通り	河南市	●		●	●													◎
	驪州文化通り	驪州郡			●													◎	
	烏山文化通り	烏山市			●													◎	
	漣川文化通り	漣川郡																	
	加平MT文化通り	加平郡																	
	楊平文化通り	楊平郡																	
江原道 (2)	春川文化通り	春川市																	
	江陵文化通り	江陵市																	
忠北(3)	中央路文化通り	清州市						●	●								●		◎
	清州文化通り	清州市																	
	報恩文化通り	報恩郡																	
忠南(5)	天安文化通り	天安市	●	●		●								●					◎
	百濟文化通り	公州市			●														◎
	牙山文化通り	牙山市																	
	瑞山文化通り	瑞山市																	
	扶餘文化通り	扶餘郡			●									●				◎	◎
全北(1)	歴史通り	全州市		●			●											◎	



ックが利用される度合いが高いのに比べ、印象的であると回答された「文化通り」には、環境に配慮され自然にやさしい粘土ブロック、自然素材である花崗岩、都市洪水・地下水の枯渇現象を顧慮した透水コンクリートが多く用いられている。

#### 4.2. インターロッキングブロックと 粘土ブロック に対する選好

歩道舗装の意匠面の開発においてはローリング工法よりもブロック工法のほうが、パターン展開が容易な点で有利である。第二次製品型（ブロック工法）のなかで、自然石に比べ廉価であり、再利用可能である面から考えて経済的で親環境的であるといえるインターロッキングブロックと粘土ブロックの歩道舗装についての好感度を調査した。インターロッキングブロックと粘土ブロック外観上の差は小さいが〔図 10〕、素材に違いがある。インターロッキングブロックは、高振動加圧方式で製造したコンクリートブロックである。走行性、凍結融解、すりへり作用の抵抗性に優れ、補修も容易で、周辺環境に調和した舗装面を形成することができる素材である〔注 8〕。一般歩道の舗装材料として多く使われている。



図 10. インターロッキングブロック（左）と粘土ブロック（右）

歩道舗装の材料としてのインターロッキングブロックについてどう思うか選好を調べると、「普通」が 47%と半数近くを占め、「良い」と評価するのが 4%と少数であり、「悪い」とする回答が 32%と多い。また、「関心ない」が 17%であった〔図 11〕。インターロッキングブロックは好感度が高い材料ではないことがわかる。

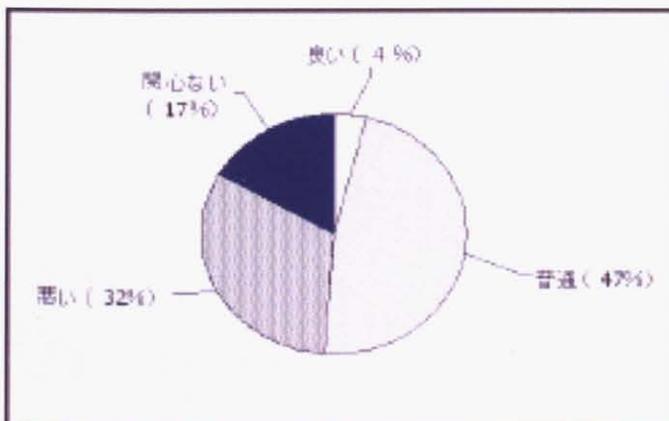


図 11. 一般歩道舗装の素材として多く使われているインターロッキングブロックについての評価

粘土ブロックについては「普通」が51%であり、「良い」が24%であり、「悪い」は6%とインターロッキングブロックと反対の傾向を示した〔図12〕。「関心ない」と回答したのは19%であった。「良い」と答えた回答者に、粘土ブロックの長点を問うと、「自然にやさしい素材である」75%、「自然の色彩として周辺環境と調和する」24%であった〔図13〕。「その他」1%の答えは「歩道舗装として新しい素材なので新鮮に感じる」がある。「悪い」と答えた回答者に粘土ブロックの短所を尋ねた設問では、「赤い色が嫌い」とする比率が58%と高かった。ほかに得られた短所は、「価格が高い」が5%であり、「その他」37%の回答内容を確認すると、「強度が弱く壊れやすい」「デザインが単調である」「ありふれた素材である」などの記述がみられた〔図14〕。

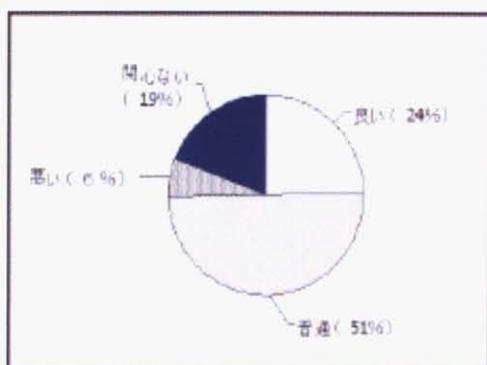


図12. 粘土ブロックについての評価

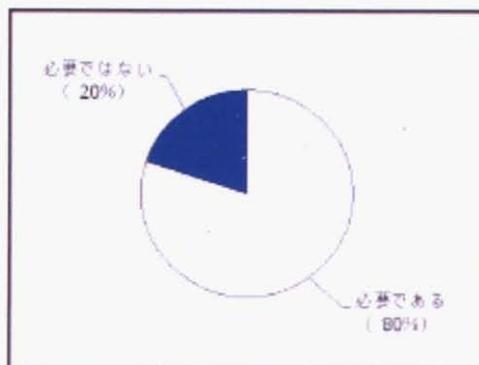


図13. 粘土ブロックの長所と考える点

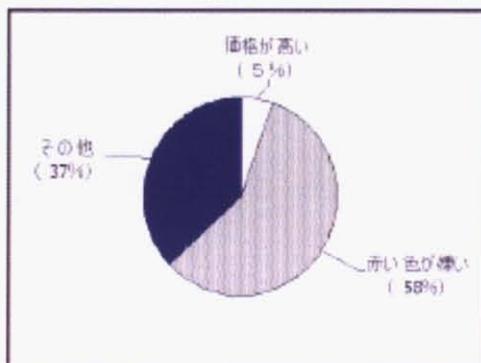


図14. 粘土ブロックの短所と考える点

### 4.3. 歩道舗装の色彩の選好

歩道舗装の色彩として人びとはどんな色を望むのかを調査した。地域を象徴する地域色彩が必要だと思うかとの設問に対しては、「必要である」80%、「必要ではない」20%であった〔図15〕。地域色彩の必要性を感じる人びとが多い。各地域の歩道舗装色彩としてどれが望ましいと思うか選択させた設問に対しては、「見どころのある多彩な色彩」59%、「自然そ

のままの土の色」27%、「赤い煉瓦の色」8%、「無彩色（灰色）のコンクリート、セメントの色」6%であった〔図16〕。

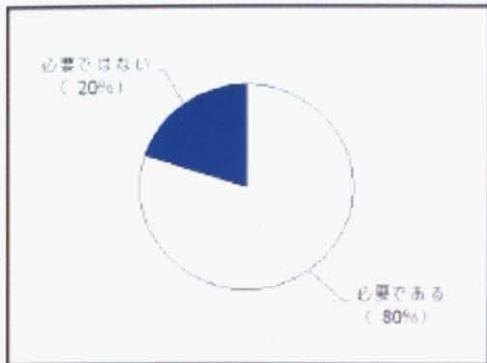


図15. 地域を象徴する地域色彩が必要と思うか

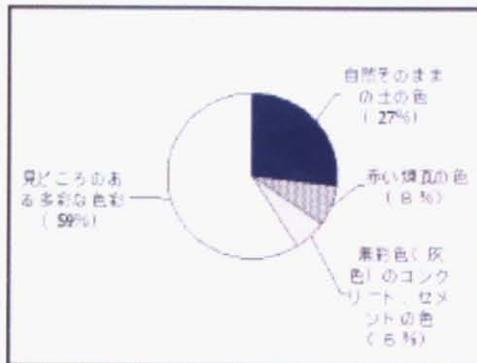


図16. 各地域の歩道舗装色彩として望ましいと思う点

## 5. FSD の選好調査

粘土ブロックは、親環境性が高いFSD実施のために有用な長所を多く含んでいることが評価されているものの、「文化通り」の舗装において活用は多くない。そのため、粘土ブロック舗装の活用を模索するために、FSDの選好を調査した。

### 5.1. 粘土ブロックを活用した FSD の二者比較

各地域の望ましい歩道舗装色彩として高い回答を得た「見どころのある多彩な色彩」「自然そのままの土の色」という要件を考慮し、粘土ブロックを活用した舗装において、赤系の彩度・明度に変化を持たせたデザインのイメージシミュレーションを作成し、その選好を調査した。サンプルには粘土ブロック舗装の典型例である天安市アラリオ広場を選んだ。a. 変化をもたせた天安市アラリオ広場とb. 現状の天安市アラリオ広場の2サンプルを写真で提示し、気に入る方を選ばせた。結果は、a. 4%、b. 96%と現状のままのイメージが強く支持された。〔図17〕。

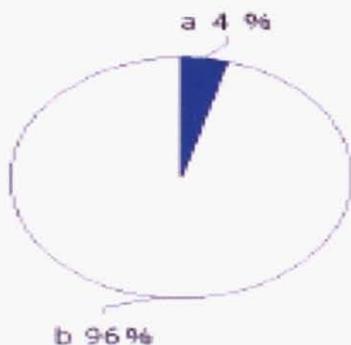


図17. 粘土ブロックを活用したFSDイメージの選好



写真左：a. 現状の天安市アラリオ広場

写真右：b. 変化をもたせた天安市アラリオ広場

## 5. 2. 異なった四つの歩道の FSD 評価

次に、図 18 のようなイメージ写真をサンプルとして選好を調査した。

1. 現在韓国の一般歩道舗装で頻繁に見られるインターロッキングブロック歩道舗装の写真、2. 単調な赤色煉瓦の色相を変え、暖色系と大胆な曲線を加えたデザインの赤色煉瓦で製作された広場(イメージシミュレーション)、3. まるで赤色煉瓦のようなインターロッキングブロックと異国的デザインの写真、4. 特徴的なデザインがなされた磁器タイルで清潔なイメージのデザイン歩道舗装、以上のサンプルである。結果は、3 が 34%、2 が 29%、4 が 23%、1 が 14% の順に選好された [図 18]。3 のパターンは、広い領域に赤色のブロックを地として二種類の青色のブロックで図を描いたデザインである。全体に赤色が多く単純な色相を展開させたデザインにもかかわらず、選好度合いが高かった。1 と 3 を比べると、一般的な歩道舗装デザインよりも特徴的なパターンデザインが施された歩道舗装のほうが選好度合いが高かった。

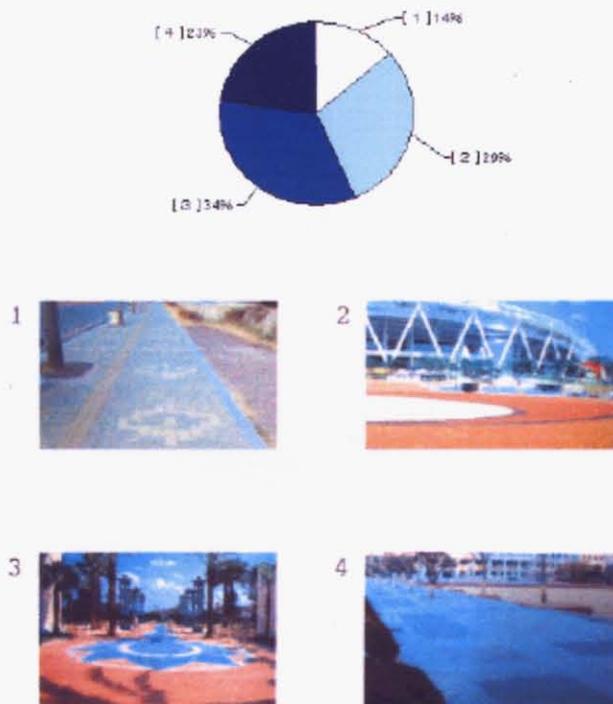


図 18. 歩道舗装に対する選好調査のイメージサンプルと評価

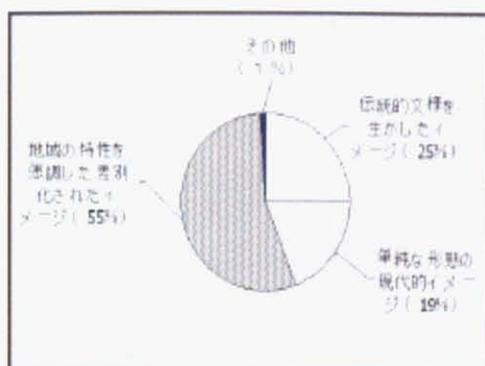


図 19. 「文化通り」FSD がどんなイメージで表現されるのが望ましいか

### 5.3. 「文化通り」 FSD イメージの方向性の調査

利用者が「文化通り」に対してどのようなイメージが望ましいと考えているか、その要件について調査を実施した。「文化通り」のFSDをどんなイメージで表現することが望ましいと思うかとの設問に対して、「地域の特性を強調した差別化されたイメージ」と回答したのが55%で一番高い割合を占めていた、以下、「伝統的文様を生かしたイメージ」25%、「単純な形態の現代的イメージ」19%、「その他」が1%であった〔図19〕。

## 6. 考察

今回の調査では、一般歩道舗装の「素材面」「デザイン面」「色彩面」の評価については、「どちらともいえない」との回答が多い。これは、韓国の歩道舗装がこれらの面において可も不可もない状態と認識されているといえる。また、それら进行评估するほど日ごろ歩道舗装が意識されていないことがあらわれているものと考えられる。「施工状態面」については比較的是っきりした評価がみられた。韓国道路史上初めて車道と人道が区分された歩道は、1911年に落成した大漢門から光熙門に至る路線のなか乙支路部分である〔注9〕。1960年頃になっても歩道は主要幹線のみ舗装されていたと推定される。1962年版ソウル市の『市政概要』によると「ソウル市の各種建設事業のなか市内全般にわたって舗装されてない歩道をセメントブロックで完全に舗装したことは画期的な事業の一つである」と記述され〔注10〕、また別の箇所には「裏路地はまだ未舗装状態にあるのが実情である」と記述されている〔注11〕。「施工状態面」については、そのような近年の舗装状態の向上が認識され評価されているものとみられる。一方で、都市の歩道全体を見渡せばまだ整備が必要な歩道も多く、ヨーロッパ諸国などに比べれば施工状態の向上に余地があることは否めない。劣

等であると低い評価を与える回答も少なくないのは、そのような理由によるものと考えられる。

一般歩道舗装と「文化通り」歩道舗装の比較において、「デザイン面」「色彩面」の優劣の評価が分散する傾向がみられたのは、「文化通り」の歩道舗装には特徴的なデザインが施されたものが多いため、好みが分かれたものと考えられる。

「文化通り」の舗装に関心を持って見たことがある人の比率より、そうでない人の比率のほうが上回っているが、それでも45%の人びとが関心を持って見たことがあると答えていることに着目すれば、特徴的にデザインされた各地の「文化通り」の歩道舗装は利用者にとって興味深いものであることがうかがえる。

韓国全体に分布している「文化通り」に使用されている歩道舗装材は「アスファルトまたはアスコン」「インターロッキングブロック」「粘土ブロック」で多くの割合を占める。アスファルトやアスコンは車道において車両の荷重を支えるため路盤の強度確保の必要から一般に非透水で施工されており、そのことによって都市洪水や地下水の枯渇現象を招いていることが問題視されている。歩道舗装に求められる物理的要求および感性的要求は、車道に対する要求とは違う。アスファルトやアスコンは、その工法上、グラフィックパターン等の展開を行うことがブロック工法に比べ難しいため、FSD展開をはかろうとするときには適切な材料とはいえない。

インターロッキングブロックは、現在、韓国の都市部の歩道舗装に頻繁にみられる材料である。調査の結果から、グラフィックパターン展開など舗装面の意匠の工夫を施した場合には、利用者の選好度合いは高まることがわかる。インターロッキングブロックの舗装は、厚さが80mm以上の高強度コンクリートブロックを表層に敷き並べ、ブロック同士の噛み合わせによって、交通荷重を広い範囲に分散させる方式の舗装である。原理はヨーロッパなどでむかしから使われて来た石畳舗装と同じであり、厚さが厚いだけでなく強度も大きいいため、歩道用だけではなく車道としても使われることも多い。他のブロック工法材料と比べると価格的なメリットが大きいため、パターン展開などの工夫を施して「文化通り」の歩道舗装に利用することは有用であるといえる。しかし、現在の韓国では、インターロッキングブロックの主素材であるコンクリート（セメント）の使用について、そのエコロジー評価の面において生活消費者と生産業者とのあいだに

論議が起こっている。インターロッキングブロックは、環境に配慮された自然にやさしい材料とはいきれないため、その活用には、エコロジー面についての慎重な検討と対処が求められる。特に「文化通り」のような地域の象徴となる通りの歩道舗装においては、環境調和に配慮した街路環境の象徴として自然にやさしい材料を活用することが求められる。その点では、粘土ブロックの有用性は高いといえる。

今回の調査においては、一般の人びとは粘土ブロックに対し特に高い選好をみせたとはいえないが、インターロッキングブロックに比べれば、粘土ブロックの評価は高い。粘土ブロックを評価する人は、粘土ブロックは親環境性が高いことをおおむね理解していることがわかった。ただし、イメージ写真を提示した選好調査の結果からは、街路や広場においてグラフィックパターン展開を施したときには、インターロッキングブロックとのあいだの材料の差異よりも、グラフィックパターン展開の図案のほうが選好心理に影響することが推測できる。インターロッキングブロックと粘土ブロックの外観上の相違は小さいため、粘土ブロック活用を推進するには、親環境性が高いという粘土ブロックの長所が社会的に認知される度合いをこれまで以上に高めていくことが重要となる。また、韓国において使用される粘土ブロックは赤色のものが多い。粘土ブロックによる舗装を悪く評価する利用者は比率としては少ないが、悪く評価する人びとの多くが嫌う理由にその色彩をあげている。赤色の粘土ブロックを単調に用いた場合、人びとの好き嫌いがはっきりしがちになると考えられる。アンケートの結果は、多くの人が、各地域の歩道舗装の色彩には見どころのある多彩な色彩が望ましいと考えていることを示している。事例イメージの評価においてグラフィックパターンが施された舗装の評価が高かったことからわかるように、粘土ブロックの活用のためには、色彩についての開発と利用の工夫が求められる。

「文化通り」のFSDのありかたについて、人びとは地域の特性を強調した差別化されたイメージを望んでいる。また、地域を象徴する地域色彩が必要であると考えている。しかし、64ヶ所の「文化通り」を現地調査した結果、地域の個性をあらわすように工夫がなされた例は、伝統模様パターンと地域性を表現した絵タイル、伝統的素材で地域の産物などを使った例がみられたものの、わずかに12ヶ所にすぎなかった。完成済みの「文化通り」においては、訪問者が印象的であったと名前をあげた6ヶ所を除くほ

とんどの箇所は、「文化通り」に指定されたといっても、街路そのものの特色より街路の周囲にある博物館・美術館、劇場、史跡名所、公園等の建造物等を通して「文化通り」のイメージが形成されている面が大きい。ソウル市にある「壽宮石垣通り」は、既存の道路を歩行者中心の道路として再整備し、歩行者のための歩車共存道路及び木陰が満ちている街路樹空間の概念を複合的に導入した韓国最初の事例である。そのFSDは、街路の他の要素と調和して特徴的な雰囲気をつくりあげている面で優れており、今後でも参考にすべき点が多い好例といえる。各地域に造成されている「文化通り」にはそれぞれのテーマがある。調査から各地域の「文化通り」においては差別化が望まれていることが示されており、それらのFSDにおいて、個別のテーマに合わせて地域の特色をどのように演出するか開発していくべき要件は多い。

## 7. まとめ

「文化通り」はすでに住民の活動領域として広く認識されている。現在、造成中あるいは計画中である「文化通り」もあり、今後「文化通り」を訪問する人数や頻度は増加することから、「文化通り」への注目と関心は高まることと思われる。本調査の結果からみれば、現時点において、人びとは日ごろから「文化通り」のFSDについて関心を高く有しているとはいえない。一般的な歩道舗装のFSDに対して関心は高くはない。しかし、FSDに関心を示す層の回答からは、地域的アイデンティティを示すものであること、親環境性が高いこと、これらの今日の韓国における社会要請に照応する要件について、人びとが「文化通り」のFSDに求めていることが検証された。今後も各地に増える「文化通り」は、地域の象徴となる通りとして認知と関心が高まることは間違いない。

本章では、街路景観向上への関心が芽生えてきた段階にある韓国の一般市民の「文化通り」のFSDに対する意識についての考察を行った。個性的なFSDのためのデザイン指針を導出することを今後の課題として研究を進め、報告を行う予定である。

## 注

- 1) 各地域では通りの特性に合わせて「一通り」「一文化の通り」「一路」「一文化の通り」など任意に表記している。文化観光部はこれらの通りの総括的意味として「文化通り：munkha keori」と表記する。本章では、それにならって「文化通り」と表記する。
- 2) 回答者属性の地域「その他」には大田市、清州市、濟州市がある。
- 3) 「壽宮石垣通り」は「文化通り」として指定されていないが、既存の道路を歩行者中心の道路として再整備し、歩行者のための歩車共存道路及び木陰が満ちている街路樹空間の概念を複合的に導入した韓国最初の事例である。
- 4) アスコン (ASCON) : アスファルトコンクリート (Asphalt Concrete) 混合物の略語。アスファルト、アスファルト混合物、HMA (hot mix asphalt) など、さまざまな名称を持っている。  
韓国アスコン工業共同組合編：アスコン技術総書第2冊「アスコンの知識」、32、1992
- 5) 非透水舗装が、ヒートアイランド現象のため都市洪水、地下水の枯渇現象を招来している。このような現象を防止するため、最近は道路や新規建造物周辺の舗装に、水膜現象を防ぐ方法として透水舗装、排水性舗装が利用されている。透水コンクリートを韓国では一般にツスコン (透水コン) と呼ぶ。  
韓国アスコン工業共同組合編：アスコン技術総書第3冊「透水性アスコンの製造及び設計施工法」、3、1992
- 6) 第二次製品型 (ブロック工法) は バラになっているブロックを一つ一つ人の手で並べて施工する。そのため、コストが高くなる。一方、部分的修理の際にブロックを取りはずし再利用することが可能である。また、種別の違うブロックを組み合わせてパターンを作ることができる。インターロッキングブロック、粘土ブロック、花崗岩ブロック等がある。
- 7) 街路を造成する歩道舗装の種類は多様であるが最も多く使用されるのはアスファルト舗装とコンクリート舗装であり、これらは現場施工型 (=ローリング工法) で造られる。アスファルト舗装は黒色なので黒色舗装、コンクリート舗装は白っぽいので白色舗装とも呼ばれる。部分的な補修工事を行うと、その部分の色の差が目立ち視覚的に良く

ない。また、補修においては新しい材料で施工するため、再工事費用が過剰に使われる。撤去されたアスファルト舗装とコンクリート舗装の再活用も試みられているが、いまだに明快な対応策には乏しい。

- 8) インターロッキングブロックは、1950年代に西ドイツでそれまでの自然石の舗装に代わる走行性の良い素材として車道使用を目的に開発された。その後、車道のみならず駐車場、広場、コンテナヤードを中心に、歩も含めて幅広く使用されてきた。日本では1970年代前半に西ドイツからその技術が導入された。当初は歩道を中心に普及してきたが、現在では一般車道やコミュニティ道路、ショッピングモールや交差点、駅前広場、駐車場やコンテナヤード等にも多く採用されている。インターロッキングブロック表面は、着色したコンクリートが使われている事が多いが、表面をテラゾー風にしたもの（小割りされた不規則な形をデザインに合わせて乱張りしたもの）や、天然石の板を張り付けたもの、ポリウレタン樹脂を張り付けて弾力性もたせたものなども使われている。

鈴木敏：景観舗装の知識、持報堂、46、1995

- 9) ソウル特別市史編纂委員会編：ソウル特別市史（解放後市政編）、589、1965
- 10) ソウル特別市編：ソウル市政概要、209、1962
- 11) 230、前掲書 10

## 第2章

### 韓国「文化通り」のフットスケープデザインの現況と分析

## 1. 研究の背景と目的

韓国の都市は、急速な成長によって先進諸外国の都市と比べても見劣りしないほどの近代化を果たしたように見える。しかし、都市の中における住居環境と住居地を囲む周辺環境は、生活者にとって快適な環境として作り上げられているとはいえない。無分別に開発された都市環境のなか、自動車交通を中心に整備された道路では歩行危険度が増している。日本においては、都市生活のなかで歩く機会が失われていくことの危機感から、人間性回復のために歩こうとする一日一万歩運動が1964年に起こった。その頃から、歩行者を優先とする、歩ける・歩きたくなる街づくりが都市計画の重要課題として扱われている〔注1〕。韓国では、人間を十分に尊重しない街づくりの結果、都市生活者は精神的・肉体的に脅威を受けている。そこでは個人の生活が脅かされるのみならず、他方で引き継がれてきた伝統と歴史が破壊され、現代的と形容される無個性で流動的な生活が広がっている。

韓国では各地域におけるアイデンティティの確立の必要性が察知され、地方自治体の要求や支援もあり、地域のイメージづくりなどが活発に行われるようになってきている。そのような地域事業が目標とする例として、各地域の歩行者専用道路として象徴通り (Symbol road) を作ろうとする動きがある。象徴通りは、都市の代表的幹線道路であり、都市の象徴になる街路である。象徴通りが都市構造の中軸になり、道端には都市を代表する建築物が存在する場合も多い。近年、特に、「文化通り」として位置づけられた象徴通りの形成に関心が持たれている。1990年度から1994年度のあいだに、政府文化観光部の主導で釜山をはじめとした10都市に「文化通り」が形成された。その後、各地で「文化通り」が形成され、2002年度の文化観光部の発表では「文化通り」は全国で82カ所にのぼる。これら韓国の「文化通り」は多くの人達が集合する歩行者専用街路として地域の象徴通りとなっており、それぞれの地域における代表的な景観のひとつともなっている。

それらの「文化通り」のフットスケープデザイン (Foot-scape Design: 以下FSDと記す) に着眼すると、歩行者に好印象を与えるFSDが施された「文化通り」がある一方で、地域を象徴する街路のFSDとしては考慮が足りないところも少なくない。これまでに各地の「文化通り」を通覧してそ

のFSDの展開の検証を行った研究はみられない。また、「文化通り」のFSDを開発する際に考慮すべき要件についても提言はなされていない。

本章では、韓国各地の「文化通り」について、その街路空間の特性を概括したうえで、「文化通り」のFSDの現況を調査し、それらの総合的な分析を通して現在の「文化通り」FSDの課題を抽出し、「文化通り」の街路空間特性に合わせた適切なFSDのあり方についての考察を行う。以上の作業から得られた知見を今後の「文化通り」形成の際のFSD開発の基本要件として提示することを目的とする。

## 2. 研究方法

本章では、まず、韓国の「文化通り」の各々の街路空間特性とFSDの現況を調査した。その現況調査から得られた結果について、それぞれの街路空間特性とFSDを整理したデータベースを作成した。続いて、データベースから、「文化通り」のFSDの現況について類型化を行い、また、街路の空間特性とFSDの関係性について考察を行った。

### 2.1. 「文化通り」現況調査

「文化通り」現況調査については、現地調査と自治体の担当者へのインタビュー調査を行った。

#### (1) 現地調査

2002年度の文化観光部の発表によれば、韓国内「文化通り」は82カ所ある。それらのうち竣工済みであった67カ所について現況調査を実施した。調査日は2003年4月12日～2003年5月11日のあいだの計6日である。調査は、すべて週末に実施した。デジタルカメラによる写真撮影によって、街路景観、FSDの現況パターンなどの記録収集を行った。写真撮影においては、通りの全体の雰囲気がかかるような遠景、通りの使用状況やFSDのイメージが伝わるような近景、そして、舗装パターンや工法が把握できる細部詳細を記録していった。写真撮影と並行して、街路の使用状況、舗装工法などを確認した。また、地域住民や「文化通り」の利用者に対して、通りの使用状況やFSDの印象などについてヒアリングを行った。

#### (2) 自治体担当者へのインタビュー調査

各地域の「文化通り」について、自治体管理担当部署の担当官に対し、電話による聞き取り調査を実施した。通りの名称、造成の経緯、通りの役割・性格、行われるイベント活動などの項目を中心に聞き取りを行っ

た。調査を実施した「文化通り」の数は69である。また、一部の自治体については、電話による聞き取り調査の補足として、ファックスによる記述回答を得た。これらの調査内容を整理して、「文化通り」の基本概要についてデータシートを作成した。

## 2.2. 現地調査データベース作成

現地調査で得られた結果から、各「文化通り」の街路空間特性とFSD特性を整理したデータベースを作成した。

それぞれの地域の「文化通り」において主に用いられている舗装パターンを選択し、その通りのFSDパターンとしてイラスト化を行った〔注2、注3〕。各「文化通り」について、通りの基本概要、街路の状況写真、FSDの現況写真、イラスト化されたパターンを一覧できるかたちでデータベース化を行った。データを整理した形式を図1に示す。「文化通り」全体のデータについて、舗装材料別またはパターン別にウェブ閲覧できるように整理した〔注4〕。

調査日	地域	調査数
2003.04.12 (土)	公州、扶餘	10カ所
2003.04.13 (日)	光州、南原、全州	14カ所
2003.05.04 (日)	大田	9カ所
2003.05.05 (祝)	茂朱	6カ所
2003.05.10 (土)	清洲、龜尾	12カ所
2003.05.11 (土)	安東、丹陽	16カ所

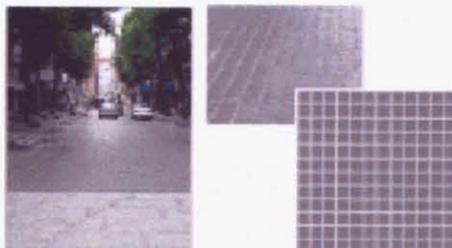


表1 調査実施日

都市名	ソウル市		
通り名	仁寺洞传统文化の通り(アングロータリー~テイルビルディング)		
通りの性格	文化芸術(美術館)		
道路類型	歩車共存道路	道路形態	直線型
舗装材料	瓦質の方?	材料強度	210kg/? 以上 施工費用 19億円
施工方法	2次製品型(ブロック工法)		
舗装デザインと造形要素	色彩	無彩色	
	形態	直線、四角、格子刑	
	パターン	リズム(反復)	
	地域性、その他	地域象徴性	
通りの雰囲気	伝統的な / 整頓された / 安全な / 曲調のある / 独特な / 地域的な		
通り利用者の有型	10・20代 / 観光客		
通りの性格に符合したイベント活動	仁寺洞传统文化祭り		
地域的特徴	地域の象徴物	仁寺アートプラザ	
通り造成の経緯	官・民中心		

図1. データ整理形式(事例: 仁寺洞传统文化の通り)

### 3. 韓国「文化通り」の街路空間特性

#### 3.1. 韓国「文化通り」の成立

人は誕生と共に一つの社会の構成員になり、その社会の文化を学びながら成長し、社会活動に参加するようになっていく。一つの社会は、内部構成員の生活の適応方式によって、また他の社会との接触を通じて、歴史的・社会的に変貌してゆき、それによって他の社会と区別される独特な特色を持つようになる。そのような社会の特色を、私たちは「文化」と称す。文化は、一つの社会をありようを表すものであり、内部においては社会を統合するはたらきをしたり、外部に対しては他の文化と差別化された独創性として受け入れられることによって経済的利益をもたらしたりする。

文化環境とは民族や歴史などの文化を内包する環境であって、ある地域で生活する個人は、地域文化を身につけることでその環境のもとで豊かな文化生活を満喫できるようになる。地域において、文化環境は、その地域で形成された個々の文化を活用して経済的利益を創出する背景ともなる。

今日多くの人びとが、独創性あふれる地域の文化活動を願っている。今日の韓国において、人びとの多くは都市に住む。近代以後急変した都市環境のなかで新しい通りの文化が創り出されている。各様各色の人びとが社会・文化活動を行うことで都市生活における通りの文化が形成される。韓国の「文化通り」は、文化観光部によって施行され、1990年代から多くの地域で設置が進められてきた。文化行事と祭りなどを活性化させて市民たちが地域の小規模な文化活動に参加出来るようになってゆくことで、より積極的な形態の文化環境を構築することを目的とする。「文化通り」は、文字通り各地域の文化の特徴を表すものとしての象徴通りである。よって、他の地域とは違ったその地域らしい性格を感じさせる独創性を持つことが求められ、その地域内の既存の道路とは差別されうる特徴が形成されていなければならない。しかし、韓国の多くの「文化通り」は地域の歴史性を手がかりにして作られているものの、歴史性の解釈と街路デザインへのその反映は歴史的モチーフの銘板への図像利用などにとどまっている。総じて、韓国の「文化通り」は、文化的アイデンティティが弱く、独自性が十分に形成されているとはいえない。

釜山といえば「釜山国際映画祭」を思い浮かべるほど、釜山市は文化都市というイメージが浸透しており、釜山市にある「piff（ピフ）文化芸術通り」は、映画祭という国際的行事を通じて、通りの独創的なイメージ形

成がなされている。映画祭の開催は、韓国の映画を海外に伝えることによる国家的な文化輸出に大きく寄与している。また、国内国外の映画マニアを釜山に引き寄せ釜山の文化を体験させることで地域の文化を伝える大きな役割を果たし、かつ、その周辺の商圈の活性を通じて経済的利益をもたらしている。釜山市の場合は、映画祭という特徴的なイベントを通じて「文化通り」の活性化に成功している。しかし、ヨーロッパなどの都市の象徴通りの場合は、特別にイベントが行われることがなくとも、その通りの建物と歩道等が有する伝統性と地域性そのもので人を引き寄せる魅力を持つことが少なくない。海外旅行者たちが好む国家や地域はほかの地域では見ることが出来ないその地域の過去と歴史と伝統を有しており、地域の象徴通りはそれらを感じることが出来る場所であって過去の姿がそのまま息づいているところとして存在している。

韓国の「文化通り」は、通常の公道と同様に公共サービス（移動経路・案内標識・電力/通信/上下水のインフラ設置など）としての機能提供が行われることに加えて、文化的活動が成立する場である。物的環境として街路を主軸に広場、公園、庭園などが配置され、そのような複合して形成された環境において、文化的な付加価値としての情報サービス（民俗・信仰・建物・風光・風習・歴史など）、娯楽サービス（宿泊・飲食・展示・学習・体験・参加活動など）、行事演出（企画イベント・祭り・公演・展示・講演・巡礼など）等、さまざまな文化活動が存在したり成立することによって、活気あふれる通りとなるように計画される。

「文化通り」は、地域に住む人々の文化的要求を盛り込む場として成立する。そのためには、環境の質的水準がよい場所に形成されなければならない。まず、市街のなかでの立地環境が重要となる。また、歩行者中心の空間として造成されるか、文化産業の各種の活動にとって有利かなど問われる。「文化芸術祭り」行事の実施は、「文化通り」に不可欠な躍動的要素を生み出して「文化通り」を活気に満ちたものとするために重要である。そのような行事や祭りを実行する可能性がある場所が選定され、その場所を核として通りが形成される。実際に各地域の文化通りを確認すると、人々が多く集まるショッピング街に位置し、自動車道路である各都市の大通りを挟んで歩行者専用道路が形成されている場所であることが多い。

「文化通り」には、三つの基本構成要素が関与する。ひとつは、その場所に存在する文化活動である。ひとつは、文化活動を包含する物的環境、

すなわち通りそのものである。そして、文化活動の主体である人が重要な要素である。これらの三つの要素は、通りを文化化するための構想や計画から、それらを具体化し、実際のプログラムを運営していくに至るまで、すべての過程で「文化通り」の成立と性格づけに大きく影響する。韓国の中小都市で行われている文化活動ないし祭り・行事は、その大部分が行進、歌謡大会、民俗ノリ（祭り）である。文化活動が盛んな通りの一例として、外国人観光客にも有名な「仁寺洞の文化通り」があげられる。そこでは、陶磁器の市場が頻繁に開かれ、民俗ノリ（祭り）が自由に成り立っている。そのことが、その「通り」の文化的性格を強化させていると共に、より多くの人々を引き入れる役目を果たしている〔注5〕。

「文化通り」は、人々が集う場となることで無形の要素としての「通り」が自然に形成されることで活性化されることがある。また、有形の要素として、物質的・空間的な佇まいによってその地域を象徴する通りになることがある。ほかにも、遺跡や博物館のように地域の歴史と伝統を垣間見ることができる場所をその範囲に含む通りも「文化通り」としての役割を果たす。どのような有無形の要素を持ち合わせようと「文化通り」はその地域の顔となって、その地域の文化を代弁している場所としての性格を有する。

### 3.2. 「文化通り」の街路としての役割

「文化通り」の街路としての役割を整理してみる。英語において、街路“Street”という単語は、ラテン語で「舗装する（To Pave）」の意味である“Strerence”に由来する。建物構造物に関連した“str-”というラテン語の語根から派生された他の英語の単語に関係することばである。街路は地域の骨格とフレームを形成する重要な要素である。地域住民の生活の多くが街路から成り立っており、住民がお互いのコミュニケーションを行う空間としての役割を果たしている。それぞれの街において、地域住民たちの意識と行動を内包した地域イメージを形成する重要な要素となる。したがって、「文化通り」の役割においても、地域住民にとっての各種のコミュニケーションを行う場所として重要機能がある。それ以外に「文化通り」が果たすべき機能には以下のものがある。

#### （1）社会的機能

都市の住民たちは、街路においてほかの人たちと接触することが非常に多い。街路は、出会いの場所、休息の場所、娯楽の場所などとして、人び

との交流の空間であるとともに、人びとが多様な形態の活動に参加して楽しさを得る空間としての機能を有する。「文化通り」は街路として、単純な出会い・休息・娯楽の場の提供にとどまらず、その地域の住民たちと地域の文化を体験かつ共有しながら交流することが出来る場として機能しなければならない。また、街路が、ほかの地域と区別されうる固有の地域性を有すれば、同一の地域の住民のみならずほかの地域の住民たちと一緒にコミュニティが行える空間としての役割を持つようになる。

## (2) 経済的機能

個性ゆたかに形成された通りには人びとが集まってくる。通りが活性することはその周辺地域の産業を活性化させることにつながる。「文化通り」に地域の文化を体験することが出来る有形無形の要素を取りそろえ、一般市民に積極的な文化活動への参加を誘導することは経済的活動の誘引となる。今日、観光産業は、地域あるいは国家の経済において大きな役割を果たしている。観光は、異なる社会の歴史や文化を体験することを通して、人間の社会、文化的現象として人間生活を構成する重要な文化活動の一部と認識されている。

現代に生きる人びとは、公の場やイベントにおいて、あるいは私的な活動によって、過去の文化から現代の新しい文化まで数多くの接触を行っている。今日、文化生活の一手段として観光が占めるウエイトは大きい。韓国では、観光の需要層は、経済的に安定した社会的にある程度の位置を占める階層を中心としながら、より大衆的に拡散している。

また、観光は、個人の文化的生活の質に寄与する要因にとどまらず、国家の経済的利益面にかかわる要因であり、その重要性は年々大きくなっている。最近、活発に発言される「文化観光」は、このような観光の側面をそのまま反映した言葉といえる。辞典的な意味として「文化観光」は、遺跡、遺物、伝統工芸、芸術などが保存されている地域、または人が文化的にゆたかだった過去の時代に視点を合わせて観光する行為である。世界観光機構(WTO)によれば、「文化観光」の目的は、遺産などの文化資源を観光することによって地域の文化を理解することと、その文化を記念する文化的な品々を入手することである。「文化観光」は、地域や国家の伝統と生活様式を理解しやすく提供することによって、観光の享受者に新しい知識と経験をもたらしその知的欲求を充足させる事業である。そして、社会

や国家のあいだに活発な交流を導き相互理解の幅を広めるとともに、地域や国家にとって利益創出を生み出す。

「文化通り」が文化観光としてひとつの活動の姿を提示したものと考えれば、その役割は、これからの韓国を担う世代に自国の文化を見せその文化を継承していくためのアイデンティティ確立の場であるとともに、国家の競争力向上のため商品としての経済的機能を有する場であるといえる。

### **(3) 自然親和、環境調和機能**

街路は、人びとが行き来する公共の連絡通路として都市の顔であり、快適な街路環境の造成は何よりも重要である。街路は周囲の生活環境と密着しており、自然親和的な環境形成について考慮がなされる必要がある。「文化通り」はその地域に根ざした文化要素をとりいれながら形成されるため、一般街路に比べ、その環境形成では自然親和的なアプローチが容易である。さらに、街路が活性化されることで、その地域住民たちが街路に対する誇りを持つようになる。また、街路環境に対する関心度が高まれば、街路環境をつくりあげていくことに住民の積極的な参加を誘導することが出来るようになる〔注6〕。

### **(4) イベント機能**

表1に示すように、「文化通り」全体のうち、50%ほどの箇所イベント活動が実施されている。このほかに、各自治体はイベント活動と公式行事、また文化商品の開発を通じて、総合的な地域文化を体験できるような「文化通り」行事を計画している。しかし、一方では、まだ「文化通り」として指定されているだけにとどまっていた、「文化通り」としての具体的な役割を果たしていないところも多い。また、仁寺洞の「文化通り」のように伝統的な性向が強かったり、鴨鳴亭洞のロデオ通りのように商業の場所としての性向が強く現れているところもあるが、ほとんどの「文化通り」は、街路の性格が不明確である。「文化通り」としての統一イメージを形成できていないところは少なくない〔注7〕。「文化通り」の活性化のためには、魅力的な「文化通り」行事が計画され、より持続的で積極的な広報が行われていく必要がある。

都市名	通り名	有無	活動内容
ソウル	先史文化の通り	○	江洞先史文化祭り
	落星岱文化芸術通り	X	
	大学路文化芸術の通り	○	大学路 通り祭り
	中央大文化の通り	X	
	家具の通り	○	ウエディング家具祭り
	淑明大前文化の通り	X	
	聖水大橋 南端通り	X	
	仁寺洞伝統文化の通り	○	仁寺伝統文化の通り
	ウエディング通り	○	ウエディング家具祭り
	素月の通り	X	
	九老5洞通り公園	X	
	陽川区文化芸術の通り	X	
	論現家具文化の通り	○	論現家具祭り
	瑞草文化芸術の通り	X	
	城北区伝統文化の通り	X	
	ロデオファッション文化の通り	○	ロードファッションショー
	情報通信通り	X	
貿易金融の通り	X		
釜山	龍頭山 文化の通り	○	日韓文化交流伝
	月見丘文化の通り	○	月見丘 夜景
	デズラク文化の通り	X	
	Piff 文化の通り	○	釜山映画祭
	鎮区文化の通り	X	
大邱	領南花郎路	X	
	薬令市文化の通り	○	薬令市祭り
	ワールドカップ競技場	X	
全北	鳳山文化の通り	○	鳳山美術祭
	全州歴史の通り	○	伝統婚礼体験行事
	茂朱文化の通り	○	蛍の祭り
全南	全州文化の通り	X	
	王仁文化の通り	X	
慶北	都市汎文化の通り	X	
	安東食べ物通り	*	
	龜尾中央路	○	文化路祭り
	安東文化の通り	○	青少年たちのためのダンス大会
慶南	浦項文化の通り	*	
	昌原用地文化ベルト	○	通り祭り
仁川	昌原文化芸術会館	*	
	月尾島文化の通り	○	月尾祭り
光州	光州芸術通り	○	パフォーマンス
	温泉路文化の通り	○	儒城温泉文化祭
大田	大田文化芸術の通り	X	
	ウヌンジョイ文化の通り	○	ウヌンジョイ祭り(大田全地域で)
	文化の通り	X	
京畿道	文化芸術の通り	*	
	河南 文化の通り	X	
	茶山文化公園内文化の通り	X	
	光明文化の通り	○	通り祭り
	松炭観光特区文化の通り	○	通り祭り
	葛州 文化の通り	○	展示会、風物遊び
	河南 文化芸術祭り	X	
	羅憲錫、洪蘭坡の通り	○	展示
江原道	烏山文化の通り	○	通り祭り
	平澤文化の通り	○	通り祭り
忠北	江陵文化の通り	X	
	江陵船橋荘	X	
忠南	中央路 文化の通り	○	ソンアンキル祭り
	丹陽	○	オンダル文化祭り
	天安アラリーヨ広場	○	マダン遊び、人形劇
済州	扶餘文化の通り	○	百濟文化祭
	公州 百濟文化の通り	○	熊津城守門兵 勤務交代式
	ディペア博物館	X	
	李仲燮通り	○	李仲燮通り野外展示
	中門通り	X	
	城山一出峰	X	

表2 各地の「文化通り」で実施されるイベント活動

( ○ - 有り、× - 無し、\* - 不明 )

## 4. 韓国「文化通り」の FSD 現況分析結果

### 4.1. 韓国「文化通り」FSD の総合的分析

韓国「文化通り」の FSD は、通りの性格から、ほかの車道と併置して設置される一般の歩道より、多くの配慮がなされている。全国の「文化通り」のなかの歩車共存道路、歩行者専用道路をあわせて 66% になる。

それらの道路構成は、大きく 2 つの種別に分けられる。ひとつは、道路の平面、縦断、幅員構成など幾何的構造、交差点などの要所、街路樹、舗装材など道路を構成する要素が街路景観を個性化する道路の構成である。もうひとつは、美的関点に特殊な視覚的効果のある街路パターンをおく道路の構成である。現況調査を通して、韓国「文化通り」においては、この 2 つの道路構成のうち後者のパターンが多く表現されていることを確認することができた。調査した韓国「文化通り」63ヶ所の舗装工法を見れば、ローリング工法のアスファルトが約 41% で一番多く使われている。[図 2、3] 高圧セメントブロックが 30% と高く [図 9]、種々の工法を含めるとブロック工法は約 59% となる [図 4、5、6、7、8]。この調査から、全国各地で多く使われてある高圧セメントブロックの取り扱い手法において、彩度高い色の取扱いが多いことが確認できた [図 9]。韓国においてインターロッキングと呼称される高圧セメントブロックは、その粉塵が人体に優しくないセメントで造られたものである。また、前報で行った意識調査ではインターロッキングは歩行者の心理に不快感を与えるという結果が確認される [注 8]。高圧セメントブロックの原色に近い色使いは環境に配慮する色としては適切ではない。韓国「文化通り」の街路パターンとして、高圧セメントブロックを用いた単純な点、線、面の構成が多かった [図 9]。

### 4.2. 韓国「文化通り」の通りの性格による FSD の分析

現地調査の結果を通して、韓国「文化通り」の FSD 現況を概括する。表 5 に示すように、街路の性格としてほぼ半数の「文化通り」において商店街が中心となっている。韓国の場合は駅前を中心に形成された「文化通り」は 2% に過ぎない。日本では各地域の交通拠点としての鉄道駅を中心に中央路（メインストリート）が設置されているケースがよくみられることにくらべると、その比率は非常に小さい。これは各都市の「文化通り」となった街路が、鉄道駅を中心に都市計画的に設置されたものではなく、地域の歴史のなかで地域に居住する住民の各種の慣習から多くの人通りが生じ

たもの、特に地域の生活に密接に関わる施設（市場、行政府、寺社など）の周辺に形成されたものが多いことを示していると推定される。また、偶発的に発達したものとして、自然と多くの人通りが生じた通りであるケースも考えられる。

### 4.3. 韓国「文化通り」道路の分析

#### （1）韓国「文化通り」道路類型に対する分析

韓国「文化通り」の道路類型は、歩行者専用道路が30%であり、歩車共存道路の36%を合わせると全体の66%が歩行者が通行する道路として形成されている。歩車共存道路の多くは、通常は自動車の通行を主としながら時間制で歩行者専用道路として機能している。住居地域または商業地域において、歩行者の安全のために通過交通が起こりにくいように道路の物理的構造が工夫されている先進事例としてはオランダで実施されたボンネルフや日本のコミュニティ道路があげられるが、調査時においてそのような道路形態として設計された「文化通り」は存在せず、「文化通り」以外において2005年12月に完成したソウルの新村李花女子大学正門前の事例が確認されるのみである〔注9〕。一般道路である32%の街路は、車道の脇に歩道が設置された構成となっていて車道が中心となっている。道路の形態が歩車共存道路であるときはあくまで車道が中心とされる場合が多いため歩道の安全性と快適性が十分に考慮されていない。また、それらの歩車共存道路はローリング工法のアスファルト施工例が多いことが確認された。

#### （2）韓国「文化通り」道路の形態分析

道路の形態は直線型が多い（表6）。広場連絡型においては、街路が折れ曲がる部分、十字路としての交差部分、あるいは街路の途中で少し広い敷地がある部分に、広場を設置しているところが多い。これらの広場は、道路連絡の役割を果たす。全州、安東の「文化通り」において、広場の設置を念頭にして計画された事例を見ることが出来る。

#### （3）韓国「文化通り」の道路舗装材分析

表7は、それぞれの舗装材料が使用されている「文化通り」の数について、全体の「文化通り」に対する比率を示したものである。複数の舗装材料が使用されている場合は、それぞれ別に計上した。人工材料であるアスファルトと高圧セメントブロックを合わせた比率（71%）と自然材料である石材と粘土煉瓦を合わせた比率（73%）がほぼ等しい。韓国の「文化通

り」に相当するようなヨーロッパや日本のメインストリートにおいては、親環境的素材である自然材料の使用の割合が高いことを考えると、韓国の「文化通り」では、人工材料が使われている箇所が自然材料と同様に高いことがわかる。「文化通り」についての行政担当者の説明では、自然素材の施工費・維持費が高いから人工材料が多く用いられるということである。なお、これらは「文化通り」の統計であり、ほかの一般道路の歩道の舗装材料を考えれば高圧セメントブロックの比率はかなり高くなる。外国においては、FSDに変化を与えるため各種の舗装材料を多様に配置して設計された事例が多くみられるが、韓国では違った種類の舗装材料を組み合わせて使う事例はほとんどみられなかった。数少ないものとして、安東、茂朱でブロック別材料をわけて使った良い事例があげられる[図4、6]。

現況調査において、63個所の「文化通り」の中で商店街を中心とするところは33個所だった。これらのほとんどは、すでに形成されていた商店街の街路を「文化通り」に指定して環境整備を整えたものである。商店街中心「文化通り」の舗装工法は、ブロック工法を用いているのが22個所であり、アスファルトのローリング工法を用いているのが15個所であった。ブロック工法の場合、石板材か小舗石のかたちで大理石・花崗岩合わせて石材使用が17個所と多く、次にインターロッキングと呼ばれる高圧セメントブロックが13個所であった。ブロック工法のほかの材料としては、粘土煉瓦、木、タイル等が使用されていた。ローリング工法におけるアスファルト材は、赤色か青色の有色のものが多く使われていた。日本や欧米では商店街中心のメインストリートにおけるFSDがよく発達しているが、韓国の「文化通り」の場合はローリング工法のアスファルトで施工されている事例が多く、地域的特性を表現した事例は少ない。その点で、これからの開発余地が大きい。商店街中心「文化通り」33個所のなかには、同時に文化、観光あるいは美観地区として形成されているところが9個所ある。これらは単純にショッピングのための場所ではなく、文化生活空間としての目的を持ち合わせた場所である。これらの「文化通り」は、昔から多くの人々が集まる在来市場を中心にして「文化通り」が形成されている。これらの「文化通り」では、アスファルト舗装の劣悪な状態にあったものを、新しく「文化通り」として計画された際に新しくFSDが整えられたところがほとんどである。また、同じく、街路全体の環境も整備されている。

地域別(節所)	「文化通り」の名	地域	施工法 ブロック ロッキング	舗装材料	通りの性格					道路類型			イメージ類型/地域的表現
					a 商業地区	b 文化観光地区	c 住居地区	d 集積地区	1 一般道路	2 歩道 歩道 歩道	3 歩行者専用道路		
ソウル(18)	大学路文化芸術通り	鍾路区	●	高圧セメントブロック		●	●	●	●	●			休息のFSD
	仁寺洞 伝統文化通り	鍾路区	●	瓦質煉瓦		●							休息のFSD
	淑明女子大 学校前文化通り	龍山区	●	粘土煉瓦、植材用ブロック	●					●			ショッピングのFSD
	景月の通り	城東区	●	高圧セメント、粘土煉瓦、アスファルト			●						休息のFSD
	果川	果川市	●	アスファルト、高圧セメント、磁器材タイル、花崗岩				●					
	伝説文化通り	城北區	●	高圧セメントブロック、アスファルト			●						祈願のFSD/伝統模様パターン
	文化芸術通り	陽川区	●	縮タイト、花崗版石、高圧セメント煉瓦				●					休息のFSD/韓国的な縮タイト
	ウェディング通り	西大門区	●	芝、高圧セメントブロック		●							ショッピングのFSD
	家具通り	西大門区	●	有色アスファルト、高圧セメントブロック									ショッピングのFSD
	九老5洞文化通り	九老区	●	粘土煉瓦、高圧セメント煉瓦、小石埋入舗装				●					休息のFSD/土石材料を利用、独特なパターンと層層砂利
	中央大文化通り	銅雀区	●	粘土煉瓦、飛路舗装、高圧セメント煉瓦、花崗版石、アスファルト	●			●					休息のFSD/地域的パターン
	瑞草堂文化通り	冠岳区	●	アスファルト、高圧セメント煉瓦			●						休息のFSD/伝統模様パターン
	文化芸術通り	瑞草区	●	高圧セメント煉瓦			●						休息のFSD/伝統模様パターン
	ファッション文化通り	江南区	●	大理石、木、高圧セメントブロック		●							ショッピングのFSD
	憤憤通り	江南区	●	花崗岩、アスファルト		●				●			ショッピングのFSD
	聖水大橋開通通り	江南区	●	アスファルト、高圧セメント		●							ショッピング、サインのFSD
	貿易会館通り	江南区	●	花崗岩、透水コン		●							ショッピング、その他のFSD
	先史文化通り	江南区	●	高圧セメントブロック		●							休息のFSD
釜山(5)	PIFF文化通り	中区	●	装飾性、粘土煉瓦、花崗岩		●	●						ショッピング、休息のFSD
	テスラク文化通り	中区	●	有色アスファルト、花崗岩			●						ショッピングのFSD
	龍山山文化通り	中区	●	高圧セメントブロック、小礫石、粘土煉瓦	●								ショッピング、休息のFSD
	釜山鎮区文化通り	釜山鎮区	●	高圧セメントブロック			●						
	月見丘文化通り	海雲臺区	●	アスファルト、粘土煉瓦			●						
大邱(2)	鳳山文化通り	中区	●	有色アスファルト、高圧セメント		●	●						ショッピングのFSD
	慶命市通り	中区	●	花崗岩		●							ショッピングのFSD
仁川(1)	月尾島文化通り	中区	●	有色アスファルト、粘土煉瓦		●	●						休息のFSD
光州(1)	芸術通り	東区	●	アスコン		●	●						ショッピングのFSD
大田(3)	温泉路文化通り	備城區	●	花崗岩			●						
	ウズンジョイ文化通り	中区	●	有色アスファルト、花崗岩									ショッピングのFSD
	文化通り	中区	●	有色アスファルト		●							ショッピングのFSD
蔚山(2)	文化通り	中区	●	高圧セメントブロック				●					ショッピング、休息のFSD
	文化芸術通り	南区	●	高圧セメントブロック、花崗版石									
京畿道(9)	羅漢橋、洪慶波通り	水原市	●	粘土煉瓦、花崗版石		●	●						ショッピング、休息のFSD
	城南文化通り	城南市	●	粘土煉瓦、アスファルト、高圧セメント煉瓦									ショッピングのFSD
	光明文化通り	光明市	●	有色アスファルト、金属板		●							ショッピングのFSD/ 伝統模様タイル、地域象徴タイル
	平澤文化通り	平澤市	●	高圧セメント煉瓦、有色アスファルト		●	●						ショッピングのFSD/ 地域象徴パターン
	松坡観光特区文化通り	平澤市	●	地域象徴金属板、磁器材タイル、花崗版石									ショッピングのFSD
	釜山文化公園内文化通り	唐橋州市	●	粘土煉瓦、花崗版石			●						休息のFSD
	河南文化通り	河南市	●	高圧セメント煉瓦、アスコン									休息のFSD
	羅州文化通り	羅州郡	●	地域象徴タイル、有色アスファルト		●							ショッピングのFSD/伝統タイル
	島山文化通り	島山市	●	有色アスファルト			●						ショッピングのFSD/ 地域象徴パターン
江原道(1)	江陵文化通り	江陵市	●	高圧セメント煉瓦、タイル		●	●						ショッピング、その他のFSD
	中央路文化通り	清州市	●	磁器材タイル、花崗版石、装飾的パターン		●							ショッピング、休息のFSD/ 伝統模様パターン
忠北(2)	丹陽文化通り	丹陽郡	●	粘土煉瓦、花崗版石、高圧セメント煉瓦		●	●						遊び、休息のFSD
	天安文化通り	天安市	●	粘土煉瓦、花崗版石、高圧セメント煉瓦		●							ショッピング、休息のFSD
忠南(3)	百済文化通り	公州市	●	有色アスファルト			●						休息のFSD
	扶餘文化通り	扶餘郡	●	高圧セメント、アスファルト、地域象徴装飾板									休息のFSD/伝統模様タイル
全北(3)	麗安通り	全州市	●	瓦質煉瓦、花崗版石		●	●						ショッピング、休息のFSD
	全州文化通り	全州市	●	花崗版石、小礫石									ショッピングのFSD
	茂朱文化通り	茂朱市	●	粘土煉瓦、小礫石				●					
全南(3)	都市汎文化通り	木浦市	●	アスファルト、高圧セメント				●					
	壬仁文化通り	麗巖郡	●										休息のFSD
	羅州文化通り	羅州市	●										休息のFSD
慶北(4)	安東食べ物通り	安東市	●	磁器材タイル、花崗版石、小礫石		●							ショッピングのFSD/ 伝統文化タイル
	安東文化通り	安東市	●	有色アスファルト			●						ショッピングのFSD
	浦項文化通り	浦項市	●	粘土煉瓦									休息のFSD
	文化路	龜陽市	●	アスファルト									ショッピングのFSD

表3 韓国文化通り FSD 分析表

その事例として、伝統的舗装材料を使った全州「歴史通り」、多様なパターンと舗装材料を使った安東「文化通り」、粘土ブロックで多様なパターンを創り出した茂朱「文化通り」、地域の産物である石を使った「羅州文化通り」などがある。

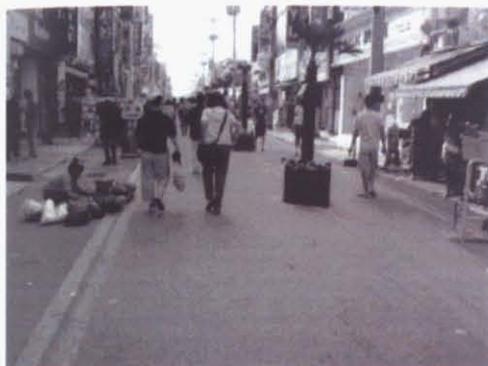


図 2. 驪州文化路、



図 3. 大田 ウヌンジョンイ文化路、



図 4. 茂朱郡庁前 「文化通り」



図 5. 清州「文化通り」



図 6. 安東食べ物通り



図 7. 全州伝統「文化通り」

#### 4. 4. 地域性表現の事例

各地域の象徴性を表現した事例は、タイルを用いて地域の遺物か地域名を絵に表現した物が殆どだった。地域の象徴通りとして設置した「文化通り」であるにも関わらず各地域の象徴性を表現した所は29%に過ぎなかった。公共景観要素である「文化通り」においては、もっと積極的に地域のアイデンティティ確立のために活用する必要がある。そのための条項を道路舗装奨励事項に含めることで、波及効果が大きくなると考えられる。



図9 各地の文化通り

通りの性格	商街中心	文化芸術中心	公園中心	オフィス中心	リゾート・観光	官庁	駅前
比率	48%	25%	23%	11%	9%	7%	2%

表4 韓国「文化通り」の性格分析表

道路類型	歩車共存道路	歩行者専用道路	一般道路	広場
比率	36%	30%	32%	7%

表5 韓国「文化通り」道路類型分析表

道路の形態	直線型	広場連絡系
比率	75%	20%

表6 韓国「文化通り」道路の形態分析表

舗装材料	石材	アスファルト	粘土煉瓦	高圧セメントブロック (インターロッキング)
比率	43%	41%	36%	30%

表7 韓国「文化通り」舗装材料分析表

地域性表現内容	地域象徴性	装飾性	単純象徴
比率	29%	28%	14%

表8 韓国「文化通り」地域性表現内容分析表

## 5. 考察とまとめ

韓国「文化通り」で見られる歩道舗装の工法は、アスファルトのローリング工法が41%、他の材料を用いたブロック工法が59%であった。アスファルト舗装は、経済的で施工が容易であることが利点である。しかし、歩道の快適性と視覚的楽しみなどの美的要素については、ブロック舗装がはるかに優れているとあってよい。走行車両に対する耐荷重や磨耗率など物理的機能を優先しなければならない車道と違って、歩道においてはそれらの物理的機能への要求は小さい。「文化通り」のような歩行者を重視した空間におけるFSDは視覚的楽しみを与える美的機能が重要である。多くの「文化通り」のFSDでは、美的機能への配慮が十分とはいえない。「文化通り」のような歩行者重視の街路におけるFSDの進展のためにはブロック舗装技法の研究が重要である。多様な素材や形状のブロックが開発され、またその組み合わせ技法や設計手法が開発されることで、ブロック舗装による表現の自由度が向上する。そのことが、それぞれの街路における地域のアイデンティティ伝達と優秀景観形成の展開をうながすといえよう。この点について、材料メーカー、施工会社、自治体、設計者の関心の高まりが要求される。以上のように、ブロック舗装工法にはFSDパターンの多様な表現の可能性がある。日本では、美的向上や地域個性化の面において高い効果のある技法として代表的景観舗装として多用されている〔注10〕。

歩道舗装材料としては、石材、粘土ブロック類などの自然素材と、アスファルト、高圧セメントブロックなどの人工素材が現在はほぼ同じ比率で使われている。今後は、日本で試みられている「歩いて暮らせる街づくり」の事例にみられるような、歩行者優先の精神をもって、健康にやさしく、また親環境的な空間形成をめざし、「文化通り」のFSDにおいては自然素材の使用を積極的に進めるべきである。

韓国「文化通り」において地域特性を表現しようとした事例は少なく、絵タイルを用いて地域の遺物を表現したり、同様に地域名をグラフィック化したものが見受けられるにすぎない。FSDにおいて地域の文化的特徴を独創的に表現できるようにするための方法論の研究が必要である。「文化通り」は地域の象徴通りとしての役割をはたすものであり、そのFSDは、地域のアイデンティティの表現をとりいれながら、総合的な景観としてふさわしいものとしてデザイン処理されなければならない。この点において、

韓国のFSD開発は端緒にすぎたばかりであり、今後多面的に研究されていかなければならない。

#### 注

- 1) 石井一郎編：都市景観の環境デザイン、森北出版、2-3、2000
- 2) 一カ所の「文化通り」において、主に用いられる舗装パターンが1種類に限定できない場合は、複数の舗装パターンについてのデータ化を行った。
- 3) 韓国「文化通り」以外に、日本、ヨーロッパにおいて確認できた街路の舗装パターン事例についてもイラスト化も行った。
- 4) 作成したデータは下記のアドレスで公開している。(2005年10月時点) <http://paving.nabia.net>
- 5) Yoo Byung Lim：文化芸術通り（計画と実際）、文化体育部、20-26、1996
- 6) 金炳錫：文化藝術の通り計画および活成方案に対する研究忠武路映像・映画の通りを中心に、漢陽大学都市大学院修士学位論文、6-7、1999
- 7) Jeong Gang hwan：イベント広告戦略祭りと地域活性化、イルシン出版（ソウル）、29、1996
- 8) 金明蘭、樋口孝之、宮崎清：韓国「文化通り」の歩道舗装デザインに対する利用者意識地域的・親環境的フットスケープデザイン開発のための研究(1)、デザイン学研究、52、6、\*-\*、2006
- 9) ボンネルフとは、生活道路で自動車のスピードがあまり出ないような物理的構造にして、歩行者、自転車、徐行する自動車が安全に共存することのできるようにするものである。オランダ語で住民地域の意味としてボンネルフという言葉が用いられている。コミュニティ道路はオランダのボンネルフをまねて、日本では歩道をレンガ舗装などとして遊歩道化したり、ところどころで歩道を広げて車道に屈折部をつくって自動車のスピードを落とすようにしている。1980年、大阪市長池に設けられた「ゆずり葉の道」が日本における最初の例である。  
前掲1、8-9
- 10) 建設省道路局企画課道路環境対策室編：景観舗装ハンドブック、大成出版、21-33、1995

第3章  
街づくりにおける日本のフットスケープデザインの事例研究

## 1. 研究目的

地域づくりの観点からみれば、フットスケープデザイン (Footscape Design・歩道舗装デザイン；以下FSDと記す) において、地域特性の形成が大切である。街路景観に風土性を与えることは、個性をもたらすばかりではなく、地場産業の振興上も大きな意味を持つ。街路景観の形成に際しては、“地産地消”のように地場で産する素材や地場産業の製品を積極的に活用すべきである。舗装材として石材や陶磁器質タイルの舗装材、鋳物の欄干や駒止め等にすぐれた活用事例が見られる。他方で、今日の地球環境意識の高まりの中で親環境的な舗装材の活用も求められる。透水性のあるブロック舗装材の開発など多様な舗装材の開発が進んでおり、それらを活用したFSD展開が要求される。

本章では、前章において韓国の「文化通り」に関するFSDの現況を論じてきた[注1]。韓国の「文化通り」には、地域の伝統を生かした良いFSDの例がほとんどみられなかった。しかし、ヨーロッパと日本のFSDの事例には伝統性と多様性が広く見い出せる。ヨーロッパは、近代技法につながる道路舗装が発生した地域である。古代以来の長年の歴史から各種の舗装方法が展開されている。石材（小舗石舗装が主流）舗装について特にゆたかな伝統を有する。日本は、近代化以後にヨーロッパの事例に学びながら、舗装技術を向上させ、FSDを進展させてきた。近年の歩行者向け通りの整備は、地域のアイデンティティを形成しようとする街づくり運動の動きのなかでつくられることが多い。通りの整備にあたっては、行政や地域住民や事業者が関与して計画がなされ、各地域ごとにその環境や文化の特性に配慮しながら進められている。通りのFSDも地域の特性を反映させる傾向が強くみられ、地域ごとに多様なFSDを展開している。また、親環境的なFSDも推進されている。

本章では、既往研究に基づく日本各地の歩行者向け通りについてその成立状況の確認ならびにそれらの通りの実地調査を行い、事例調査を通して街づくりのなかで整備される歩行者向け通りのFSDの形成のありかたについて考察を行う。本章におけるFSD事例の情報解析は、親環境的配慮ならびに地域的特質を反映するFSD開発ならびに研究の推進に資するものとなる。

## 2. 研究方法

本章では、首都である東京（ならびに近郊）、東京に次ぐ規模の大都市、地方における大都市（政令指定都市）ならびに文化的特色を有する地方都市の歩行者専用道路（一部に歩車共用道路を含む）の計 25 箇所について、その FSD の様相の調査を行った。それらの道路は、全体を通覧したときに韓国の「文化通り」と比較するのに適切であると考えられる通りを選定した。都市の選定、通りの選定においては、道づくりに関する先行研究の文献調査を参考にした。各地において、主要な駅前に位置する中央商店街の通り、ならびに特徴的な歩行者専用道路について調査を行った。調査は、2003 年 1 月から 2005 年 1 月のあいだに、4 回に分けて実施した。1 回目は 2003 年 1 月 23 日から 30 日までの期間に、東京[新宿]、名古屋市、大阪市、神戸市、倉敷市、岡山市、広島市、萩市、長崎市、福岡市において、2 回目は同年 7 月 15 日から 20 日までの期間に、東京[浅草]、横須賀市、横浜市[元町伊勢崎モール]、千葉市、武蔵野市において、3 回目は 2004 年 1 月 12 日から 20 日までの期間に、東京[用賀町]、盛岡市、仙台市、千葉市において、4 回目は 2005 年 1 月 20 日から 27 日までの期間に、東京[恵比寿]、姫路市、八王子市、甲賀市（信楽）、伊丹市、京都において行った。

調査方法は、以下の通りである。まず、各都市において観光案内・道路案内説明等の情報を参照し、あらためて地域内の通りを確認したうえで、主要な歩行者向け道路を選出した。各通りの景観と FSD の状況について観察し、近景、中景、遠景をデジタルカメラにより撮影し記録した。ブロック舗装で施工された場所においては、配列方法をわかりやすく記録するために部位ごとの近接撮影を行った。収集された配列方法については、各通り毎に分類整理を行った。並行して、各地域の街づくりに関する資料を収集した。盛岡市では市役所観光課、浦安市では市役所土木課において道づくりに関してのインタビュー調査を行った。それら実地調査から得られた FSD データを整理し分類したデータベースの構築を行った。地域別に素材ならびに配列方法を登録した。さらに、調査した通りについて、FSD の色彩、パターンデザイン特性、施工法、舗装材料、イメージ分類 [注 2]、通りの性格などを分析して図表化した。構築されたデータベースについては、ウェブサイト(韓国語)を制作して公開し、広く FSD 研究者ならびに FSD 開発実務者の基礎資料となるように情報提供を行う [注 3]。

### 3. 日本のFSD（歩道舗装デザイン）

#### 3. 1. 歩行者のための道づくり意識の高まり

日本では、1960年代までの高度経済成長時代に道路交通機能を整備するための道づくりが推進された。1970年代以降、街づくり・地域づくりが全国的に行われるようになった。1984年6月の内閣官房広報室による「魅力あるまちづくりと住民参加に関する世論調査」において、居住地域を美しく快適にするため「道路・公園などの公共施設は潤いあるものにする」と住民が国や地方団体に期待することの1位(36.5%)にあげられている。日本の住民が1980年代には、潤いある街づくりを強く望んでいることがわかる。そのような街づくりに関する住民意識の高まりに呼応して、街路景観に配慮した道路整備が行われるようになっていった。今日では、日本のFSDは、韓国からの視点で見れば欧米に比肩するといえるほどに、多くの優れた点を有している。

1982年の道路審議会において、道路整備のあり方について、従来の道路整備が機能本位で行われていたのに対して、親しみと潤いのある道路づくりを掲げ、「人間性豊かな道づくりの推進」「安全で快適な歩道の充実」「緑豊かな道路空間の創出」などをその基本方向として提言が行われた。具体的な道路づくりの指針としては、美観やゆとりに配慮すること、特に都市を代表するメインストリートや歴史的街並においてはその都市のシンボルとなる個性的で親しみと潤いのある道路を整備すること、重要な道路にはすべて歩道を設けること、道路景観を向上させることなどがあげられている。この提言は、まさに車のための道路から人のための道路づくりへの転換を目指したものといえよう。このときに、「道路」が示す対象の位置付けについて、従来は歩車が移動するための道路平面としていたところを、美観やゆとりを配慮した道路空間としてとらえるまで進展させている。歩行者に優しい歩道を設けることや沿道の生活環境保全の面まで考慮に入れるなど、今日の社会のニーズに対応する道路整備の指針が打ち出されている。その後今日まで、「親しみを覚える」「潤いのある」「人間味がある」「人間性の豊かな」道づくりが提唱されてきた。このような道づくりに対する形容は感覚的にはわかりやすいものであり、実際の道づくりの推進にあたってその具体的なありかたを考えていく必要がある。

日本では、歩道に対する関心の高まりは、車道優先の考えが切り替わったことから始まったと言われる。「歩行者が優先である、歩くことが出

来て歩きたくなる通りづくり」が都市計画の課題となり、住宅地の通過車両を減らすコミュニティ地区事業がさかんになり、1996年には国土交通省によりウォーキング・トレイル（Walking Trail: 歩行者のために豊かな自然や文化的施設などを歩道と繋げるように配慮され形成された歩行空間）事業が発足した。今日、「歩きながら暮すことができる町づくり」が日本各地において重要課題になっている〔注4〕。

### 3. 2. 日本における道路分類

近年、日本では景観舗装という用語が使用され始めている。これは、本章の対象であるFSDと密接に関連した概念である。国土交通省の外郭団体である財団法人・土木研究センターによって、景観舗装が適用される事例の道路の分類がなされている〔注5〕。景観舗装が適用される道路の分類は以下の通りである。本章において、日本のFSD現況を調査した結果を分析するには、この分類基準を参考にした。

- (1) 歴史的街路、景勝地など、その地域個性と伝統性を表現する道路。
- (2) 駅前広場、繁華街、都市の顔として景観整備を行う道路。
- (3) 商店街などの多くの人々が集まる場所で楽しみを演出する道路。
- (4) 遊歩道など、通行することを楽しみとする目的を持った道路。
- (5) 住宅地などの明るく快適性を高めるための道路。
- (6) コミュニティ道路、共同構事業を担う道路。

## 4. 日本の景観舗装とFSDの現地調査

現地調査を行った計27箇所の歩行者専用道路（一部に歩車共用道路を含む）について、景観舗装の道路分類にしたがって整理した上で、それぞれの分類の代表的事例について考察を行った。

### 4. 1. 史的街路、景勝地など地域個性と伝統性を表現した道路の事例

歩道舗装に置いて変化と視覚的な楽しみを考えることは日本の茶人、千利休であるだろう。かれは露地を構成する要素である門、または中替、待合、腰封などを飛石で繋げた。露地は本来庭ではなく茶室へ通じる道のことで「路地」、それが浄土に出るといふ仏教的な意味から「露地」と表わされるようになった。この露地を飛石を打つ心得として「渡り6分の景4分」または「渡り4分の景6分」という言葉がある。これは飛石の渡る一歩く機能を六分において、景一模様としての眺め・美を四分に置くか、また逆に模様としての眺め・美を六分に、歩く機能を四分にするかというこ

とである。一般的に飛石は単に飛び飛びに並べられたものとは見られないが、「飛石は役に立たぬところへは、一つも据えぬもの、眺めの模様として役に立たぬ石を据えることは悪い」と言われている。また飛石は足の運び、速く歩く、ゆっくり歩く、慎重に歩くなどの歩くテンポにあわせて打たれるものである。露地に限らず日本庭園の苑路（歩く道）は、土砂の道を基盤として敷砂利、畳石、延段、飛石、または橋などの組み合わせで構成されており、景色のよい眺めのポイントに立ち上がらせる、何もポイントのないところに単々と早く歩かせる、また広いひろがりの中はのどかにそぞろ歩きさせる、故意に足許に注意させ慎重に歩かせるなど踏み面、形状などにも工夫配慮されている。そして「渡6分、景4分」ではない「5と5」または「8と2」などと設計者の意図によりこの比率が自由に変化していた。〔注6〕

最近、日本では街路と広場の舗装材に色彩や大きさ、パターンなどの研究が活発であるが千利休が言う「渡(移動の意味)」だけではない「風景(景色)」をもっと考慮するようになった時代になったと考えられる。自動車の波が現代道路を埋め尽くし歩行者の道も自動車の道に押され、その大きさが倭小になったこの頃、現代人たちは健康維持に歩行が勧誘されている。

このように歩く楽しみがより配慮されている現代生活の中に歩道は日本の例と一緒に「風景(景色)」面で視覚的な楽しみを伝達するFSDの役割を必要とするようになったと思うのである。

今回現地調査の時、倉敷、信楽、京都などでこういう伝統的な思想が残っているとされる事例を紹介する。(図1-1, 2)



図1-1 信楽



図2 倉敷

街路景観において地域の個性を表現するのに一番効果的なモチーフはその地域の歴史性、あるいは景色のいい所などである。その代表的な事例として以下の例がある。

### (1) 横浜山下公園／神奈川県横浜市

都市を人間を中心とした快適な空間にしたいという要求は、どの都市にも共通する課題である。昭和 63 (1988) 年「横浜デザイン都市宣言」を行った横浜市は、この課題に精力的に取り組んでいる。一点豪華主義ともいえる「点」としての場づくりを行う街づくり行政はそれ以前にも多かった。しかし、横浜市の場合は 21 世紀における横浜のグローバルな姿を描きながら、長期的な展望と計画を立て着実にその計画を実行している。「山下公園」の再整備はその一環として行われた。横浜市のアーバン・ランドスケープ行政が優れていたのは、公園を単体としてとらえず、都市生活における公園の位置づけを考えて人々から喜びを引き出すトータルなランドスケープ・デザインを目指して整備した点にある。横浜の顔である港、海辺の「山下公園」、港を見下ろす「港の見える丘公園」、横浜独特の雰囲気が魅力的で全国から観光客や買い物客を集めている元町商店街、中華料理のメッカとして親しまれている中華街、街の主要な観光スポットであるこれら「点」の要素を結びつけることで、大きな「面」を構成し、それを立体的な都市空間としてとらえ、街全体の活性化を図っている。整備後は横浜を訪れる人が増加しており、市民はもとより全国から集まる多くの人々が横浜の新しい景観を支持し、街のたたずまいを楽しんでいると考えられる〔注 7〕。「港の見える丘公園」は、FSD で繊細な表現をした好事例のひとつである。



図 2-1 海見える公園

図 2-2 海見える公園

図 2-3 開発記念広場

ここでは、丘を登る階段の中央に配置された水路をモザイクタイルで装飾している〔図 2-1〕。公園全体の舗装材はグラニットタイル（擬石タイル）を基調としており、さまざまな色彩のモザイクタイルがアクセントとして映える。また、丘の上の広場の舗面には、モザイクタイルで星座の姿が描かれている〔図 2-2〕。室内床のように繊細なモザイク絵がたいへん美しく、公園の利用者に楽しさと愉快的な気持ちを与えている。開港記念広場は

海の波をモチーフにしてピンコロ（小舗石）で舗装されてある。広場の空間の広さに対して、伸びやかな大きなパターンとしてFSDを展開しており、遠景で見たときに全体的な模様が映えるものであり、広場のFSDの好例といえる〔図2-3〕。

## 2) 浅草／東京都台東区

浅草仲見世は江戸時代の元禄・享保（1688-1735）の頃に始まったといわれる日本で最も古い歴史を持つ商店街のひとつである。仲見世商店街は浅草寺の門前街として形成されている。かつての仲見世商店街は日本の伝統的社寺建造物である浅草寺と仁王門につながった通りにスケールの小さな店屋が並ぶものであった。現在はコンクリート建造物となっているものの、通りの両側に並ぶ建物の規模は小さく、庶民的な通りであることは変わりが無い。仲見世の道路幅は5.12mと狭く、延長約300mほどの通りの両側に合わせて86店舗が並んでいる。通りには自動車は入れない。仲見世のFSDは比較的特徴の少ない長板石舗装となっている。

馬道通りは浅草駅前から北に伸びる通りである。通りの象徴の絵として、名称に由来する馬の模様がインターロッキング素材によるFSDのパターンとして表現されている。馬道通りは現代では馬の往来とは全く関係なくなっているものの、このようにしてFSDに象徴を記すことは、かつての通りの姿を想起させ親しみを形成させる点で意味があるといえる〔図3〕。



図3 馬道通り



図4 恵比寿ガーデンプレイス

### (3) 恵比寿ガーデンプレイス／東京都目黒区

恵比寿ガーデンプレイス(Yebisu Garden Place)はサッポロビールの旧恵比寿工場の跡地に、規模がまちまちである数々の施設が集まって形成された複合商業地域である。明治時代に恵比寿ビール醸造所がレンガ造りの建物として建設され、長いあいだ周辺地域のなかで特徴的な要素として、工場が地域の象徴的な役割を果たしてきた。工場移転による再開発に伴い、ヨーロッパ的な景観を演出しようとする計画が推進され、古い工場の建物

の一部を保存しながら、新しく中層や超高層ビルを建設してある。ヨーロッパでは、歩道舗装材として石材を使用することが多いが、ここのFSDは赤茶色系の粘土ブロックを基調として、それと調和するタイルを使用している。地域内に変化を持たせるために数々のパターンを使っているが、素材や色彩の変化を抑え全体として統一感を保っている。舗装路面が地域内の煙瓦建物と調和を成して安定感が感じられ、全体的に高品位な雰囲気演出されている。複合施設を擁する地域内で展開するFSD展開としてたいへん優れた事例といえる〔図4〕。

#### （4）博多・歴史の散歩道／福岡県福岡市

博多には大陸貿易によって繁栄した古い歴史がある。福岡市は、博多の通りにおいて福岡都心構造に基づく国際交流のシンボルロードとなるような、国際色豊かな道路づくりを目指した。大博通りは、福岡市の陸の玄関であるJR博多駅から福岡国際センターに通じる延長約2キロ、幅員50mの主要幹線道路である。道路整備は、道路周辺のランドスケープと調和を図り、街に生き生きとした表情を持たせて沿道の活性化を図る目的の下で進められた。道路の拡幅や周辺の民間開発の際に、さまざまな文化財が出土し発掘調査が実施されたことで、弥生時代から近世にいたる博多の歴史が次第に明らかにされていった。福岡市は、教育委員会とともにこの成果をふまえて道路開発の検討を重ね、国際性と歴史の流れを道路づくりに反映させた。延長2キロの歩道に、最新のセラミック加工技術を駆使した、絵付け陶板と自然石で作った展示物を16ヵ所配置してある。それらには博多の歴史の出来事が絵として表現され、博多の歴史とロマンを感じとれるようになっており、この通りは「歴史の散歩道」とネーミングされている〔図5〕。この展示は、広い舗道の中で人目を引くものとなっている。



図5 福岡市 博多通り



図6 フラワーロード

通りの歩道の幅員は一定であるが、歩行者がやわらかさと幅の変化によって楽しさを感じとれるように、植樹帯に曲線が採用されている。舗装に

は、色彩によって陸から海への広がりや表現が意図されて、気品と落ち着きのある色から軽快で明るい色への変化が施されている[注8]。ただし、一般的なインターロッキングブロックを使用しており、FSDとしてはそれほど変化に富むデザインとはいえない。

#### (5) 中部 83 号線・フラワーロード兵庫県神戸市

神戸市旧外国人居留地にある中部 83 号線の整備主体は神戸市であり、整備幅員は 15m、整備延長は 925mほどである。旧居留地は兵庫津(神戸港)開港に伴って設けられ、神戸の近代的街づくりの発祥の地である。大正～昭和初期につくられた近代洋風建築物は現在もその形態をとどめるものが少なくなく、現代建築物とあいまって重厚で伝統的な街並みを形づくっている。この地区ではこのような歴史的環境に配慮しながら、歩道整備、電線類地中化などの事業を行っている。整備事業の際は、旧居留地協議会などの市民団体とともに「まちづくり計画」を策定しながら、行政と地域住民が一体となって整備促進を行ってきた。都市景観条例の指定地区(旧居留地景観形成地域)に位置づけられ、広告物の規制、適正な空地管理、各種イベントの開催などを整備・推進しながら、にぎわいと風格ある街並み形成に努めている。

旧居留地につながる図4フラワーロードは神戸を南北につなぐ大通りで港へとつながっている。外国人居留地の東では通り沿いにある東遊園地の一部が歩道と一体化しており、その場所では幅 17mの広い歩行者空間を確保している。公園と道路の管理区分にはせせらぎが設けられている[注9][図6参照]。フラワーロードのFSDは旧居留地から港へ結ぶ景観とに調和するように整備されている。

### 4. 2. 駅前広場、繁華街、都市の顔として景観整備を行う道路の事例

日本の各都市では中央駅を中心として繁華街が形成されていることが多く、駅周辺の道路がよく整備されている。駅前に広場を設けていることも多い。駅前に位置する繁華街、あるいは地域への入り口としての顔となるように駅前周辺の道路の景観整備を行った事例として、東京、岡山の事例をとりあげて考察する。

#### (1) 新宿モア街／東京都新宿区

新宿モア街は、新宿駅東口側に位置する繁華街である。景観整備を行う際に、「新しい街づくりは、まず足元から」として道路のリニューアルから取り組んでいる。通行規制によって歩行者専用道路となる時間帯には、

街全体がひとつにまとまって巨大なフロアのように一体化しており、歩行空間である道路自体がエンターテインメントの場として大きな意味をもつようになっている。この地域には、幅員 4m から 22m という 13 本の通りがあり、それぞれの通りが違った表情を有している。ほぼ全域が自然石（御影石）舗装であり、舗石厚さ 5~6cm、アスファルト系の半剛性舗装の基層に空練モルタルで敷設する工法を採用している。韓国あるいは中国産の桜御影石を基調とし、その中に白、赤、黒の御影石をアクセントに用いている。大部分が車道として仕上げを対応した道路であり、舗石は荷重による割れをふせぐため二丁掛けの小版サイズを基本とし、通り別にさまざまなペーパメントデザインを施してある[図7][注10]。

モア街が初期整備された段階を紹介している写真と比較すると、現状は大きく変わっている印象を受けた。それらは、通りのアクセントとして美観を生み出す置物や景観石、あるいはストリート・ファニチャーなどが配置された場所に、自転車・バイクの駐輪またはゴミの集積があつて、それらが隠されていたりすることがあつて、当初に計画された景観効果が生み出されていないことによると考えられる。また、歩行者の滞留場所や歩行上での所作の違い(例えば携帯電話の利用)も初期整備時とは違っていると考えられ、そのことも初期整備時とは雰囲気が違う点となっている。これらのことから、あらゆるタイプのきわめて大勢の人々が通う場所のストリート・ファニチャーは用途がわかりやすい簡単なもののほうが望ましいと考える。また、このような繁華街では、明るいイメージの FSD が好ましい。また、その場を立ち去ってからも記憶に残るくらい特徴のあるデザインにして良いと感じられた。

## (2) 新宿西口広場／東京都新宿区

日本最大の乗降客をかかえる新宿駅の西口前の地下広場（中央の車道部に地上への開口が設けられている）は、複数の鉄道路線の改札前であると同時に、隣接した複数の百貨店・ショッピングモールをかかえ、さらに新宿副都心へのアクセスするための経過地点となっている。そのため、舗装には耐摩耗性にすぐれた有田焼磁器質タイルが採用されている。地となる部分に濃色の円形タイルを敷きこみ、四角い磁器質タイルを用いて大きな円を描き反復させている[図8]。おおらかなパターンの形成によって、雑踏に潤いを与えたデザインといえる[注11]。

## (3) 新宿小田急百貨店周辺／東京都新宿区

新宿小田急百貨店周辺の人通りが多い通りである。一見して、カラフルなFSDが目に入る。三角形のタイルを組合せて青、黄、黒、白、オレンジの配色の正方形をつくり、それらを並列に配していくことで、リズムカルな運動感を表現したパターンを形成している[図9]。



図7 新宿モア街



図8 新宿駅西口広場

今回調査を行った日本全国の都市の中ではこれほどのカラフルな歩道舗装は他にみられなかった。商業地区において軽快な雰囲気成すFSDの成功的な事例といえる。また、小田急百貨店を中心としたペDESTリアンデッキであるカリオン橋のFSDは、白と薄い赤色の正方形タイルを用いて大きなサークルを反復するパターンとなっている。窮屈になりがちな狭い歩道橋において、明るい色彩とパターンによってさわやかで軽快な印象を与えている[図10]。



図9 新宿小田急百貨店周辺



図10 カリオン橋

#### (4) 吉祥寺サンロード／東京都武蔵野市

東京都武蔵野市にある吉祥寺地域は、東京の住民からの選好度合いがたいへん高い快適な住宅地域である。吉祥寺駅前の商業地域にある歩行者専用道路のサンロードは、地域住民のみならず外部からの来訪者にも人気が高い通りとしてにぎわっている。サンロードのFSDは、舗装素材が御影質磁器石材（人工御影石）であり、明るい色彩による多様なパターンが施されている。周辺の建築物との調和を織り成している良い例といえる。背

景をストレッチャー・ボント (Stretcher Bond) のパターンとし、四角い枠内をヘリンボーン・フラット (Herringbone Flat) のパターンとした組合せが美しい [図 1 1, 1 1-1]。しかし、経年の劣化によるタイルの破損をセメントで補修した箇所が多いことにより、パターンが崩れたように見える点が FSD 上の問題となっている。

#### (5) 岡山駅西口駅前広場・岡山市中仙道南方線 (市役所筋) / 岡山県岡山市

岡山駅西口駅前広場の整備主体は岡山市であり、昭和 62 (1987) 年度から周辺の商店街の活性化を図り、若者が集い語り合える場を提供するために整備された。地場材料である陶製ブロックを用いたブロック式舗装による個性的なデザインが施されている [図 1 2]。人通りがほとんどない時間帯に全体を見通したときには、大きな幾何学模様が集まった点が印象的となっている。日中から夕刻にかけては人通りが多くなり喧騒した感じになりがちな場所において、親密感ある茶色系の色の粘土ブロックを主材料に灰色の舗石で大きな四角いパターンをアクセントとして配色し、落ち着いた安定した感じを与えている。駅前全体が広く見えるような抱擁感ある FSD としてとらえられる。



図 11 吉祥寺サンロード



図 1 2 岡山駅西口広場

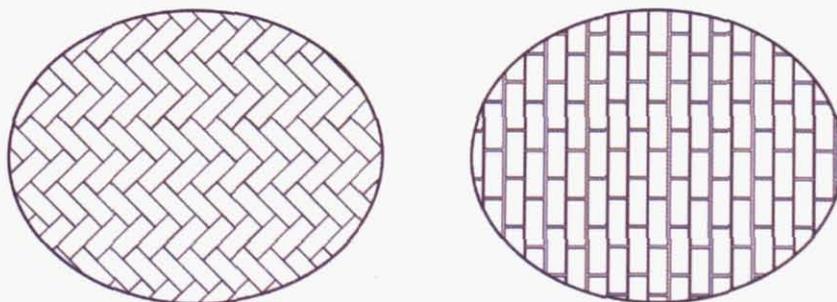


図 1 1 - 1 (左) Herring-bone flat, (右) Stretcher bond

#### 4. 3. 商店街など多くの人々が集まる活気や楽しさがある道路の事例

日本の街は不連続性デザインの街といわれることがあり、オフィス街や商店街ではさまざまな外観を持ったファサードの店舗が並んでいることが多い。しかし、そのような通りにおいても、道路舗装をカラー化し統一感のある舗装デザインを施すことによって、街路景観の連続性を高め一体感をより強く演出している例も多く見られる。この点において、日本の FSD は世界的にみても良く発達している。世界共通に人々が集まる活気がある場所として商店街がある。各地域の行政や商店街の自治会はより多くの人々を集めることができる活気ある商店街にするために、歩行者たちの視覚的楽しみや快適さを提供する歩道舗装の差別化および多様化に配慮を行っている。

##### (1) 伊勢佐木モール／神奈川県横須賀市

日本のみならず世界的に有名な商店街として横浜伊勢佐木モールがある。横浜伊勢佐木モールは 1978 年に竣工され、日本において優れて完備された歩行者専用モールのひとつとされる。道路幅員平均 14.5m、通りの延長長約 400m、面積約 7000 平方 m に至る大規模な通りである。整備計画として、次の 5 箇条項を前提条件とする。「終日一般車の通行を禁止して歩行者に開放すること」「太陽と緑と青空がある新しい港横浜の魅力ある商店街にするためにアーケードを撤去する」「東電架空線の地下ケーブル化による電柱の撤去」「緊急車などの通行ゾーンとして中央部の幅 5.0 メートルを車の通行が可能なゾーンとして確保する」「路面は歩道の区別を無くし、単一面にして全路面をデザインして煉瓦タイルなどで舗装する。また直線的な商店街にリズムとシークエンスを与えるために 4 個の節を演出する」の条件である。路面に横浜市内の名所を絵に描いた絵タイルをはめて外部空間において内部空間のような環境を形成している。また、佐藤忠良作品の「若い女」や、動きと音楽がある「カラクリ人形の時計台」を設置し、よくデザインされた街路灯、ベンチ、灰皿、案内板、電話ボックス等が配置される。早い時期から横浜の代表的な商店街として賑わってきた伊勢佐木通りであるが、近年になって横浜西口駅周辺の急激な発展に押され大きな危機感を抱いたことでモールの整備事業を強く推進させることになり、活性化に成功した整備を導いた。伊勢佐木モールに範をとる整備事業を実施していくためには、よりよい歩行者モールの建設のために行政と市民がよく連携して相互の経験を活かすことが大切である [注 12]。

伊勢佐木モールのFSDでは、特に4mモジュールの路面デザインが特筆される。このFSDは、室内に絨緞を敷いたときのような視覚効果を生じさせている。白色系、黒色系、茶色系の磁器質タイルを用いた舗装ブロックの配列は13種類あって細かに変化するパターンとなっている。これらの配列の表現には歩行者に視覚的快適性を感じさせるといえる。舗装材料として滑りにくく歩きやすいタイルを選択している〔注13〕〔図13参照〕。



図13 伊勢崎モール



図14 八王子モール

2003年1月の調査時には整備オープン後24年経過していた。その後各地に新しく整備されたモールが多く生じており、伊勢佐木モール自体に新しさとか特別の趣などを感じとることはなかった。しかしながら、FSDだけは今日においてもたいへん優れたものと感じとられた。路面舗装について特に配慮をして、外部空間を内部化しようとするコンセプトで絵タイルを舗装材料として敷いたことは今日でも多くの人の目をひくものになっており、家庭的な雰囲気を与え親しみを与える役目を果たしている。舗装ブロックの配列にヘリンボーン・フレット(Herringbone Flat)配列とストレッチャー・ボント(Stretcher Bond)配列の組み合わせがあり、室内床のような美しい雰囲気を醸成している。

## (2) 八王子モール／東京都八王子市

駅前から郊外に続く道路幅の広い商店街通りである。ヨーロッパの伝統的な小舗石の舗装材料で波模様を施紋された。石張り状態が暑苦しいと批判する人もいるが。通りの中央部または左右両側に、幾何学的な模様から八王子の名物にいたるまでさまざまなパターンの模様が使用されている。〔図14参照〕。

## (3) 定禅寺通り・一番町商店街路／宮城県仙台市

定禅寺通りは昭和57年に仙台開府400周年記念事業として整備された。

地域の象徴通りとして市民の休息の場所となっており、各種のイベントが催される。仙台駅前のペDESTリアン・デッキ(立体横断歩道橋)から一直線に伸びた青葉通り(中央通り)から定禅寺通りを結んで位置する一番町商店街の街路は歩行者専用道路として計画されている。FSDを含んだ優れた道づくりによって景観賞を受けている[図15参照]。粘土ブロックと磁器タイルを用いて清明な美しく揺れる線を表現したFSDとなっている。退屈しない歩きやすい舗装であると評価が高い[注14]。

#### (4) おおまち商店街路／宮城県仙台市

おおまち商店街は一番町商店街と並び仙台を代表する商店街である。1977年にショッピング・モールの整備時にアーケードのスカイライトを設置し、同時に個々の店舗のリニューアルがなされ、店舗ファサードも含めたいへん明るいイメージの通りが形成されており、全体として美しく魅力ある通りとなっている。ミラノのガレリアに影響されたといわれ、全面的に経費をかけて改修されている。ストリートファニチャーには歩行者にやさしいディテールが施されており、好感もてる街のイメージづくりに寄与している[注15]。舗面は仙台市の主導で1984年に新しくカラー舗装に改修されている。東北一の由緒ある商店街をどのように特徴づけるかということが改修の課題となって改修が進められてきた。舗装は大理石を主体としている。グアテマラ産の白い大理石とスペイン産のベージュ色の大理石をベースにインド産の赤御影石によって円パターンやボーダーなど線的なパターンをつくっている。大理石・整形石板を用い自然石を中心として高級感を演出する。延長200mの商店街の出入口、中央部、進入口の車道と接する部分には、凸凹面のあるセラミックタイルを使用している。ベージュ色を基調として全体の調和を図っており、ややもすると冷たい印象になりがちな現代的な空間にやさしさを感じさせようとする配慮がなされている。大理石舗装は、美しさだけでなく、花崗岩やタイルに較べ少し軟らかい特性が歩行の摩擦抵抗を確保する上で役立っている。街路樹のある周囲には歩道とは差異を持たせ、自然材料である粘土ブロックを用いており、親環境的な雰囲気形成しているのが評価できる。通りの6カ所からくりのあるモニュメントを配置されており、歩行者を楽しませている。仙台では一番町商店街の整備が先に進んでおり、おおまち商店街も改修によって「マーブルロードおおまち」として再活性化に成功している[図15-1参照][注16]。



図15 一番町商店街の街路



図15-1 おおまち商店街路

#### 4. 4. 遊歩道、住宅地などで通行に楽しみを与え明るく快適性を高めるための事例

散策・散歩など歩行すること自体を目的とするような通行において、散歩の楽しみを与えたり、休息時に心地よさを感じるように、歩道に多様なFSD技法を使用した代表的な事例は以下のような例がある。

##### (1) 用賀プロムナード／東京都世田谷区

東京都世田谷区では、住民たちの自発的な町づくりを中立的な立場で支援する世田谷町づくりセンターが組織されて、1992年4月に発足している。住民全体の町づくりに関して相談に応じるほか、町づくり活動のきっかけづくりとしてコンクールを開催したり、町づくり情報、技術、学習、交流の場の提供を行っている。また、町づくり活動に対する財政的支援に対してはより公平・中立を期すために、公益信託（世田谷町づくりファン）という一種の基金のかたちをとっている〔注17〕。

用賀プロムナードは、用賀駅前にある用賀くすのき公園から商店街路、遊歩道としたちながりで歩行者道路が整備されている。親環境的素材である粘土ブロックを多く使用している。FSDのパターン技法が多様であり、商店街路は黄色のウレタン舗装が施されている。遊歩道の一部では、灰色の石と赤色の粘土ブロックの配列がなされ住宅街である周辺環境と調和させてある。砧公園へ向かう「いらか道」には、様々なデザインの瓦が敷詰められている。日本では街路に潤いを与えるために歩道に沿って水の流れを設けた例がよくみかけられる。この通りでも、親水環境として噴水から流れる溪水、水遊び施設などを設けている。調査時に、子供たちが服を脱いだ状態で親たちと一緒に水遊びをしている姿をみかけた。都市住宅街の歩道の中でこのような水遊びをしている姿は日本以外ではなかなか見られないものである。歩道に親水環境を付加することは一種のFSD技法といえ、そのようにして都市のなかに自然空間づくりの要素を取り入れることは好

ましいことである。ただし、維持管理が確実でなければ落ち葉や風によって流れ込むホコリなどで汚れやすいため、汚い淀みにならないような配慮が必須である。その点で、淀まないように水の流れを利用することは、親水環境を設けるときの基本技術といえる〔図16参照〕。



図16 用賀街プロムナード



図17 横須賀 三笠公園通り

## (2) 三笠公園通り／神奈川県横須賀市

三笠公園通りの舗装はデザイン性がゆたかでFSDの好例といえる。淡いピンク色舗装材は中国広東省仙頭産の桜御影石であり、公園通りの舗装に艶やかで華やいだ雰囲気を加えている。歩道では、3mの幅に明るい灰色で単純な横線を表現することで、歩道と車道の区分をもうけつつも全体的には歩車共存道路のような一体感を形成しており、歩道と車道に親近感と快適感を付与している気持ち良いデザインといえる。海を前にして噴水がある三笠公園内の空間のFSDは石材中心であり、外郭散歩道を白と茶色系のタイル素材で舗装して涼しい雰囲気にさせることで公園を際立たせるようにしてある〔図17参照〕。通りにおける舗装材料は天然石舗装を主要なものとして、小舗石、整形石板を用いてある。ほかに磁器質タイル、粘土煉瓦、地域象徴タイル、コンクリート版石、カラーアスファルトなどを用い、四角、直線、曲線、放射線、波紋様、格子紋などの模様が、反復されていたり、不規則に並べられていたりする。また、都市的な雰囲気の鮮やかさと水や自然の緑との調和をはかるため、イタリア産や中国産などの天然石を使用している〔注18〕。たいへん変化に富んだ多様なFSDパターンが表現されている。

## (3) 西神中央ウエステージ／兵庫県神戸市

日本では集合住宅の舗道にも四季の表情が求められ、季節ごとの植栽の姿の移り変わりが非常に重要なデザイン要素になっている。そのことを配慮すると、舗道の色と形はさりげないもので、ランドスケープに溶け込

むような調和といろどりが求められる。西神中央ウエステージの舗装は硬質レンガを用いてある〔注19〕。

#### （4）緑の広場／兵庫県西宮市

高層棟によるビル風が非常に強く、日照の問題もあって、棟間に緑陰樹を植栽してマイルドなイメージの環境空間として緑の景観がデザインされている。樹木の周囲は、人々の踏圧から樹木の根元を保護する鋳鉄製の格子蓋で覆われている。舗装材料はレンガタイルである〔図18参照〕。

### 4. 5. コミュニティ道路、共同溝事業をする道路の事例

ボンネルフ（Woonnerf）と呼ばれるコミュニティ道路は住宅地域において地域の住民が安全に歩行できる歩車共存道路として、通過する自動車が速度をあまり出すことが出来ないように道路の形状が設計された道路である。今日では、住宅地域だけではなく、商店街でもその技法をならって活用した例がみられる。

#### （1）元町商店街／神奈川県横浜市

JR石川町駅前に位置する「元町商店街」にはファッション衣料を中心に高級品を取り扱う店舗が並んでいる。この商店街は「元町通り」の両側に形成されている。かつては、道路幅員が8mしかなく歩道が設置できなかった。1955年に建築後退線が指定され、およそ20年経過した後、全幅11.6mの道路空間が確保された。元町の街づくりは、道路空間整備事業、街づくり協定推進事業、マーケティング戦略事業の3手法により構成され、それぞれ横浜市の道路局、都市計画局、経済局が窓口となって整備が行なわれ、1985年8月に完成した。整備のねらいとして、8mほどだった公道部分と両側にある店舗1階部分の敷地内歩道（各1.8m）を併せ、道ストリートファニチャーの配置の抑制、色彩の統一（グレー系）などを考慮し、ヨーロッパ的なシックな道路空間の形成を目指したのが特徴である〔注20〕。路側交互駐車が計画された歩車共存道路が整備された。この道路整備ではコミュニティ道路整備の国家補助を受けていない。計画段階で伊勢佐木モールなど歩行者専用道路の前例が近くにもみられたが、車道を残し歩車共存道路として整備している。平日は歩車共存道路であり、土日祝日は歩行者天国になる。

歩道・車道とも舗装材料として全て石材が使用され、歩道と車道の色調の統一がなされ、洗練されたヨーロッパ風の雰囲気漂わし、高品位の

演出に役立っている〔図19参照〕〔注21〕。また、交差点には交差点バンプが設置されており自動車の減速を誘導している。



図18 神戸 緑の広場



図19 横浜 元町商店街

### （2）大通り三丁目材木町通り・中央商店街／岩手県盛岡市

藩政時代から続く由緒ある商店街において、快適な歩行者空間を提供し商店街の活性化を図るために、「和風間のある町並み創出」を整備の基本コンセプトとし、商店街店舗の自主的セットバックとコミュニティ道路築造を目指し整備が実施された。整備主体と盛岡市で官民一体となって新しい街並みで開町400年を迎えることが出来るように計画を進めた〔図20参照〕。特定交通安全施設など整備事業とコミュニティ道路整備事業を事業手法とした〔注22〕。歩道空間には、地元ゆかりの「宮沢賢治」をテーマにしたモニュメントを設置した。コミュニティ道路内の車道の蛇行化により生じる歩道のふくらみ部分6ヵ所を人の集まる場所とする「座」とすることをコンセプトとしている。「座」は、材木町のロゴである「ザ」に通じるイメージでもある〔注23〕。雪が多いため歩道の舗装材は滑りにくいように凹凸のある長板石が用いられている。その静かな雰囲気、北国らしい佇まいを醸成しているといえる。

盛岡市にある中央商店街路のFSDは、磁器質タイルを用い、赤系、茶色系、青系の色相で幾何学模様を展開している。活気ある庶民的な雰囲気の表現といえる。同じ市内においても、FSDによって差別化をはかり、それぞれの個性の形成に成功している。

### （3）入船西コミュニティ道路／千葉県浦安市

平成3年に浦安市北栄地区に「入船西コミュニティ道路」が整備された。浦安市が整備主体となり、昭和42（1967）年に委員会を設置し、「北栄地区住区総合交通安全モデル事業」の一環として整備が進められた。地区を商業系地区と住居系地区に分類し、商業系地区は便利性、住居系地区

は道路環境について主に考慮がなされた。粘土ブロックの歩道と透水性アスファルトコンクリート（ゴム入り）車道の段差を無くし、ちょっとした斜面のその間に違う舗装材料、御影石で視覚的区別した。そして道路の線形を複雑しかも綺麗な曲線の線形で FSD に変化をもたらしたことが成功しており、日本における代表的コミュニティ道路形成のひとつの範となっている。地区全体のなかでこの通りの舗装材料は煉瓦ブロックとして統一の配色とすることで、駅へ誘導する案内ともなっている [注24]。本道路は、歩行者と自動車の共存を願って、安全と快適性を確保するようにデザインされたボンネルフ道路である。子供たちにとって恰好な遊びの場となっている。舗装材は 御影石、透水性アスファルトコンクリート（ゴム入り）、磁器質タイル、インターロッキングである [図20参照]。



図19 大通り三丁目材木町通り



図20 入船西コミュニティ道路

## 5. 日本のFSDの分類と考察

調査したFSDのパターンを分類したものを表1に示す。

韓国の状況と比較する観点から考察を行う。日本の諸都市の道路を調査した結果、日本のFSDは各地域別に特徴を有していることがわかった。施工法としては、調査した地域25箇所の中では、ブロック工法が23箇所と88%を占めており、残りの3箇所がアスファルト舗装であった。ブロック舗装における舗装材料は、石材類（21箇所）が一番多く、続いて、粘土煉瓦（18箇所）、磁器質タイル（13箇所）、コンクリート・インターロッキングなど（11箇所）、石器質・絵タイルなど（6箇所）となっており、親環境材料が多く使用されている。いずれの施工法においても、丁寧な施工がなされているといえる。

舗装材料の中で磁器質、石器質、絵タイルなどタイル類が多く使用されていることは、ヨーロッパなどと比べて日本のひとつの特徴といえる。また、さまざまな材料の持つ独特の色彩、質感、形状などを考慮して適切

に使用した個性的で特徴のある景観舗装の事例が多い。FSD が快適で良好な歩道コミュニケーション空間を創造、確保する大変重要な要素となっている。

## 6. まとめ

日本には、舗面における構成の変化と視覚的な楽しみについて配慮する伝統的な教えとして、茶人である千利休の「路地」における思想がある。「渡り6分の景4分」または「渡り4分の景6分」として機能と美観についての適切な配慮の必要を説く。今日まで庭づくりなどの場面で大きな影響を持ってきた。近年の日本においては、庭づくりだけでなく、街路と広場などの公共空間の舗面の設計において、舗装材の色彩や大きさ、配列パターンなどへの提案が活発である。千利休が言う「渡り(移動の意味)」だけではなく「風景(景色)」をより考慮する時代になっている。現代生活の中、歩くことの楽しみが配慮されている歩道において、「風景(景色)」面で視覚的な楽しみを醸成する FSD の役割が極めて重要になってきたといえる。

親環境的 FSD を考えると、石材、粘土ブロック、磁器質タイルが重要な舗装材料となる。このような素材に関する色彩面での研究は FSD パターン研究において重要な課題である。また、設計段階のプレゼンテーションにおいて、提案物の印刷上またはディスプレイ上で表示される色彩と実際の施工後の色彩のあいだに差異が生じやすい。この点は、設計段階において注意して確認がされていかなければいけない。

地域的 FSD の表現として、地域の象徴を表現した絵タイルなどを舗装した例が多くみられた。また、一つの空間に多様な舗装材料を舗装した通りが多くみられた。

横浜市の山下公園、伊勢崎モール、元町通りは、日本において FSD の代表的事例として全国的に知られている。同一の市域のなかでも、各ロケーションごとにそれぞれの性格を FSD で表現している。地域づくり・まちづくりの面でさまざまな工夫がなされて出来た結果といえ、多くの成功的事例をもつ横浜市当局の環境政策がたいへん優れていた。

地域づくり・まちづくりの整備事業において良い結果を導くためには、仙台市や盛岡市の事例のように官と民の親密な協力が必要である FSD 開発においてもその方針の元での協力が求められる。立派な舗装として整備

しても、掘り返されたら 無残な姿になってしまう。例えば、舗装工事に先立って上水道、電気、電話、ガスなど地下占有者との協議を行うことが必要である。舗面の問題だけではなく、関連諸事項に関して周辺との調整が大切となる。

日本において FSD の好事例は商業地区に多い。本調査を通して、横浜の伊勢崎モールと仙台市の一番街路は FSD の模範事例と考える。商業地区の FSD は、日本だけではなく全世界の全ての地域でこれからも開発がさらに進むことが要求される。

本調査の範囲では、日本ではよく整備された事例の多くが親環境的であり、また地域性が際立つものであった。本調査における優れた FSD の事例から、今後、快適な歩行空間を実現するには、親環境的素材開発と地域性を活かすような特徴ある FSD 開発が必要な条件であることを確認した。

表 1 日本 FSD のパターン分類

パターン有無	有(23) 無(0)	
色彩	無彩色	23
	有彩色	R(22), B(3), Y(22), G(14), RB(1), YR(23)
デザイン特性	四角(23), 三角(3), 六角(1), 不規則性(6), 点(1), 格子(18), 直線(22), 反復(1), 対称(22), 円(4), 波文(1), 放射線(3), ジグザグ(4)	
施工法によるパターンおよびデザイン構成形式	ブロック(23), ローリング(3)	
舗装材料およびその他	粘土煉瓦(18), 磁器質タイル(13), 伝統的粘土煉瓦(1), 花崗板石(1), カラー骨材混入アスファルト(1), 石器質タイプ(4), 整形石版(5), 乱長石版(6), 小舗石(8), 飛石舗装(1), 擬石タイル(6), 絵タイル(1), 洗い出しコンクリート(1), インターロッキングブロック(10), 陶磁材底タイル(1), カラーアスファルト(1)	

調査地	パターン有・無	色彩	デザイン特性	施工法	舗装材料	イメージ分類
信楽陶芸の森 / 信楽町	有	無彩色 有彩色 : R, Y, YR	四角, 直線, 対称, 格子	ブロック工法	飛石舗装, 自然石 磁器製品, 透水性再生ブリック, 粘土煉瓦, 磁器材煉瓦, 小舗石	旅行の FSD 休息の FSD
四ツ橋, 御堂筋 / 大阪市	有	無彩色 有彩色 : R, Y, YR, G	四角, 直線, 円, 対称, 格子	ブロック工法	陶磁材底タイル, 整形石板, 粘土煉瓦, 擬石タイル, コンクリート平板	休息の FSD
岡山駅西口駅前広場 / 岡山市	有	無彩色 有彩色 : R, Y, YR	四角, 直線, 三角, 対称, 格子	ブロック工法	インターロッキング粘土煉瓦, 石器質, 磁器質底タイル, 粘土煉瓦, 地域象徴陶板	旅行の FSD サインの FSD
千葉駅, 中央公園, 散歩道 / 千葉市	有	無彩色 有彩色 : Y, YR	四角, 直線, 対称, 反復	ブロック工法	石器質底タイル, 花崗岩, 粘土煉瓦, 小舗石	休息の FSD
神戸ハーバーランド / 神戸市	有	無彩色 有彩色 : R, Y, YR, B	四角, 直線, 対称, 格子	ブロック工法	擬石タイル, 粘土煉瓦, カラーコンクリート平板	旅行の FSD
萩中央路, 商街路 / 萩市	有	無彩色 有彩色 : R, Y, YR	四角, 直線, 不規則性, 対称, 格子	ローリング, ブロック工法	擬石タイル, アスファルト, コンクリート平板, 石器質タイル, 砂, クレイ舗装	ショッピングの FSD
福岡, キャナルシテ	有	無彩色	四角, 直線, 曲	ブロック工法	石器, 磁器質底タイル, 花崗	旅行の

イ、大丸 /福岡市		有彩色： R, Y, YR, RB	線、リズム、対称、格子	法	岩、粘土煉瓦、洗い出しコンクリート平板	FSD ショッピングのFSD
広島駅周辺、文化散歩道 /広島市	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G	四角、直線、円、対称、格子	ブロック工法	擬石タイル、石器質底タイル、花崗岩、コンクリート平板、地域名、絵タイル	休息のFSD
横須賀中央路、三笠公園 /横須賀市	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G, B	四角、直線、不規則性、広場型同心円、放射線、対称、格子	ブロック工法	石器、磁器質底タイル、粘土煉瓦、小舗石、緋張板石、インターロッキングブロック、擬石タイル	旅行のFSD 休息のFSD 水のFSD
山下公園、中華通り /横浜市	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G, B	四角、直線、曲線、多様なパターン、不規則性、放射線、波文、対称、格子	ローリング、ブロック工法	石器、磁器質底タイル、粘土煉瓦、地域象徴絵タイル(通り全体的)、コンクリート板石、小舗石、カラーアスファルト	休息のFSD
伊勢崎モール /横浜市	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR	四角、直線、六角(広場型)放射線、対称、格子	ブロック工法	石器、磁器質底タイル、粘土煉瓦、コンクリート板石、小舗石、擬石タイル、整形石板	旅行のFSD ショッピングのFSD
倉敷美観地区 /倉敷市	有	無彩色 有彩色：R, YR	点、直線、四角、対称	ブロック工法	装飾、象徴、遊戯性、(底装飾多様)粘土煉瓦、整形石板、磁器質タイル	旅行のFSD
長崎ハウステンボス /長崎市	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR	直線、円、ジグザグ線、四角、対称、反復	ブロック工法	伝統的粘土煉瓦装飾配列、粘土煉瓦、小舗石	旅行のFSD
名古屋セントラルパーク /名古屋市	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G	広場型同心円、三角、四角、直線、不規則性、対称、格子	ブロック工法	粘土煉瓦、花崗板石、小舗石、大理石、緋張石板	ショッピングのFSD サインのFSD
東京恵比寿ガーデン /東京都目黒区	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G	広場型三角反復、四角、直線、斜線、ジグザグ線、対称、格子	ブロック工法	粘土煉瓦、花崗板石	旅行のFSD
用賀プロムナード /東京都世田谷区	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G	四角、直線、不規則性、対称、格子	ローリング、ブロック工法	整形石板、カラー骨材混入アスファルト、粘土煉瓦	水のFSD
神田駅周辺 /東京都千代田区	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G	四角、直線、不規則性、対称	ブロック工法	磁器質底タイル、整形石板、粘土煉瓦、緋張石板	ショッピングのFSD
新宿駅周辺 /東京都新宿区	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G	広場型同心円、三角、四角、直線、対称、格子、リズム	ブロック工法	擬石タイル、磁器質タイル、粘土煉瓦、緋張石板、小舗石	休息のFSD
四谷駅周辺 /東京都新宿区・千代田区	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G	四角、漸移	ブロック工法	石器質、磁器質底タイル、粘土煉瓦	旅行のFSD
渋谷センター街 /東京都渋谷区	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G	四角、直線、対称、格子	ブロック工法	装飾性(絵タイル)、石器質、磁器質底タイル、粘土煉瓦	ショッピングのFSD
吉祥寺サンロード /武蔵野市	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G	ジグザグ線、四角、直線、対称、格子	ブロック工法	石器質、磁器質底タイル、粘土煉瓦	ショッピングのFSD
池袋駅周辺 /東京都豊島区	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G	広場型同心円、四角、直線、対称、格子	ブロック工法	石器質底タイル、カラーコンクリート平板	旅行のFSD
八王子モール /八王子市	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G	四角、直線、対称	ブロック工法	磁器質底タイル	旅行のFSD
伊丹中央歩行者通り /伊丹市	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G	四角、直線、対称	ブロック工法	磁器質底タイル	ショッピングのFSD
姫路城通り /姫路市	有	無彩色 有彩色： R, Y, YR, G	四角、直線、対称、格子	ブロック工法	磁器質底タイル	旅行のFSD

注

1) 韓国「文化通り」の歩道舗装デザインに対する利用者意識(1)、韓国「文化通り」のフットスケープデザイン(FSD)現況調査と分析(2)

2) 旅行、ショッピング、休息、サインなど

3) ウェブサイトでは、地域的特性を配慮したFSDと親環境的なFSDとして良好な事例を選別して、トップページに模範事例として掲載している。

<http://paving.nabia.net>

4) 景観舗装ハンドブック:土木研究センター 大成出版社 1995 P4

5) 個性あるまちづくりガイドブック:ギョウセイ 平成8年 p2

6) 人のための道と廣場の舗装 : 金井絡他 著, 持報堂出版社 1994, p107

7) ランドスケープ&ペープメント:グラフィック社 2002 p18-19

8) ランドスケープ&ペープメント:グラフィック社 2002 p40

9) 街路の景観設計:土木学会編 技報堂出版刊 1999 p56

10) ランドスケープ&ペープメント:グラフィック社 2002 p118

11) 景観舗装ハンドブック:土木研究センター 大成出版社 1995 p130

12) 續・街並美學:芦原 義信著 岩波書店 1983 p133-p140

13) 街路の景観設計:土木学会編 技報堂出版刊 1999 p178

14) 景観舗装ハンドブック:土木研究センター 大成出版社 1995  
p132-133

15) 街づくりデザインノート:池澤寛著 商店建築社 1987 p54

16) 街路のはなし:鈴木敏 他 著 枝報堂出版 1994 p108?p114、  
仙台大町商店街路の 歩行者優先のカラー舗装に対する詳しい報告書があ  
ってそれを引用する。

17) わが町発見:世田谷まちづくりセンタ 1995 p1

18) 景観舗装ハンドブック:土木研究センター 景観舗装研究会編 大成出  
版社 1995 p110

19) ランドスケープ&ペープメント:グラフィック社 2002 p156-157

20) 個性あるまちづくりガイドブック:ギョウセイ 平成8年 P5

21) 景観舗装の知識:鈴木敏 著 枝報堂出版 1995 p135

22) 個性あるまちづくりガイドブック:ギョウセイ 平成8年 P22

23) 盛岡市商工観光課商業係主事田口善政氏より提供された資料による。

24) 個性あるまちづくりガイドブック:ギョウセイ 平成8年 p36

## 第4章

### 国外地域的事例の比較と韓国ofフットスケープデザインの方法論

## 1. はじめに

### 1.1. 研究の背景と目的

日本では1982年道路審議会において道路整備のあり方について親しみと潤いのある道路づくりを掲げており、人間性豊かな道路づくりの推進、安全で快適な歩道の充実、緑豊かな道路空間の創出などを提言した。具体的な道路整備においては、美観やゆとりに配慮すること、特に都市を代表するメインストリートや歴史的街並はその都市のシンボルとなる個性的で親しみと潤いのある道路を整備すること、重要な通りにはすべて歩道を設けること、街路景観を向上させることなどを目指した〔注1〕。この提言が示しているように、都市のシンボルとなる個性的で親しみと潤いのある歩道の整備を通して日本の個性的街路景観が形成されてきた。韓国は地方自治制の実施以降、各地域のアイデンティティの確立に力を注いでいる。そして、歩道舗装の機能と個性についてとらえるフットスケープデザイン（footscape design:以下FSDと記す）の概念は、今後の通り整備の重要課題として韓国の地方自治団体において関心が高まっている。今後の整備に向けて個性化をはかるために必要な諸要素を検討し、韓国において今後どのように各地域でシンボルとなるような個性的で親しみと潤いのあるFSDを実施していくか、その方法論を提示する必要がある。本章では、地域特性を良く表出しているといえる成功事例を韓国国外において調査し、各FSD事例の特質とその成り立ちの考察から、韓国におけるFSDの個性化のありようとそのため手法を導出することを目的とする。

### 1.2. 研究方法

本章では、ヨーロッパにおいて主要な大都市、有名な観光地、文化的特色を有する地方都市の歩行者専用道路（一部に歩車共用道路を含む）についてそのFSDの様相の調査を行った。それらの道路は、全体を通覧したときに韓国の「文化通り」と比較するのに適切であると考えられる通りを選定した。調査は2003年1月から2004年2月のあいだに3回に分けて実施した。1回目は2003年1月30日から2月13日までの期間に、ロンドン、フランクフルト、ニュルンベルク、ハイデルベルク、シュトゥットガルト、ミュンヘンのドイツ各都市ならびにバルセロナ、ジュネーブ、ウィーン、ザルツブルクにおいて、2回目は同年8月3日から8月13日までの期間に、ストックホルム、ブリュッセル、アントワープ、ブリュージュ、コペンハーゲン、アムステルダム、ロッテルダム、ハンブルク、ブレーメンにおい

て、3回目は2004年2月11日から2月21日までの期間に、ローマ、ミラノ、シエナ、ベネチア、ラヴェンナ、ファエンザ、ボローニャのイタリア各都市ならびにアテネにおいて行った。パリについては、上記3回にわたって調査を実施した。

調査方法は、以下の通りである。まず、各都市において観光案内・道路案内説明等の情報を参照し、あらためて地域内の通りを確認したうえで、主要な歩行者向け道路を選出した。各通りの景観とFSDの状況について観察し、近景、中景、遠景をデジタルカメラにより撮影し記録した。ブロック舗装で施工された場所においては、配列方法をわかりやすく記録するために部位ごとの近接撮影を行った。収集された配列方法については、各通り毎に分類整理を行った。それら実地調査から得られたFSDデータを整理し分類したデータベースの構築を行った。続いて、構築されたデータベースの中から各地域特性を表現した個性的なFSD事例を選び、FSDによって通りにおける地域特性の演出や個性化に成功した事例の分析を行う。既報において報告した日本の歩行者専用道路の調査と合わせてFSD分析を通して得られた観点から、地域特性を表現するためのFSDの個性化のそのありかたを課題を検討し、空間別にわけてガイドラインを提案する。

## 2. 街路景観におけるFSDの個性

### 2.1. 街路景観における個性的FSDの意義

通りはその沿道の土地利用、すなわち繁華街や静かな住宅街などがもつ特性、いわば境界の特性というものによって個性化される。また、通りの使われ方やそこに集まる人々によっても景観は特徴づけられる。通りの景観としてもつべき特性を明らかにし、デザインの基調やテーマを決める事には次のような意義がある。第一に、FSDの基調や景観テーマを設定することは、通りに文化的、歴史的、人間的なおもむきや豊かさを与えることをめざすために行われるといえる。第二に、設定によって、設計の視点を明確にし、通りの景観を構成する諸要素のFSDを一定の方向に導き、総合する動きが期待される。第三に、FSDの基調やテーマは、当然、FSDの具体的な選択に指針と制約を与えることになり、他の要素との調整の手間も簡略化できることになって、設計作業がスムーズになることが期待される。

### 2.2. 街路景観の個性と街づくり

現代の都市空間は、建築物・通り・公園を基盤として構成される。個性ある都市空間づくりはこれらの構造地盤の総合化により成立する。したがって、通りは人や車の単なる往来のためのものではなく、政治・経済・文化の往来のための都市の動脈ともいえる。都市基盤である通りが、機能本位ではなく親しみと潤いのある通りとすることを目標にした整備推進は、とかく人間不在の物質・機械化文明の現代社会において、美しい近代都市空間の創出に大きな役割を担うものである。日本では高度経済成長が達成されるとともに次第に町づくりへの関心が高まり、1980年代の世論調査では居住地域において通りや公園などを潤いあるものとしていくことの要望が高くなっている。このように都市空間に親しみ、潤い、人間性豊かである通りが求められている。通りの個性は通りの空間を構成するすべての要素が複合化して形成される。親しみ、潤い、人間性豊かなことは、すべて人のためのものであり、機能本位の空間からは生まれない。人のための通り、人のための舗装でなくてはならないのであり、歩く人にとって快適な歩行空間を構成することが求められる。これからの時代の通りづくりの目標は、個性的かつ快適な歩行空間を構成することである。

### 3. 街路景観における FSD の個性表現

今日の都市空間は、コンクリート、アスファルト、天然石、粘土ブロック、タイルなどの材料で覆われている舗装都市といえる。舗装により都市空間が演出され、また街の表情が演出される。個性ある都市は歴史と文化の基盤の上にだけ創出されるものであり、その都市に相応しい個性ある人の歩く街の表情を演出する路面の舗装を考えることが重要である。地域特性を大切に、街や通りの独自の魅力をつくり出そうとする努力が各地で行われており、FSDにも地域特性の表現のための工夫が見られる。地域特性は自然要素と人文要素からなる。地域の特色ある要素を抽出してFSDにおいて視覚的に表現する。

町づくりにおいて、通りを個性的にして町を視覚的にわかりやすくすることがある。通りによってあるいは街区によって色彩、テクスチャーなどFSDを少しずつ変える、東西方向と南北方向の通りで舗装材を変えることなどの手法がある。

歩道舗装については、車道の舗装と同様に、機能的要件を満たしたうえで快適性を満たすことが必要である。車道においては自動車走行のための

機能性を、歩道においては人間の歩行のための機能性をもとに舗装を考えなければいけない。人間の歩行のため機能性を考える場合に、舗装材の耐久性や施工上の舗装構造など物理的な側面が注力されがちである。個性的であり親しみや潤いなどを求める心理的な側面は、歩行空間構成要素の複合化によって醸し出されるものであって、路面の舗装材の美観性、環境演出効果、すなわち通りの用と景を考えることが重要である。FSDの役割において、歩行者に視覚的に快適さを感じさせることがあり、歩道舗面の材質、色彩、形などへの視覚面での考慮が必要となる。

日本においては、遊び心を全面に出した舗装デザイン事例が見られる。遊びの舗装デザインの実例として、①ワンポイントの絵タイルや金属レリーフを配する、②文章をデザイン化することなどがある。遊びのデザインは定型的ではつまらなくなり、遊びのデザインを成功させるには、素朴な心やウイットが必要となる。

### 3.1. 街路景観における個性

日本の土木学会では、通りそのものが個性的である場合を、次のように分けて考える [注2]。

- (1) 通り自体の構成：通りの平面、縦断、幅員構成など幾何的構造、交差点などの要所、通り樹、舗装材など通りを構成する要素が街路景観を個性化する場合である。
- (2) 通りパターン：特殊な視覚的効果のある通りパターンは、街路景観を個性的にする要因となる。また、この通りパターンからは町の成り立ちや計画時の歴史的背景が思い起こされる。

### 3.2. 街路景観における個性表現方法

街路景観における個性表現方法を次の様に考える。

#### (1) 「地」を活かす個性表現

街路景観施設のデザインによる個性の表現では、町が有している個性を引き立たせることをねらいとするデザインが重要である。一般に、歴史の経過にしたがって町の個性が醸成され次第にそれがにじみ出てくるものといえる。そのような状況において、通り自体は「地」に徹した控えめなデザインとなることが望ましい。(図1、図2)本研究の調査報告書によると調査地域27箇所全部が小舗石(ピンコロ)舗装であったことからヨーロッパの伝統的FSDは小舗石(ピンコロ)舗装であるということに異論はないことであろう。[注3]特にヨーロッパの伝統的FSDは図2の事例

のようにストレッチョボンドの配列が一番多く模様では図1事例のように小舗石（ピンコロ）で波の模様を表現した例が最も多い。両方ともFSDの面では街の背景になる「地」の表現であると考えられる。一方で、街や街区にテーマと呼んでもよい明確な個性がある場合には、それを活かすように個性に呼応した街路景観の「図」になるデザインに積極的に取り込む必要もある。



図1ゲルンハート通り、ピエンナ/オーストリア 図2 Covent Garden、ロンドン/イギリス

## （2）「図」を活かす個性表現

パリのラ・デファンス（La Défense）再開発の事例から考える。ラ・デファンス再開発では開発中にパリのオフィス需要が増大し、計画が大幅な変更となったことが再開発を活性化させた。ここに建設されたオフィスビルはインターナショナルスタイルのモダニズム建築であり、既存の凱旋門と一直線にある軸上に巨大な新凱旋門を設置した都市計画はよく知られている。



図3 ラ・デファンス

新凱旋門がある「ラ・デファンス広場」には、大地との親密感を感じさせる粘土ブロック材による自由で大胆な自由曲線模様のFSDが施されている。広い広場には有名な彫刻家、ミロ（Joan Miro）やカルダー（Alexander Calder）の大きな彫刻が設置されている。彫刻がアクセントとなって、大胆な自由曲線模様の舗装パターンと周囲の建物群が調和を成している。新

しい感覚の独創のイメージを形成し、芸術の町パリを象徴しているものと評価できる [図3]。

### (3) 通りの特徴ある幾何形態的構造の表現

特徴ある幾何形態的構造をもつ通りでは、その視覚的な面白さを強調する手法が効果的である。たとえば、原宿の表参道やパリのシャンゼリゼ通りのように、沿道に並ぶ建物群と通りの舗面が凹型を形成する場合にその迫力を強調するには、ビスタの焦点にアイストップを置くこと、ビスタを強調するために沿道の建物の高さを統一すること、通りを緑でみどり縁どることなどが考えられる。日本江戸時代の都市につくられた広小路のような通りは、入口付近に樹木を植えて絞ると内側の広さが外側との対比によって強調される。

### (4) 祭や市などのイベントによる個性の演出

伝統的な祭や地場の産物が並ぶ市は郷土の雰囲気を感じさせる。イベントの場として通りを使うことによって、個性化をはかることがある。神戸市のフラワーロードでは祭のパレードのために、通り上の植栽を移動できるようにしている。(図4)



図4 仁寺洞



図5 コベントガーデン

### (5) 通りに集まる人々による個性の表現

商業系の通りでは、そこに集まってくる人々によって通りの個性が感じられることがある。東京では、若い人の多い新宿や渋谷の町、流行に敏感な人や外国人の多い六本木の町にあるが通りがそれぞれの個性を形成している。大学町などにおいても、学生の多い通りにその個性が醸成されている。特定のグループの人が集まる通りはそのグループに属さない者に排他的な感じを与えることがあるが、一方である種の魅力をもっている。この種の通りの魅力は、集まる人の目的に合った空間のデザインが必要である。

## 3.3. FSDによって通りにおける地域特性の演出や個性化に成功した事例

「地産地消」のように地場に産する素材または地場産業の製品を、街路景観の形成に積極的に活用することが大切である。舗装材として天然石、陶磁素材、粘土ブロック素材の活用にすぐれた事例が見られる。通りに風土性を与えることは、街路景観に個性をもたらすばかりではなく、地場産業の振興上も大きな意味がある。日本の静岡県掛川市における間伐材を利用した木粘土ブロックによる舗装はこの点からも評価されてよい事例である。

施工事例について整理してみると、次のような技法が試みられていることがわかる。

### (1) 地域材料、すなわち地元で広く使われている石や、タイル、粘土ブロックによる舗装

#### 事例1：名所の図像を活かすFSD：バルセロナ／スペイン

バルセロナは、ガウディ (Antoni Gaudi) の建築物で有名である。多彩な石やタイルで飾られているグエル公園 (Guell Park) のようにガウディによるFSDは、設計当時流行していたアールヌーボーの一形式の曲線模様として独特の優美な曲線で構成されている。同じくガウディによるカサミラ (Casa Mila) 通りのFSDは、八角形の伝統的な草花紋と点紋で紋様を刻んだ異形的タイルによって他地域では見られないタイルパターンが施されている。グエル公園を含み、通りのさまざまな場所で出会うモザイク壁画や床飾り等は、ヨーロッパの他地域と違った個性を表しており、ヨーロッパの中でも古くから国際的な交流文化が発達したスペインの歴史的背景を感じさせるものとなっている [図6]。



図6 カサミラ通り



図7 ツァイル通り

#### 事例2：街路の連続性を高めるFSD：ツァイル (Zeil) 通り、フランクフルト／ドイツ

フランクフルトは、ライン川の支流マイン川の沿岸に広く広がる都市として古代フランク族の交通の要地であった。周辺が環緑地帯に取り囲まれて

おり、都心は徹底した歩行者中心の街となっている。ツァイル通りはハウプトヴァッフェ広場につながる歩行者専用通りとして有名なショッピング街路で、通りにある造形物と噴水と樹木がよく調和している公園風の通りである。幅員の広いモールとなっており、広場のような趣きがある。その中央部分にある最高級ファッションブティックが密集したゲーテ

(Goethe) 通りは約 600m 程度の延長がある。幅員 10m ほどで中央に約 4m の車路を置いて両側各 3m が歩道で構成されている。ツァイル通りとゲーテ通りの FSD はヨーロッパの地域的な材料として広く使われる小舗石（ピンコロ）舗装となっている。灰色の天然石を《地》として、白い天然石を用いて曲線や直線の線を《図》として、構成したシンプルなパターンが表現されており、大胆な曲線、反復直線紋は街全体に一体感を与えて街路景観の連続性を高めている。現代的な国際都市、ドイツ最大の商業都市のイメージを強く感じられる印象的な FSD である [図 7]。

### 事例 3：多種舗装材で変化ある FSD：チャイナタウン（China Town）・コベントガーデン（Covent Garden）、ロンドン／イギリス

煙瓦づくりの建物が大部分であるロンドンの古いチャイナタウンや比較的新しいクランベンストリート（Cranboum st）は粘土ブロックで舗装が施されている。多くの人々で賑わうコベントガーデンや世界的に有名なショッピング通りであるリージェントストリート（Regent St.）、ボンドストリート（Bond St.）、シャフトベリーアベニュー（Shaftesbury Ave.）などの FSD は、ヨーロッパ伝統の舗装であって地元で広く使われる小舗石舗装が中心となっている。部分的に粘土ブロックでヘリングボンボン（herringbone bond）施工で天然石と材料で色相に変化を与えている。



図 8 左 アクロポリス



右 ビザンティンミュージアム

### (2) 街並みの建築物と地域の特色による FSD

#### 事例 1：歴史を活かす FSD：アテネ／ギリシア

アクロポリスでは白の大理石舗装がなされており、年中暖かく日光の多い地中海の天気映えて美しい。重ねて、古代文明の神殿の雰囲気を偲ば

せている。美しい白の大理石のほかに、表面にさまざまな模様が刻まれた乱貼りの大理石を使用している。また、精巧なモザイクでカーペットのような雰囲気を表現している所がある。そのようなさまざまなパターンで舗面を飾ることで、固有の地域性が際立っている [図8]

## 事例2：特異な地域景観と調和したFSD：ボローニャ／イタリア

世界で一番古い総合大学を持ち、教会と各種文化遺産が多く、中世の濃厚さが漂う美しい都市である。同時に、イタリア屈指の産業都市であり、通りの各所が活気に満ちている。通りのいたるところに設置されたポルティコ（柱廊）と呼ばれるアーケードが通りの景観を特徴づけている。ボローニャは豪雪地帯であり、13世紀に雪の中を移動する学生のために市民が協力してアーケードをつくったという。もっとも多いときには総延長36kmほどあった。基本的に石造であり、車道側には太い石柱が並び、ポルティコ部の舗装は大部分が大理石などを組み合わせたモザイクとなっている。モザイクは直径6〜7cm、厚さは15mmほどの石の板であり、モルタルによって基礎のコンクリートに固定され、目地は白いセメントで充填されている。黄、青、茶、白などのいろいろな石種によってデザインされている。この舗装が何キロメートルも続いている。繊細なモザイクで舗装された歩道は5〜8mぐらいの幅員を有しており、人々はテーブルやイスを持ち出してカフェテリアにして使用することが多い。建物の下の部分を後退させ歩道にするというのは、建物の所有者が協力して自分たちの財産の一部を公共に提供するということである。ボローニャにおける各商店街の特徴はポルティコのFSDパターンに差異があることから感じられる。FSDは商店街別の建築物ごとに多様である。他地域では見られない視覚的な楽しみを与え、ボローニャ通りに活気を感じさせる要因のひとつである。このポルティコFSDの存在は地域性を有したFSDの成功事例といえる [図9]。

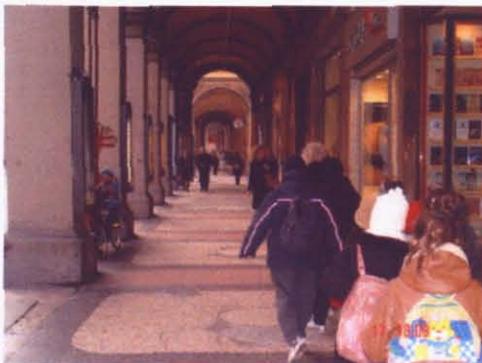


図9 ポルティコ

### 事例3：外部空間を内化するFSD：サンマルコ広場（Piazza San Marco）、 ヴェネチア／イタリア

ヴェネチアは117個の島、150個に面したヴェネチアの街の中心といえる場所でラグーンに面している。サンマルコ広場は80m×175mほどの大きさがあり、ヨーロッパの広場の中でも面積的にかなり大きな部類に属する。かつてナポレオンが「世界で一番美しい応接室」と激讚した場所である。広場の周りに白い大理石の列柱が並び、周囲の建物の多くが建築史に残るに値する名建築である。舗面は大理石であり絨緞の柄のようなたいへん美しいパターンが施されている。魚の鱗紋様はFSDは、1723年ティラーリ（Andrea Tirali）が設計したもので、古くから広く知られて称賛されており、今日のFSDの先駆ともいえる。サンマルコ広場のFSDは、建築物との関係性を適切に活かして建物の内部を拡大したような美しい外部空間を演出した成功事例といえるものである〔図10〕。



図10 サンマルコ広場

#### (3) 特色ある街並みの建築物と同系統の色彩による舗装

### 事例1：勾配を活かすFSD：カンポ広場（Piazza del Campo）、 シエナ／イタリア

シエナはトスカーナ地方の古都であり、イタリアでも最も美しい都市のひとつとして数えられている。標高322mに位置し、3つの丘陵に囲まれている。10～12世紀に自治都市が形成された中世都市として美しいゴシック建築物があり、通りは高低に沿って上下にしている。カンポ広場の存在はこの都市に空間的求心力を与える。ローマ時代にカンポ広場に面して公会堂と市場があった。扇状の広場が9区域に分けられているのは広場造成を主導した9議会の権威を象徴しており、扇形の紋様は聖母マリアのマントの筋目を象徴する。集会、闘牛、パリオ祭りなどの各種行事がここで開かれる。噴水の水は500年経つ水道管から供給されている。高低によっ

て傾いた大地の形態を利用して、貝の紋様のように床部の中心点から9個の面が集まるようになっていて美しい広場である。



図11 カンポ広場

その形態は排水機能にも相応しい。舗装材料は親環境材料である粘土ブロックである。広場は分割された舗面の変化と地形の高低によって全体が周辺の建物と合わせて立体感が感じられ、ゆったりした空間感が醸し出されて安らかな印象を受ける。舗装は自然材料である粘土ブロックが用いられており、周りの建物の壁面と同系統の色彩になっているため空間として一体感がある。同系統の色彩で美しい外部空間が形成されている。この広場のFSDは、親近感と魅力ある親環境的FSDの代表的成功事例といえる〔図11〕。

## 事例2：幾何学模様を活かすFSD：ストロイエ（Stroget）通り コペンハーゲン／デンマーク

コペンハーゲンの観光中心地は中央駅近くにあるティボリ公園と歩行者専用通りのストロイエ通り周辺で、コペンハーゲンで一番賑やかな場所である。中央駅からストロイエを通った反対側には有名な港口ニューハウ（Nyhavn）がある。ストロイエ通りでは、通りの中ほどにある広場の大理石材の多様な色の幾何学的パターンが目をひく。かつては歩車共存通りであった通りであるが、いまでは古くからショッピングモールだったような印象を受けるほど、建築物と舗面が周囲のランドスケープに融けこんでいる。ストロイエのFSDは、多様な色とパターンで変化が感じられるものである。イタリア以外のヨーロッパではこのようなカラフルなFSDはあまりみられない。立地にふさわしく、豊かな商業環境のイメージを醸成していると感じられた。また、コペンハーゲン市内は、乳母車の利用がたいへん多い。また、車椅子利用に対するバリアフリーの意識も高い。通常、小舗石舗装の舗面は車輪つきの軽車両等の通行が難しくなる。しかし、コペン

ハーゲン市内では、多くの広場や歩道において、小舗石の舗面の中に平滑な石の舗装を施した通行路を確保している。これは、歩行弱者に対する配慮であるとともに、小舗石と平滑面の違いが舗面の表情にアクセントを与えている。機能と美観を両立させたFSDの好例といえる。(図12)



図12 左 ストロイエ通り

右 ニューハウ

#### (4) 地元伝統工芸品、芸術品などのFSDへの応用

##### 事例1：ブレーメン/ドイツ

グリム童話の舞台になったメルヘン街道はフランクフルトの近くのハーナウからブレーメンまでの600kmの街道である。ブレーメンは1200年の歴史を有した美しい街で、旧市街地にあるブレーメン市庁舎前のマルクト広場と歩行者専用通りであるベットヒャー (Böttcher) 通りには小舗石と粘土ブロックが敷かれている。マルクト広場では、白、黒、サーモンピンクの舗装材で放射模様を表現している。各町に広場があるヨーロッパの中でも指折りで数えられるほど特に美しい広場といわれる。「ブレーメンの音楽家たち」童話の彫刻作品が歩道に設置してある。(図13)



図13 左ベットヒャー通り

右 マルクト広場

##### 事例2：ランブラス通り (La Rambla)、バルセロナ/スペイン

ランブラス通りは、地域性を強く感じられる通りである。カタルーニャ広場と連絡したランブラス通りは歩行者通りで夜遅くまで多くの人々が行き交う。曲線タイルで流動的な波柄が全体的に繰り返されるFSDとなって

いる。この通りの中央にミロ (Joan Miro) のカラフルな FSD パターンがモザイクとして設置されていて、地元の住民や観光客たちに巨匠画家の作品を鑑賞しながら歩くという視覚的楽しさを与えている。(図14)



図11 ランブラス通り

### 事例3: ミラノ・エマヌエーレ2世ガレリア (Galleria Vittorio Emanuele II) / イタリア

エマヌエーレ2世ガレリアは市の中心部にあり、代表的なイタリアゴシック建築のドゥオモ大寺院とその正面にあるドゥオモ広場とオペラで有名なスカラ座をつなぐ目的で建造された。この一帯がミラノ市の中心であり、ミラノの顔となる代表的な商店街である。ガレリアの舗面には、通りの舗装とは思えないほど精緻な舗装が施されている。赤、青、黄と色とりどりの細かいタイル状の大理石を用いて、数えきれないほどおびただしい数を配置して繊細なモザイクを形成している。表面は平滑に磨かれている。真鍮によって縁どりされたガラス板が舗装の素材として使われている部分もある。完成してから100年以上も歩行にさらされた路面とは思えないほど美しく新鮮でもある。ガレリアのFSDは社交場を連想させる。主要なパターンは領主家門の紋章や伝統的パターンを用いており、象徴性、地域性が高い。[図15]



図15 エマヌエーレ2世ガレリア

### 事例4: アートワークなどを関連させた FSD 開発事例

FSDの開発において、舗面上のデザイン展開にとどまらず、アートワークやストリートファニチャーを、歩道舗装と関連づけてデザインし、総合的な調和をはかった歩行環境あるいはシステム展開された歩行環境を形成することで、歩行者に楽しさや快適さを感じさせている事例がある。

(図16-1、図16-2)



図16-1 メル (Mer) 通り (アントワープ) 図16-2 アムステルダム中央駅

(5) 地域の特色ある要素を表現したワンポイントの絵タイル・レリーフ

歴史的事項、祭礼、地元を舞台にした歌詞の情景、特色ある建造物、自然景観、動植物などの要素を絵タイルなどに表現して舗面に埋め込むFSDは、さながら街の絵ハガキを見ているような面白さがある。(図17-1、図17-2、図17-3)



図17-1 NAGOYA  
事例1：横浜／日本

図17-2 SIBUYA

図17-3 伊勢佐木モール

横浜では絵タイルが積極的に用いられており、外部空間に内部空間的雰囲気をつくっている。市内の名所を絵に表現した絵やさまざまな模様を表した絵タイルをワンポイントとして用いて通りにアクセントをつけている。伊勢佐木モールでは、絵タイルに風物を描いたものをFSDに活用している。元町では港町横浜を象徴する船の絵をモザイクタイルで表現している。無味になりがちな舗面において歩行者に視覚的楽しみを与えると同時に、地域の特徴を伝達する効果がある。(図17-4 元町)



図17-4 YOKOHAMA



図18 タワーブリッジプラザ

### 事例3：タワーブリッジプラザ (Tower Bridge Plaza)、 ロンドン／イギリス

ロンドンのFSDのなかで、パターンが際立つ場所としてタワーブリッジ付近のタワーブリッジプラザがあげられる。噴水を取り囲んで灰色の広い天然石と赤色と黄色系列の粘土ブロックが組み合わされており、単純であるが四角形を繰り返させて秩序ある美しいパターンが施されている。現地の人によると、そのFSDと噴水が形成する環境が観光客に人気であるという [図18]。

#### 3.4. 親環境的な素材を使用したFSDの事例

##### 事例1：バルセロナ、エルボルン (Ernborn) 通り／スペイン

バルセロナのエルボルン通りは、親環境的FSDの事例として重要である。通りに、サンタマリア教会に隣接した、粘土ブロックで施工された美しい広場がある。細く長い長方形の粘土ブロックが用いられており、ストレッチャー・ボンド (Stretcher Bond) 模様を横帯として用いて整理することで舗面を分割してある。広場にあるひとつの木を中心として大地の形態に合わせ、中央に水が流れることが出来るように広場中央が外郭線より低く設計されている。舗面は凹凸が多く、全体的には大きな三角形の形態をしている。親環境的材料である粘土ブロックで施工されている。舗面を立体的に変化させた建築物のような造形が引き立っている [図19]。

##### 事例2：クレンボンストリート (Cranbourn st) ロンドン／イギリス

ロンドンにおける親環境素材である粘土ブロックで施工されている場所としてチャイナタウンとオックスフォード駅に近い歩行者専用通りであるクレンボンストリートがある。施工されて間もないようにみえるクレンボンストリートは、通り全体が赤色系列の粘土ブロックである。正方形と標準型の二つの煙瓦を用いて、ストレッチャー・ボンド (stretcher bond)

とヘリングボーン・ボンド (herringbone bond) に組み合わせており、秩序を感じさせる快適な空間を演出している [図20]。



図19 サンタマリア周辺

図20 クレンボンストリート

### 事例3：ベットヒャー (Böttcher) 通り、ブレーメン・ノドイツ

ベットヒャー通りはブレーメンで一番人気ある通りなかの一つである。中世の通りを再現するために、1904年から1934年にかけて造られた。100m余りの通りで、舗面と建物が共に赤褐色の煙瓦で覆われている。中世の歴史を伝える高級な雰囲気舗面からも感じる事が出来る代表的事例といえる。粘土ブロックであり、粘土ブロックをヘリンボーン・オン・エッジ (herringbone on edge) 表現として四角形の面として、白に近い灰色の小舗石を帯として扱って表現している [図13]。

### 事例4：ケーニツヒ (Koenig) 通り、シュトゥットガルトノドイツ

シュトゥットガルトには、駅前に真っ直ぐ伸びた歩行者専用通りとしてケーニツヒ通りがある。ケーニツヒ通りには、レストラン、カフェ、ホテル、商店、デパート等が集まっておりシュトゥットガルトの繁華街として存在する。この通りの特徴は、歩道舗装の材料に粘土ブロックを大々的に使用している点であり、近年に整備された通りとしてはヨーロッパにおいても珍しい。部分的に花崗岩を付随的な舗装材として使用している。通りを全体的に粘土ブロックで造った例はケーニツヒ通りが代表的な事例であると見る。この通りは赤色の粘土ブロックと小舗石の灰色を配色としている。舗装パターンの主要な構成は、巨大な通り樹の植樹台を中心として大きくサークル状に粘土ブロックを配列していることと、その他の部分はヘリングボーン・ボンド (Herring-Bone Bond) ストレッチャー・ボンド

(stretcher bond) の配列である。調査時期が冬期であったので、粘土ブロックの水分が凍り白化現象が観察された。ただし、花崗岩の冷たい感じと違い、赤い粘土ブロックと小舗石との配色処理は多彩で温かみを感じら

れるものであり、通りには暖かい雰囲気形成されていた。粘土ブロックの舗面は、周辺の現代的建物の色彩とも調和を成していた [図 2 1]。



図 2 1 ケーニッヒ通り

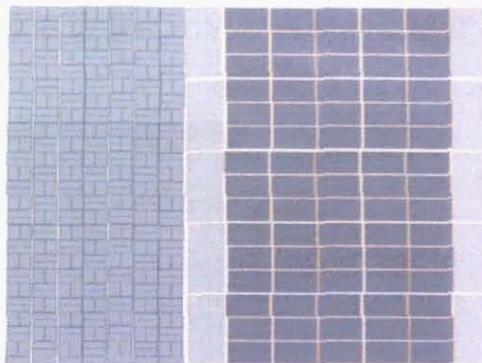


図 2 6 「全州伝統通り」の伝統的な黒系統の四角い瓦質材料



図 2 2 全州文化通り



図 2 3 仁寺洞伝統文化の通り

#### 4. 韓国の地域的。伝統的 FSD の考察

韓国の歩道における FSD は外国に比べて大きく劣っている。しかし、近年は、文化通り、公園、観光地などを中心にダイナミックな通りに発展させる努力が行われている。多様なブロックの素材開発によって形態と色相が豊富になり、パターン設計についても研究や工夫がなされることによって、定型的ではなく自由な舗面の表現が可能となっている。しかし、地域の象徴通りとして設置した文化通りであるにも関わらず各地域の象徴性が表現してある通りはそれほど多くない。また、韓国の文化通りに表現された地域性表現技法は、絵タイルで地域の遺物か地域名を表現したものがほとんどである [図 2 2]。

ヨーロッパや日本の場合は、FSD を景観要素として考えて、観光資源として、あるいは地域性を伝える広報事例として活用することを考える。韓国においても、もっと積極的に地域の特徴を表現することが求められる。波及効果を大きくするためには、公的景観要素である文化通りの舗装空間を地域のアイデンティティ確立のために活用することを通り舗装勸奨事項

に入れることもひとつの方策と考えられる。そのために、地域の文化的特徴を、FSDに独創的に表現できるようにより深い研究が必要である。文化通りは地域の象徴通りとしての役割を担っており、地域アイデンティティ表現に適切な景観としてFSDを活用する方策について多角的に研究されなければならない。



図24 全州伝統の通り



図25 ソウル徳寿宮石壁通り

韓国のFSDにおいて伝統的な長方形粘土ブロックと粘土ブロックで敷かれている舗装としては仁寺洞伝統文化の通り、全州伝統の通り、ソウル徳寿宮石壁通りは良い事例である〔図22～25〕。韓国の舗装材料は高圧セメント、アスファルト、粘土ブロック、花崗岩、磁器質タイルの順序で多く使われている。近年は、地方自治体の要求によって地域の特性を表す歩道のFSDへの関心が高まっている。韓国において、よくデザイン特性があらわれており、パターンの特徴的な場所である「全州伝統の通り」「仁寺洞伝統文化の通り」について、その特徴を考察して以下に記す。

韓国における舗装の初期の事例を紀元前108年の楽浪文化遺跡に見ることが出来る。中国の漢文化の影響を受けた楽浪文化の主要遺跡である。大洞川南岸の土靖理周辺の墓の内部の床に長方形粘土ブロックが敷かれている。「敷ブロック」は、四角い形態をした模様のない粘土ブロックである。まれに菱、斜線などが調合された模様が施されている。時代が下った扶余の百濟遺跡から出てくる「方ブロック」は、今日のセメントブロックのようなものであり、蓮華文、忍冬紋などが施文されている。ヨーロッパにおいて小舗石舗装が伝統的な技法であると同様に、韓国においては土を焼いて作った瓦の灰色煙瓦と板天然石の舗装が伝統的な技法であるといえる。朝鮮時代には公共建物、宮廷、お寺などの主要建物の床には伝統的な黒系統の瓦質の材料が用いられており、今日でも祠堂（王陵、宗家などにてそのところの先祖をまつる場所）、古宮などに残されているのが確認できる。

「全州伝統通り」と「寺洞伝統文化の通り」は、その伝統的な材料が敷設されている〔図26〕。

## 5. 個性化のためのFSDガイドライン

次に個性化のための韓国で多く使われる分類方法として地域の特性を文化観光地区、商業地区、住居地区、公園美観地区などの4種類に分類して各地区別にFSDの色彩、パターンなどのガイドラインを提案する。人が多く集まる通りの多くが文化観光地区あるいは商業地区である。それらの環境には、楽しさや活気を演出するようになぎわいのためのFSDと、人びとがリラックスして憩いや安らぎを感じる場所となる休息のFSDとする計画が同時に必要であるとあるといえる。

歴史。文化観光地区において、通りの周囲の建築物などに歴史性など文化的性格が強く表れている場合、FSDの色彩を消極的な色彩で「地」の表現をする手法が空間としての調和を形成しやすいといえる。特に無彩色系列の色彩でとすることを推奨する。ブロック舗装とすることが舗面に表情を与えやすい。ヨーロッパの事例においてはストレッチャー・ボンドとヘリングボーン・ボンドを適切に組合せた効果が高いことが確認される。これらを参照しながら複数のブロックパターンを組合せることが望ましい。舗装材料は、各地域に文化的な象徴物がある場合はその象徴物に調和させるような選択を行い、落ち着いた雰囲気のあるFSDを形成することが望ましい。地域の特徴とするものがない場合には、親環境的要素と経済的要素を勘案して計画するべきであろう。景勝地などの観光地のFSDは、自然石などを利用したユニークでゆたかな表現とすることがひとつの良い手法といえる。また、歩道に接する石垣など周囲に独自の景観要素があれば、同素材を用いるなどして調和させるFSDで表現するとよい。

商業。繁華街地区では、ショッピング街などに歩道で活気ある個性を「図」で表現することが多い。ブロック舗装の表面形状の特徴を利用して配列に変化を与え、活気ある雰囲気を表現するといえる。リズム感ある動的な要素と落ち着きのある静的な要素を調合したパターンが好ましい。極度に派手な図柄の展開や色彩の強調は周辺環境と不調和になりやすいことに配慮しなければならない。舗面のデザインを独立してとらえるのではなく、周囲の建物群との関係性をとらえることが大切である。多くの人で賑わう空間における歩行者の密度が極めて高い繁華街においては、室内絨毯のような

緻密なパターンを適用して親近感と安楽感を感じさせるような空間演出を施すことも印象が高い手法といえる。通りの入口や通りが交差する十字路などは、円形パターンなどを配して空間を強調したり、多色彩を用いた密度高いパターンを施すことで、通りの存在と位置づけを明確にすることができる。

住居地区のFSDでは舗装材の色や配列を単純なものにして落ち着いた生活空間を「地」と「図」で演出することが望ましい。

一般に、韓国の住宅街は建築土木に使われる素材の色相によって灰色調になりがちなため、舗面の色相として自然色を与えるような舗装材を用いると親密感と安定感のある環境がえられる。一般的な場合の舗装配色として白、灰、薄い黄の組合せを推奨する。

公園美観地区のFSDは、自然環境と協調できる舗装材としてクレイ舗装を「地」と「図」で表現することを推奨する。緑地の色とよく似合う大地の粘土煉瓦色が調和を成す。全体的に、土素材や木素材など親環境的素材の使用が望ましい。

## 6. まとめ

イタリアのボローニャには「ボルティコ」と呼ばれる建物と通路が一体化された地域独特な建築様式があり、同時に歩行者歩道である通路のFSDパターンが多様であり、歩行空間において地域のアイデンティティをよく表出している。イタリアの宗教建築物で見られるFSDパターンは宗教的空間の差別化を通じて聖なる空間を演出する。シエナの教会のFSDパターンとベネチアの「サンマルコ広場」の幾何パターンがその代表的例である。ミラノの「エマヌエーレ2世ガレリア」は威厳ある空間を形成する要素として精緻な絨毯を敷き詰めたような効果を醸成しており、歩行者に芸術的空間に対するような敬意を覚えさせる。今日では、高級な商業空間のFSDの代表的事例となっている。このような個性化したFSDは、各地域のアイデンティティを表現する役割を果たしている。差別化されたFSD自体が持つ象徴的役割は単に直接的な地域的・歴史的事実を絵に表現するもの以上の意味を持つ。日本初の商業地区歩行者モールとして設計された横浜の「伊勢佐木モール」とまた優れたFSD事例である仙台の「一番町商通り」において、その差別化されたFSDパターンによって地域性の表出して空間を形成しており、地域の人々に誇りを与え、多くの観光客を集めている。

FSDについてヨーロッパと日本の優れた事例を調査することで、韓国の現在の状況と今後開発すべき課題があきらかになった。各地域を象徴するような絵タイル、マンホール、通り地域表示またはその地域の素材を使用した舗装を選別してみた。韓国では、伝統的素材である瓦の「方ブロック」を使用した事例、あるいは各地域別象徴物と各地域の歴史を知ることが出来るような絵タイルやFSDを施した事例が確認される。ヨーロッパと日本における個性表現となっているFSD事例は、舗装材によって地域特性をよく表現している事例が多い。日本では、その地域の象徴的パターンと絵タイルなどによって地域アイデンティティを表現していることがわかる。日本のFSDパターンでは、全体的によく模様が編まれたような区画が形成されていることが印象的である。一方で、あまりによく編まれたような区画であることが人為的な感じを与えることもある。ヨーロッパでは、伝統的材料である小舗石で舗装することで歴史性と伝統性を表出している。ヨーロッパの舗面パターンでは、伝統的素材である天然石材を使ったものが多く、素材が持つ自然な表情を活かしたものが大部分である。イタリアの場合、FSDの形態パターンが多様であることが特筆される。石の文化が形成したヨーロッパの都市景観は、変わりえないものに対する厳格な秩序を求めるものといえ、着実に部分を整備していく。歴史における普遍性と確実性があみだしたもののFSDであると考えられる。ヨーロッパのFSDは、総じて、各地域の自然、環境、歴史、文化などがよく反映されている。大都市の中央駅を中心に歩行者専用通りが計画、形成されているところが多いことが韓国と違う点である。

優れたFSDの事例の調査を通して確認されたFSDにおける個性表現の方法の要点としては、まず、街路景観における図と地の関係を考えた上でFSDに求められる役割を設定することが大切であることがあげられる。次に、新しい街づくりでみられた個性表現の好例から、地域的な材料、すなわち地元で広く使われる石や焼物など伝統的技法による舗装が施されたところの評価が高い。伝統的技法は、おおむね自然調和的な舗装材となっている。また、街並みの建築物の特色を考慮して、地域の特色を反映したFSDを施すことで、地域の印象が強くなることがあげられる。建築物と同系統の色彩による舗装は、暖かく親密感のある街路の雰囲気醸成するといえる。地域の伝統工芸品や芸術作品などをFSDへ応用することは韓国においてもしばしば見られる技法である。地域の特色ある要素を絵画的に表現した絵

タイルやレリーフなどをワンポイントでアクセントとして用いることが、殺風景になりがちな現代的な都市景観に好印象を与える FSD となりうるということが検証されたと考える。粘土ブロック舗装は伝統的な技法であると同時に今日の FSD としても非常に有効な材料である。表面形状の特徴を利用して舗装配列を工夫してリズム感や変化があるゆたかな表情を形成し、活気ある雰囲気演出することができる。そのうえ、親環境素材であることもメリットである。

#### 注

1. 人のための道と広場の舗装：金井格他著 技報堂出版刊 1994 p109
2. 街路の景観設計：土木学会編 技報堂出版刊 1999 p15
3. 地域的、親環境的フットスケープデザイン開発の研究及びDB化：金明蘭、韓国デザイン進興院、2003、p143

## 第5章

### フットスケープデザインの枠組みの構築

## 1. 研究の背景と目的

韓国では地方自治制が実施され、各地域の特性を強調する時代になった。朝鮮戦争で灰燼と化した韓国の都市は、その後急速な欧米文化の輸入とともに復興した。しかし、都市環境は無国籍的といってもよいほど全国的に一律となってしまう、各地域の特性が無くなっている。既に形成されてしまった都市において地域的景観を構築しようとしても、景観要素の中で一番影響力のある建物はその大多数が私有財産であり地域イメージとして調整することには難題が多く、あらためて地域的固有性をつくることは不可能に近い。一方、道路は多くが公有財産であり、地域のイメージを調整するのに適している。今後は、都市景観において地域的固有性を表出するために道路の活用が望まれる。特に歩行者空間は、機能が優先される車道と違い、都市住民の健康と情報交流などのための集合機能がある場所として各地域のイメージと固有性を調整するのに最適な要素といえる。また、これからの時代には道路環境の整備において親環境的な要素も考慮されていかなければならない。韓国においては、優れた道路舗装環境の構築を目指すフットスケープデザイン (footscape design:以下 FSD と記す) 開発はほとんど進んでいない。そのため、FSD 開発のための枠組みの構築が必要である。特に歩行者空間についての FSD 開発の研究が重要となる。本章では、歩行者空間における FSD に関する理論的背景の整理を通して、地域的、親環境的 FSD 開発のための枠組みを体系的に構築することを目的とする。FSD 開発に活用される概念の確立が、地域性あふれ人間性の豊かな親環境的歩行者空間の計画に寄与するところが大きいものと考えている。

## 2. 研究の方法

本章の対象とする概念である FSD という用語は、一般的に常用される語ではない。意味するところは「足に触れる空間デザイン」であり、したがって、「歩道舗装デザイン、歩行者空間の舗装デザイン」を示している。まだ、用語概念は確定しておらず、確立が急がれる。世界的に見て FSD に関係する理論的研究はほとんど見られない。本章では、文献調査を通して、FSD に関連する基礎的概念を収集し、それらの考察・分析を通して FSD 開発の枠組みの構築を目指す。本章では、まず、土木工学における「道路・舗装材料・舗装工法」関連領域、道に関わる研究領域、ランドスケープに関する景観デザイン、都市デザインに関する分野などを対象として FSD に

関連する資料収集を行った。その上で、「歩道・歩行者空間・FSD」開発に用いられる概念の確立を行った。同時に、歩道舗装における素材と工法、FSDにおける基本技法、造形要素、機能別類型を分類した。以上を総合して環境と人に優しく親近感、快適感のためのFSD開発の枠組みの構築としてガイドライン提示を行うものとする。

### 3. FSDとは

FSDとは footscape design (歩道舗装デザイン) の略字である。FSDは未だに明確な定義がなされておらず、本章ではFSDを「歩行者空間における足に触れる空間デザイン、歩行者(幼児用および身体障害者用の車を含む)の安全で円滑な歩行環境の構築のために、より快適で豊かな街路景観を目指して、歩道表面の舗装パターン、色彩、街路装置(街路灯、看板、マンホール、ゴミ箱など)、広告物などの相互関係を調整しながら、舗道舗装を形成すること」と定義する。

以下において、歩道設置の手始め、歩道の機能、歩道の構造と歩行者空間の概念および類型など、歩道に関わる理論的概念の把握を行う。

#### 3.1. 歩行者空間の歴史とその概念

人類の歴史において原始的な集落や初期の都市は人間の移動能力によって形成されている。歩行のための通りが、住居地域の位置、形、大きさなどを形成する決定要因となった。原始的な住居地域の大きさは、明るい昼のあいだに移動可能な範囲に制限されたから、どのような都市も端から端までの距離は20kmを超過しなかった[注1]。歴史上で偉大な都市は、歩行者のための都市が形成されている。中世において都市計画者は、人々の情報交換や相互交流の必要から都市の中央に歩行者用広場を造った。広場は市場であり、集会の場、祭祀空間、レクリエーションの場所であった。

また、国家の建設においては道の整備が極めて重要な要件である。紀元前100年頃に建設されたローマ帝国の道は総延長約29万キロメートルにおよぶ大道路網を形成していたといわれる。この道づくりは、交通機能を整えるだけではなく快適さと美しさも追求したものである。人間のための舗装を考えれば、何よりも安全であること、次に歩きやすいこと、そして歩く楽しみがあることが求められる。安全で歩きやすい道の環境によって身体への負担が軽減されることは当然だが、かたちや色彩が多様であり視覚的な変化によって歩くことに楽しさが生まれることによって歩く疲れが軽

減される。ヨーロッパにおいて数千年間来作られ続けてきた石の舗装の原形は「カボチャの道」のチロル峠の舗装にみられる。その類型が、ポンペイ、オステティアやフォロ・ロマーノの古代都市の遺跡に確認される。ヨーロッパの古代都市の舗装はどの都市においても類似している。道幅がある場合の舗装は丸い自然石を切断した形態の舗装石を用いている。広場は矩形の大理石で舗装されることが多い。これらの舗装方法は現代のヨーロッパに伝わっている。ヨーロッパの通りを調査した結果 [注 2] を確認しても、主要な通りのほとんどが車道、歩道共に石材で舗装されていることがわかる。広場の舗装はほぼ例外なく石材である。最もよくみられるものは、だいたい 10-15cm 角の立方体形状の石を用いる小舗石（ピンコロ）舗装である。ヨーロッパにおいて地域を問わず敷かれており、ヨーロッパの街路の雰囲気の特徴づけている。小舗石舗装の主なパターンは円形に重ねるように配置するとか、それを繰り返して波濤文に表現する技法である。歩道などによくみられる。今日では、ヨーロッパ以外の地域においても多用される FSD パターンとなっている。

ポンペイの遺跡には、車道と歩道の区別がみられる。イギリスのロンドンでは、1666 年の大火災以降にニュークィーンズストリートとキングストリートに歩道が設置されたのが初めとされる。その後 1762 年には大半の街路に歩道を設置する道路法が制定された。フランスのパリでは 1782 年に車道より一段高い歩道が初めて出現した。日本では 1872 年、イギリス人設計者によって東京銀座に舗装された歩道が設けられた [注 3]。今日の歩道は、一般に縁石によって車道面より高くすることを原則とする。これをマウントアップ型 [注 4] といつて自動車の間違って歩道に入ってくることを防止するために造られた構造である。幅が狭い街路の歩車道路分離は防護柵を設置せず、マウントアップ型でその役割を果たす例が多い。

韓国の場合、道路と交通に関する法律である都市計画法、道路法、道路交通法には歩行者専用道路と歩車共存道路に関する規定はない。したがって下位規定である都市計画施設基準、施設基準に関する規則での道路の構造ならびに施設基準に関する規定に歩車共存道路に関する法律的根拠と施設基準が存在しない。そのため、歩車共存道路の導入に多くの問題が生じている。

### 3.2. 歩行者空間の類型

歩行者空間の類型としては、共用空間であり歩行者空間としての「ショッピング区域、連絡・通過区域、出入門」、造形、芸術の空間、休息区域としての「テーマ空間と文化の通り」が考えられる。通りの環境は、街路を構成する各物的要素とこれらの要素の複合的關係性によって成り立つ。通りの物的環境の上に通りの文化環境は存立する。したがって、通りの物的環境をどのように形成することが、各都市において文化的意味のある街路環境に改善することにつながるか重要な課題である。本章の主題であるFSDの地域的、文化的意味を持たせたるための物的環境要素を整理する。

### (1) 歩行者専用道路・遊歩道

現代においては、道路の多くは自動車に焦点を合わせ車道を主として設計されており、歩道は付随的に設計されるため、歩道の胸背やカーブ、線形などの構造は歩行の条件に合致されない部分が少なくない。歩行とは人間のエネルギーによって移動することであるため、そのための道路構造は自動車に要求されるものとは根本的に違う。そのような観点から、車道とは独立した歩行者空間が要求され、歩行者専用道路や遊歩道〔図1〕、緑道などが設計されるようになった。

このような歩行者専用道路や公園の緑道は、通勤、通学、ショッピング、散歩などのために造られ、歩行者空間を車道と線的に分離することによって、安全性と快適性を確保する。同時に、レクリエーション需要にも対応するように設計されることも多い。また、遊歩道と呼称される歩行者専用道路には、河川堤防、河川沿岸などを利用する場合も多い。既存の河川、樹林などを利用して自然環境の雰囲気を楽しむ空間を確保することが行なわれる。

歩行者専用道路や緑道での歩行行動には、通勤、通学、ショッピング行為としての目的を持つ行動と散歩など歩行行動自体が目的となる行動がある。歩行者専用空間は都市におけるオープンスペースとしての機能も有する。

### (2) 歩車共存道路

歩車共存道路〔図2〕というのは、既存の市街地の地区道路と都心及び都心周辺の新・旧住宅開発区域内のにおいて、道路が歩行者と自動車の共同利用領域となるように計画されている交通区間を示す。機能的には、一般車を完全排除する歩行者専用道路と歩道と車道の空間的分離を原則とする街路の中間にあたる。場合によってコミュニティ道路〔図3〕またはボ

ンネルフ (Woonerf) [注5] と呼ばれることがある。コミュニティ道路とは、地域住民のための道路として自動車が速度をあまり出せないように道路構造を設計し、歩行者と自転車の通行を優先しながら自動車の通行を確保するものであり、歩行者、自転車、自動車が相互に安全で快適に共存するような道路をいう。人と自動車の通行の調和によって歩行者の安全を期するものであり、また、同時に植栽などにも気配りして豊かさと余裕がある快適な歩行空間の形成を期することが多い。歩行者のために自動車の交通を抑制することで、歩行者専用道路の道路デザイン方法が開発されている。ボンネルフ (Woonerf) とは、直訳すれば「生活の庭園」[図4]であり、人と自動車が共有することができる住宅地道路である。従来のように交通規制に依拠せず、物理的に道路構造のありかたによって自動車にとって通行は可能だが不便な構造にすることで、不必要な自動車通行を排除する方法である。道路において子供達が遊ぶことが出来たり、住民たちが行き交いながら話すことが出来たり、生活空間機能が充実することを意図している。車道と歩道の区別を無くして人と自動車が同一空間を共有しつつ、歩行者と住民の生活機能を脅かさない範囲で自動車通行を認めることが基本概念となっている。この概念を実現するため、自動車が高速で走行できないように通路をジグザグ形態にしたり道路に凸凹の障害物を設置したりする。また、歩道と車道の区分を明示せず舗装面の材質感に変化を与えることで人は路面全体を使うが自動車は限定された空間以外で通行することが出来ないような印象を与えるように配慮する。

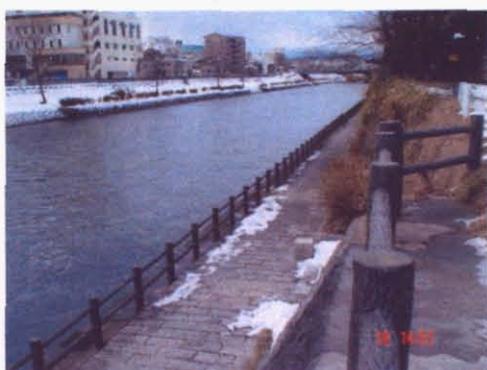


図1. 盛岡遊歩道



図2. ジュネーブ歩車共存道路



図3. 用賀街コミュニティ道路



図4. 元町ボンネルフ (Woonerf)

### (3) パサージュ。ショッピング・モール

パサージュは交通の危険や雨の心配をしないで買い物できるカラスなどで屋根をかけた通り、抜け道の意味である。18Cから19Cにかけてヨーロッパで流行したが19C後半デパートの出現により急速に衰退してまた20C復活された現代パサージュはショッピングだけでなくレジャー施設やコミュニケーション施設、カルチャー施設なども備えたコミュニティセンターとしての役割ももっていると言えよう。〔注6〕

ショッピング・モール (shopping mall) というのは快適で魅力ある歩行者空間を用意した商店街道路をいう。このような概念の道路整備は日本では1978年に完成した横浜の伊勢佐木モール〔図5〕、1979年に完成した仙台一番町買物公園〔図6〕などが本格的なショッピング・モールとして有名である。モール (mall) というのは略語であり英語での本来の意味は「木陰が多いプロムナード」である。これが繁華街としての商店街に導入された。このような概念の商店街づくりは、1930年代にドイツのエッセン市の中心部で車を通行止めにしたことから始まったとされ、第二次世界大戦後にはヨーロッパ各地で本格的なショッピング・モール街路がつけられた。ショッピング・モールを作ることは人間主体の街づくりである。商店街の場合、その多くの場合幅員に余裕がなくデザインの展開に限界がある。デザイン要素としては舗面、路上設置物であるストリートファニチャー、アーケード、植栽などに限定されやすい。限られた要素のなかで、どのようにすれば商店街の特徴を活かすことが出来るか、または地域性を活かして街路整備が可能かということが課題となる。しかし、独自性を強調しようとして、多くの種類の要素を狭い街路空間に展開するとむしろ美的要素を害しやすい。狭い空間である場合には、むしろデザイン要素を限定して特徴を活かすことも必要である。



図5. 横浜伊勢崎モール



図6. ミラノ ガレリヤ パサーージュ

#### (4) 「象徴通り」と韓国の「文化通り」

都市の代表的幹線道路は、都市のシンボルになる街路として象徴通り (Symbol road) と呼ばれる。象徴通りは都市構造の中軸になる街路であり、地理的に都市の中心に位置する場合もある。沿道に都市を代表する建築物が存在することもあって、その都市の顔になる街路である。パリのシャンゼリゼ通り [図7] が例にあげられる。

現代の市民は生活の中の文化活動を願う。都市の住民は近代以後急変した都市環境で新しい通りの文化を創り出した。都市環境の中であって、通りとは公共地域として市民が平等に使うことができる公的財産である。韓国文化観光部が1990年度から「文化通り」の指定を始めた。「文化通り」は地域の象徴通りでもある。「文化通り」の現状については既報で詳しく論じた。「文化通り」は、各地域の文化の特徴を表すものとしての象徴通りであって、独自の特徴が形成されていなければならない。しかし、韓国の多くの「文化通り」は文化的アイデンティティが弱く、独自性が十分に形成されているとはいえない。「文化通り」を構成する基本要素は、「文化活動」とその文化活動が行われる物理的空間環境すなわち「通り」、そして、文化活動の主体となる「人間」である。この三要素は通りを文化的にするための計画と構想から、実際これらを具体化するプログラムの運営に至るまで、すべての過程で役割を果たす重要な要素である。



図7. 左 パリ シャンゼリゼ通り



右 ソウル インサドン文化通り。

#### 4. 歩行空間におけるFSDの役割

FSDは、道や広場の歩行をはじめとする各種交通の機能ならびに舗面の美観に深く関わる。道や広場における遊びの要素の導入やサインデザインとも関連する。現実の整備計画においてFSDを考える際には、あらかじめ舗装材の材質、舗装の色彩、舗装パターンなどが決められたりしており、さまざまな進め方がみられる。いずれの場合にしろ、FSDは街の景観に大きな影響を与えるものであり、さまざまな要件を勘案し的確に計画されなければならない。

都市の生活者が舗面を見る視点は大きく分けて次の3つになる。①道・広場を歩きながら街の景観の中に舗装を見る、②ビルの上階あるいは坂の上などから街の景観の中に舗装を俯瞰する（ここではロングショットの眼と呼ぶ）、③道・広場を歩きながら足元の舗装を見る（ここではズームアップの眼と呼ぶ）。FSDは図面上で決められることが多く、②のロングショットの眼は把握しやすく常に考慮されているが、③のズームアップの眼は忘れられやすいといえる。

今日においてFSDを計画する際は、現代のデザイン潮流に留意することが必要であると同時に、古典的あるいは伝統的なFSDの知識をもつことも重要である。欧米の古い街路・広場・庭園や、中国の庭園に様式化されたFSDがあり、小舗石やレンガの並べ方として伝統的なパターンが存在する。

歩道は歩行の機能以外にも様々な機能を要求する。歩道空間は沿道の建築物と共に街路空間の大きな部分を占め、都市空間の雰囲気形成する都市景観形成に大きく影響する要素である。歩道には、景観の質を高めるモニュメントなどの路上施設を設置する空間も要求される。〔図8-1〕電柱、電話ボックス、郵便ポストなどの公共物や防護柵、道路標識などの道路附属物が占用する空間ともなる。またバスステーション〔図8-2〕、横断歩道橋、地下道入口などの空間を確保する場合もある。自転車の駐輪設備を設置する場合もある〔図8-3〕。都市内の道路は自動車、歩行者などの交通の目的だけではなく、都市生活関連施設（ライフライン、電力線、通信線、CATV線、ガス線、上水道管、工業用水道管、上水道管、下水道管、集中暖房管など）の共益物〔図8-4〕を設置する重要な機能もある。特に象徴通りでは植樹帯を設置して植栽による美観の形成と、街路幅員の中での空間を整備して個性のある街路空間を造成することが求められる。



左から図8-1 パリ forum de alle 図8-2, 8-3, 8-4 ベルリン

機能主義のデザインが、建設の各分野で主流を占めていた時期がある。舗装の分野では従来は車道にレーンマーク、制限速度、横断歩道などの表示がトラフィックペイントとして描かれてきた。しかし、ショッピング・モール、駅前広場などに代表される、より景観への要求が高い場所のFSDにおいては装飾の要素が強く反映する。このような道や広場は都市の中で、新しく人のための役割を担うものであり、その要求は新しいFSDにより充足されることになる。FSDにおいて考慮されるべき機能として、次のような役割が考えられる。

### (1) 快適な歩行の為の役割

a. 歩きやすさ：歩きやすい、疲れないということは歩行者にとっての快適性を考える中で最も重要なことである。歩行路面の状態によって非常に影響される。また、歩行者が対向歩行者をさけたり、左右に振れながら歩行するときの歩きやすさにも配慮なされなければいけない。

b. 安全性：滑らない、つまづかないということが必要である。これも歩きやすさにつながることであり、歩行路面の舗装材の表面材質、舗装材の固定性、施工の状態に影響される。安全に歩くことができるという機能性に重点が置かれる。

c. クッション性：歩行者にとって歩行路面の足触り、足の感触のクッション性は、歩きやすい、疲れないことに直接的な関連がある。歩行の機能性での重要なポイントの一つとなるものである。

d. 視覚的快適性：歩行者に視覚的に快適さを感じさせることも重要な要素の一つである。歩行路面の材質、色彩、形などにより目で楽しませ、歩くのが楽しくなるという視覚的快適性が求められる。

e. 体感性：日射による照り返しなど微気象による体感性の問題も歩行者の快適性を考えるにあたって重要なことである。歩行路面の材質のみでなく、歩行空間構成要素の複合化において処理すべき今後の課題の一つである。

## (2) サイン、 標識の役割

舗面は、各種の情報を伝達する役割を果たすことがある。道標や方向指示など各種標識の役割を FSD が担うことで 舗装の表面に地域や構内の地図を示したり諸施設への方向を指示するもの、舗装に矢印と「(対象施設)まで・・・メートル」と描いて目的地への距離を表したもの、街中に整備する開発において、舗面にその経路を標示するときに、舗装のカラー化、道標としての絵タイルなどの目印を等間隔に設置して誘導するもの、入口を表示するためにワンポイントの模様を表すもの、広場や公園と結びつく遊歩道や自転車道路や歩行者道路の区分を示すもの、公共施設の所在が分かるようにするものなどは、舗面においてより詳細に情報伝達の役割を図ることが可能である [図 9]。



図 9-1 広島



図 9-2 名古屋



図 9-3 名古屋



図 9-4 用賀町

## (3) 装飾・遊びの役割

従来は、公共施設の計画において遊びの要素は排除されていた。導入された場合でもささいなものにすぎない。舗装デザインにおいても同様だった。しかし、今日では遊び心を前面に出した FSD も見られるようになった。遊びを取り入れた FSD の例として、①ワンポイントの絵タイル、金属レリーフを配する、②美的、遊び心のある造形物などがあげられる。遊びのデザインは合理的であったり定型的ではつまらなくなる。遊びのデザインを成功させるには、素朴な心やウイットが必要であろう。 [図 10-1, 2]



図10-1 AMSTERDAM



図10-2 横浜

#### (4) 街路の個性、地域特性の表現

都市には多種多様な色や建築素材が満ち溢れ、街の景観のまとまりをする必要がある。横浜市のように建物の色彩をレンガ色または茶色系を基調とする行政指導のように、街の背景となる基礎的な色を統一すべきである。その役割としてFSDのいろとパターンなどは街路景観に重要なのである。地域内の街路をそれぞれ個性的にすることで、街を視覚的にわかりやすくする手法がある。FSDにおいて、色彩、テクスチュアを街路により、あるいは街区により少しずつ変える、東西方向と南北方向の街路で舗装材を変えるなどの技法がある。地域特性を大切にし、街や街路の独自の魅力をつくり出そうとする努力が各地で行われており、舗装デザインにも地域特性の表現のための工夫が見られる。自然要素あるいは人文要素としての地域特性から、特色ある要素を抽出して視覚的に舗装に表現する。



図11-1 浦安

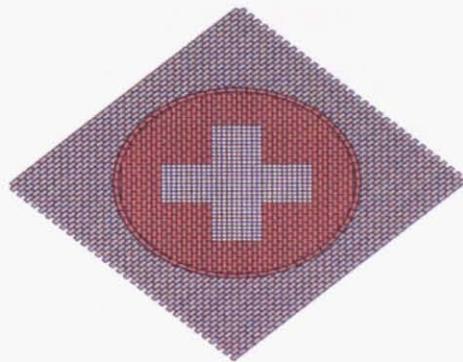


図11-2 ジュネーブ (スイス)

#### (5) 街路景観の連続性を高める役割

日本の街は不連続性デザインの街といわれることがある。オフィス街や商店街ではさまざまなデザインファサードの店舗が並んでいる。そのような場所においても、舗装をカラー化し統一感のある舗装デザインにすることで、街路景観の連続性を高め、一体感をより強く演出することができる。

車道が自動車の走行のための機能性を有するのと同様に、歩道には人間の歩行のための機能性があることが歩行の快適性になる。人間の歩行のための機能性を考える場合に、舗装材・施工上の舗装構造など物理的な側面のみならず、個性的で親しみと潤いなどの心理的な側面が歩行空間構成要素の複合化によって醸し出されることにも十分配慮しなければならない。路面の舗装材の美観性、環境演出効果、すなわち道の「用と景」を考えることが重要である。〔図12-1, 2〕



図12-1 ヴェローナ（イタリア）



図12-2 千葉市

## 5. 歩行空間の目的別 FSD の類型

今後の FSD 開発の手がかりとして、FSD を空間の目的別に、機種の整理・分類を行う。街路は、空間の性格によって、（1）文化観光地区、（2）公園・休養地区、（3）商業地区、（4）住宅地区に分類することができる。それぞれの類型を、韓国の「文化通り」各地区の FSD を実例として類型を分析した研究報告を既報に記した。FSD には、景観要求と機能要求がある。歩道の FSD には、景観に関わる視覚的評価要素、歩行の快適性に関わる身体的評価要素、強度や耐久性に関わる物性的評価要素がある。また、必要に応じて、遊びの要素、情報伝達（サイン）要素も必要になる。そのうえで、地球環境を配慮した素材選択が行われなければならない。これらの複合的な要求に FSD の機能が対応する必要がある。要求は個々の空間環境の目的に応じ多様であり、FSD はその目的別に適切に設計されなければならない。ここでは、FSD が空間目的別にどのような機能で対応することが必要であるか整理・分類を行った。鈴木の研究〔注8〕による、「祈願」「旅行」「ショッピング」「休息」「健康」「水」「遊び」「サイン」8種類の要素に従い、FSD を分類し空間別の機能指針について提言する。

### （1）祈願の FSD

道の舗装は、人びと日常生活や軍事的必要ではなく、信仰のための神さまが通う道として初めて舗装されたという説がある。初めてアスファルト舗装が施されたというバビロニア王国の道は、主神マルドクに対する賛美歌をあげながら神殿に向かう祈禱の道であった。祈禱の道は人間と神さまが出会える唯一の場所であり、厳粛なイメージの舗装が必要とされる。日本の知恩院の例では、単純で力強いイメージのFSDとなっている〔図13-1、2〕。



図13-1 SIENNA



図13-2 京都知恩院

## (2) 旅行のFSD

古くから、交易や軍事の他に、信仰、調査、観光などのために旅行が行われてきた。現代の旅行のFSDの代表的なものとして鉄道駅の駅前広場の舗装があげられる。日本では、駅前を中心に街並が形成されることが多く、駅前は地域内の交通の拠点ともなっている。駅前に形成される広場は多くの人々が通過し、また集まる場所であり、必要な情報を容易に得ることができるように便利さが追求される。ヨーロッパは、市街地の教会や市庁舎を中心として街が形成されていることが多いが、一般には駅前もやはり繁華街としてにぎわっている。日本やヨーロッパにおいて各地の中央駅前広場の舗装は、よく景観的に整えられているところが多い。駅前は歩行者交通の量が多いところであり、歩きやすく摩擦に強い素材が使われなければならない。日本やヨーロッパにおいて調査した場所では、タイル、天然石、インターロッキングブロックが多く使われていた。駅前広場に、街や通りの象徴を描いた絵タイルやモザイクタイルなどが使われている事例も少なくない。〔図14〕

空港ターミナルにおける舗装には都市の玄関としての佇まいが求められる。歩行者の交通の量が多く、またカートなどが用いられる場所でもあり、歩きやすく丈夫であることが求められ、素材や石材やタイルによる舗装が

多い。国際空港では国の玄関としての風格が求められ、また、鉄道駅よりも空間環境のスケールが大きいことから、大きな版の石材舗装が採用されることが多い。

### (3) ショッピングのFSD

日本の各地において、売上減少に対して魅力のある商店街をつくらうとして、ショッピングモール化の方策が打ち出され、それに伴う空間環境の整備が行われてきた。その際に、自動車の乗り入れ禁止、歩道のカラー舗装化、アーケードの設置など多角度からの整備を実施している。今日では、商店街にみられるFSDはたいへん多様で、各地の商店街景観要素として際立っている事例が多い。ショッピングのFSDには、一般に清潔感が必要とされる。舗装材は、数多くの歩行者交通に耐えなければならず、また歩きやすいこともたいへん重要である。そのうえで、構成する商店の規模や種類、ターゲットになる顧客層、その通りの歴史などを考慮してデザインされる必要がある。ショッピングのFSDは、他の公共空間のFSDよりも先鋭的であることが多く、世界的に有名な優れたFSDが生み出されるといえる。筆者らが調査した中で、ミラノのガレリアと横浜の伊勢佐木モールのFSDが代表的な優れた事例といえる。



図14 SWEDEN malmoe station



図15-1 Zeilstr

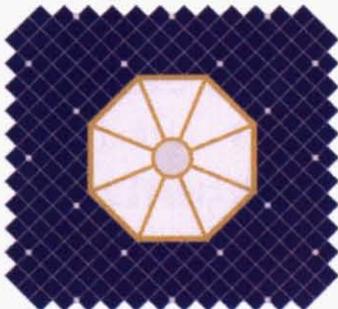


図15-2 Bremen



図15-3 恵比寿ガーデン

### (4) 休息のFSD

人が安らぎを感じ休息する場所として、都市の屋外において代表的な場所は公園といえる。公園は、大きく自然公園と都市公園に分けられ、その他に公園緑地、緑道などがある。(図16)

休息場所の舗装は、歩きやすさを追求することより、必要な安全性を満たした上で、ある程度の変化、心の安らぐ配色が要求される。舗装材としては、公園の雰囲気や環境、周辺の緑地や施設などと調和を成す必要がある。日本の緑が多い公園では、土、石、木など自然の素材を活かした舗装が多い。日本では多様な舗装材が発達しており、砂利舗装、クレイ舗装、洗い出しコンクリート舗装(表面にはめ込んだ骨材が現われる天然感のある舗装)、木煙瓦などが使われることも多い。遊ぶための施設が多い公園では、比較的強度の高いアスファルト舗装やコンクリート舗装に自然の色感を着色した反剛性舗装・脱色アスファルト舗装などが使われていることがある。また、噴水やモニュメントのある広場では、インターロッキングブロック舗装、タイル舗装などが多く使われている。

休息場所の舗装としては、東京世田谷区用の賀プロムナードは、その地の由来のある歌詞などを舗装に書き込んだ遊戯性を持つ良い事例である。シエナのカンポ広場も粘土ブロックに造成され、人に安らぎを与える素晴らしい休息のFSDといえる。



図16 新宿MOA街



図17 ストクホルムシチホール

### (5) 健康のFSD

舗装の機能として、ほとんどの場合は走りやすく歩きやすいことが評価される。しかし、むしろ歩きにくい舗装が必要な場所もあり、使われる方法によって評価は違ってくる。足は第二の心臓といわれる。裸足の足裏を刺激することは身体に良いことと知られており、凹凸のある舗装道路を歩くことは、大脳を刺激して血液の循環を良くさせる。大きさの違う石や丸

みを帯びた先長の石や太くて丸い石などを配列した舗装が健康のための遊歩道路として行われている。(図17)

#### (6) 水のFSD

ウォーターフロントの舗装は、河川や浜辺の水に対する景観的な調和、波や水の浸水に対する強さ、濡れた時の安全性などが要求される。基礎はコンクリート舗装であり、表層は景観を考慮して石版舗装やタイル系統の舗装が多い。表層の舗装材は抵水流や波に抵抗する強度が必要であり、比較的厚い材料が使われる。水のFSDのなかで遊びのFSDがあり、ウイットがあつて、子供達の遊び心を引き出す配慮が求められる。遊び心を引き出す配慮で歩行者専用道路に水遊び施設を導入した事例がある。[図18]



図18-1 yokosuka



図18-2 PARIS PONPIDUCENTER

### 6. 歩道の舗装材と舗装工法

舗装に求められる機能は、歩行性、走行性、施工性、維持管理性、その外に快適性、周辺環境との調和などがある。また、路面の平坦性、その空間の性格を表現する雰囲気演出効果、放射熱・雨水・埃・騒音などを調節する環境調節の機能性も重要である。

歩道舗装には、歩きやすく快適な路面を提供することが求められる。歩きやすいというのは、歩行路としてに必要な基本要件である。快適性は歩道の性格やデザインモチーフと関係する創造的要件である。歩きやすく快適な歩行に必要な路面材としての舗装の条件のなかに、クッション性、体感性、快適性が求められる。

舗装工法の仕組みと舗装工法によって異なる舗装材は次の通りである

#### (1) ローリング工法(平滑系舗装)

ローリング工法は現場舗装とも呼ばれる。ローリング工法で施工される舗装材は、アスファルト材、コンクリート材などがある。街路を飾る舗装

の種類は多い。その中で単独に多く使われており、また他の表層素材のベースとしても使われるのがアスファルト舗装とコンクリート舗装である。アスファルト舗装は黒色系であり、コンクリート舗装は白色系の表面をしていることから、それぞれ黒舗装と白舗装とも呼ばれる。

#### a. アスファルト系舗装

アスファルト舗装は表層混合物の骨材の大きさや材料の配合によって表層の厚さを2cm程度まで薄くできる。したがって交通荷重が少ない場所においては、表層の厚さを薄くすることが可能であって経済的であるため一般的によく使われる舗装である。アスファルトの色が黒色なので、景観舗装用で使う時は、顔料を混入して着色する方法、アスファルト混合物にカラー骨材を混入して着色する方法、アスファルト舗装の表面にカラー骨材をチップングする方法、アスファルト舗装表面に塗料を塗る方法などが行われる [図19]。アスファルト舗装を車道で使うのは一般的であり、路盤では再生砕石を使うのも多くなっている。アスファルトの黒色を色抜きして骨材の色を出した脱色アスファルト舗装は高価だが色合いが良いので園路などに使われている。一部では透水機能を持ったアスファルト舗装も使用されている。透水性舗装は、舗装と路床を通じて雨水や散水を地下に排水して地中に浸透させることによって水害を防止し地下水を涵養することを目的とする。透水性アスファルトの施工方法は一般のアスファルトと同じであるが、透水機能のためアスファルトの表層が多孔質の構造になっている [注7]。構造的に間隔があることから強度は弱く、車道に使うと車の荷重によっては舗装の寿命が通常の半分ほどになることもある。このため、現在はまだ車道に透水性舗装を施工することは出来ないため、重い荷重が積まれない人の歩行空間に透水性舗装が使われる。



<아스팔트> (반강성)

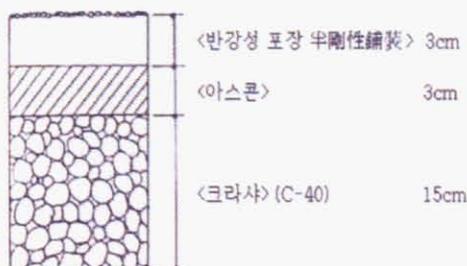


図19 Osan (韓国)

<アスファルト>上 : <半剛性舗装>中 : <アスコン>下 : <クラシャ>

## b. コンクリート系舗装

コンクリート系舗装は、コンクリート舗装の外に、豆砂利洗い出し舗装、玉石挿入舗装などを含む。コンクリート舗装は費用が安くて施工性も良いことから、公園の苑路や自転車置き場などに使われている。表面の仕上げには金属や木筆などでコンクリートの表面にテクスチャをつける仕上げ、コンクリート表面に石でパターンを作る仕上げがある。豆砂利洗い出し舗装は、苑路に使われたり池や水のある場所の床材料によく使われる。豆砂利洗い出しの種類や大きさによって各種の洗い出し舗装がある。断面構造は使用場所の路盤の状況によって異なってくる。玉石が使われた舗装は、コンクリートの上に厚さ 20mm 以上のモルタルを塗って玉石を平滑になるように埋めてセメントペーストを仕上げる。コンクリート舗装は施工してから通行可能になるまでにかかる時間が長いこと、温度によって膨脹収縮が大きい目地が必要となる、補修が困難などの欠点があるものの、大きな荷重に耐える強さと耐久性という利点がある [図 20]。

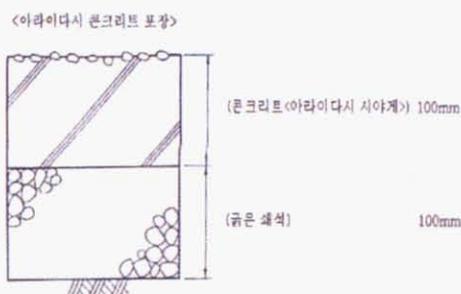


図 20 豆砂利洗い出し舗装

〈洗い出しコンクリート舗装〉上：コンクリート〈洗い出し仕上げ〉下：太い碎石

### (2) ブロック系舗装工法

ブロック系舗装はブロック状の材料を敷きつめて、表層として使う舗装である。板石を使った石畳舗装は古代から使われている。煙瓦を使った舗装もヨーロッパでは広く使われている。ブロック舗装は三層の構造をしており、最下部は下層路盤（路床）になっている。その上に砂を使ったクッション層を設置し路盤の凹凸やブロックの厚さを調整する。その上にブロックが敷かれる。ブロック間の目地の充填材は一般にクッション層と同じ砂が使われる。ブロック系舗装は小さく独立したブロックを敷き詰めたもののため、ブロックの材種や配置によって各種の模様パターンを作ることができる。ブロックとして、自然石平板、粘土ブロック、コンクリート平板、擬石ブロック、インターロッキングブロックなどが用いられる。プロ

ック系舗装でブロックを多数敷き詰める際に機械を使うことは難しく人手による施工にならざるをえない。そのためローリング系の工法に較べると施工コストは高くなる。しかし、掘り返した後の補修の際にブロックの再利用が可能であることは利点である。また、施工後に即座に歩行可能となる長所がある。

ブロック系舗装では歩行の快適性を確保するために、目地の間隔をできる限り小さくしブロックごとの段差が発生しないように仕上げる必要がある。歩道の端やマンホールなどの周囲の部分ではブロックの仕上げが滑らかに整理されない場合がある。このような部分の処理において、丹念な施工上の気配りが必要である。

ブロック系舗装には、各種平板舗装、インターロッキングブロック舗装〔図21〕、煙瓦系舗装、各種セラミックス舗装、敷石舗装などがある。平板には、コンクリート平板、豆砂利洗い出し平板、石平板など各種の平板がある。

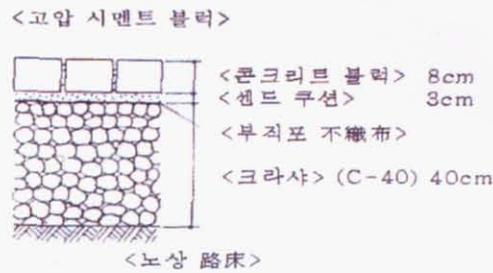


図21. yeoju (韓国)

<高圧セメントブロック：インターロッキングブロック>

上： <コンクリートブロック>

中上： <サンドクッション>

中上下間： <不織布>

中下： <クラシャ>

<路床>

## 6. FSD の造形についての考察

歩行者空間における快適な歩行と街路景観を高める歩道舗装の造形について考察する。

### 6.1. FSD の基本技法

歩行者の動線は線を描く。歩道は幅を持った線あるいは面として存在する。歩行空間は線的要素と面的要素に分類される。線的要素は、歩道、遊歩道、散歩道、緑道などに主に展開される。歩行はその動的性格からほと

んどの場合に線的な要素で成り立つ。歩道の舗装は、舗面を保護強化し、平坦性を高め、変化する気象環境への耐候性を持つように、適切な材料の選択がなされなければならない。また、歩行者の利便性と快適性を確保し、より向上させることが求められる。面的要素は広場において主に展開される。広場は多くの人々が集まり、滞留する空間である。動的な行動が主体の歩道と違い、休息など静的な行動の側面が強い。単に移動の便利さだけでなく、多様なパターンを取り入れた視覚的な満足感が要求される。

FSD 基本要素として一般に次の技法があげられる。

(1) 対称

対称には線対称、点对称（回転対称）がある。線対称は整然としている印象を与え、点对称はダイナミックな構成になる。世界的にみても、リズム要素とともに舗装パターンのなかで最も多く使われる技法である。

[図 2 2 - 1, 2]

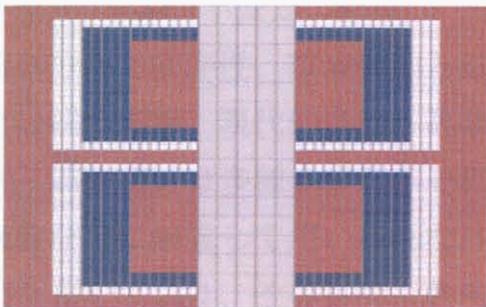


図 2 2 - 1. ストックホルム

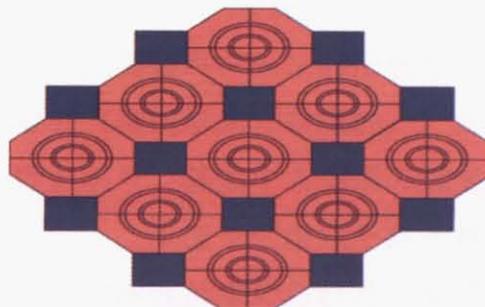


図 2 2 - 2. コペンハーゲン

(2) リズム

FSD におけるリズムは、歩行者に楽しさを与える。一番単純なリズムはモチーフを繰り返すことによるもので、歩道の軸線に沿って等間隔に線、四角形、その他のパターンを繰り返す。広場においても同じ型や文様を水平または垂直方向で繰り返したパターンはリズム感があって整然とした印象を与える。ラ・デファンス広場（パリ）のような定型ではない不定間隔による動的なパターン表現もリズム感を表現する。 [図 2 3 - 1, 2]

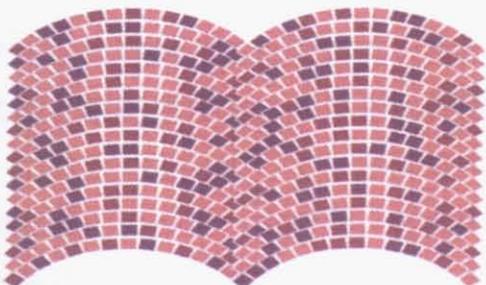


図 2 3 - 1. ブレーメン



図 2 3 - 2. パリ、ラ・デファンス広場

### (3) グラデーション (漸移)

図形の大きさ、色の明るさ、テクスチャ、パターンの密度などの要素を段階的に変化させる形式である。グラデーションは明度や色相の変化によって方向性を生み出す [図 2 4]。



図 2 4 Korea Daegu Olympic Stadium

## 6.2. FSD の造形要素

FSD の造形要素は形態、色彩、テクスチャからなる。形態は、点、線、面の構成要素を持つ。形態の構成は、垂直線 (崇高な感じ)、水平線 (安定感)、斜線 (不安定、動線)、円錐 (緊張、抱擁)、リズム性 (軽快性)、黄金分割と秩序性、環境調和と造形性がある。舗装パターンの形態類型では伝統的形態、現代的形態、具象型、抽象型 (幾何学的、有機的)、がある。舗装素材は多種多様だがそれぞれ特性があり、舗装する場所の歴史や環境などに配慮して用いられなければならない。歩道や広場はそれぞれ目的を有しており、その目的を具現するための合理性が求められる。歩道や広場は人間生活に密着したものであり、安らぎを感じられるようにすることが大切である。FSD はこれらを演出する重要なアイテムである。

### (1) 形態

通りの軸線に平行に描かれた直線は強い方向性を現わし、軸線と直角に等間隔で描かれた直線はリズムを持つ。広場に描かれた平行線は安定感を形成し空間に方向性を与える。直線はダイナミックな動きを表す。通りの軸線に対して曲がっていく曲線は柔らかいリズムを感じさせる。同一形態の三角形を繰り返すパターンは強い方向性を現わし、四角形を繰り返すパターンは整然とした安定感を持たせる。他にも、格子型、菱模型、煙瓦型、角型、扇形型など、それぞれ特徴を持った印象を与える。ストライプパターンは整然としていてリズムカルな印象を与える [図 2 5 - 1]。広場における円のパターンでは、古典的に広場全体を同心円と放射線で構成するときは強い求心性を持つ。どんな形態でも繰り返しパターンとして直線状に並べれば方向性を持つ。ローマのカンピドリオ広場にあるミケランジェ

ロによる星模様の楕円形で構成された放射形態のデザインは、強い求心性を持つ好例である〔図 25-2〕。不規則な形態によるデザインは、視覚的に歩行のリズムを混乱させるなど難しいモチーフになる。絵タイルやレリーフなどが舗面のワンポイントアクセントとして使われる。広場などで、一部に地図の具象的な図が描かれる事がある。ただし、広場などの全体の舗面を具象的な図柄とすると稚拙なものになりやすく、品格が感じられないものとなりやすい。

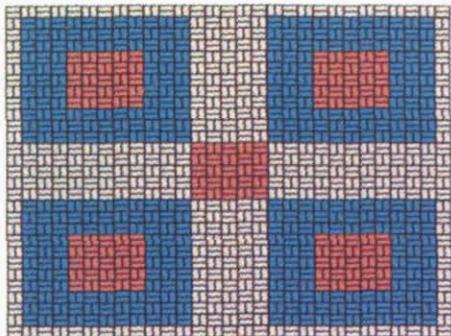


図 25-1 Seoul



図 25-2 rome campitolio platz

## (2) 色彩

古くからのヨーロッパの街路で多くの種類の小舗石を交ぜて用いる舗装がみられる。これは、はっきりとしたカラー舗装ではないが、石の固有色によって素朴だがカラフルな表情を持つ。近年はさまざまな舗装材が開発されており、例えば赤色の舗装においても、繊細な色相、明度、彩度を変え、多くの種類の色を準備するシステム化製品がある。また、低明度、低彩度の色彩の舗装材も揃ってきており、安定感のある配色も可能になった。舗装材の色彩は単に製品の色で判断できるものでなく、施工後の退色、汚さの目立ち方、雨が降ったときの濡れ色などに留意しなければならない。

舗面の色彩計画としては、色相、明度、彩度を自然素材に近づけることが落ち着いた環境を形成しやすい。一般的な色相として、白、淡い灰色、淡い黄色（ベージュ～イエローサンド色）系の三色の配色が基本となる。原色を使用する場合は低彩度にして、使用する色相の種類は限定する。周辺環境と調和を成す配色を心がけ、路面だけが目立つような華やかな色彩は避ける。道路標識物などと同系色にならないように注意が必要である。歴史的性格の強い通りは、周囲の環境に対して控えめな色相を使うことが望ましい。陽光の強い地域では、白色の舗装は反射が強く眩しく、土色系は反射が少ないことを考慮して検討することが大切である。

一般に、ベージュ系やブラウン系の色に統一された街路は沈着で安定感のある暖かさが感じられる。(図26-1) 白色を基調にした街路は明るい通りを形成し、強い日差しや海の色とよく調和する。アテネのアクロポリスの大理石舗装などが代表的な事例としてあげられる[図26-2]。煙瓦色など深い色合いの街路は安定感と重厚さが感じられる。日本にオランダやスペインなど実在する他国をイメージしたテーマパークがあり、それぞれの国の空間環境を再現する様な色や形態を用いている。長崎ハウステンボスでは粘土ブロックを主体に建物と床を構成しており沈着な雰囲気を感じることが出来る。

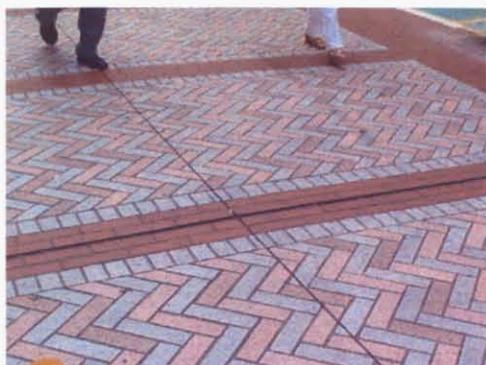


図26-1 横浜



図26-2 ATENE

### (3) テクスチャ

テクスチャは、材質感をいい舗装材の表面の状態のことである。テクスチャは「触覚的テクスチャ」と「視覚的テクスチャ」で分けて捉えることができる[図27-2]。「触覚的テクスチャ」は接触することによって感じられる材料の表面状態をいう。舗装材の場合は、舗装材の表面の状態を靴等を通して感じることになる。滑りやすさやクッション性も含む。例えば、木煙瓦と石とでは、木煙瓦が石に較べてかなり柔らかい感触を得ることができ、石は荒く硬質に感じられる。「視覚的テクスチャ」は目で見て感じられる材料表面の状態をいう。同じ材料でも加工方法によっては、凹凸、肌理の細かさなど表面の状態は違う。木、石、コンクリートなど各材料固有の材質感は視覚的に区別することができる。近年は、大理石のようにみえるコンクリートブロック、または布のように見える磁器質タイル等、他の材料のテクスチャを感じさせる材料が開発されている。舗装のテクスチャは、周辺の建築との調和を配慮する必要がある。二種類以上の舗装材を使えば組合せとしての新しいテクスチャが作

られる。単一の舗装材を用いる場合でも、配列や接合を変えることでテクスチャに変化を与えることができる〔図27-1〕。

また、テクスチャは、舗面の機能性に影響する。石材において、表面のテクスチャの違いは、水に濡れたときの滑りやすさと関連がある。平滑な表面仕上げの石材舗装は、雨に濡れれば滑りやすくなるので使用を避けたほうが良い。磨かれた平滑な面は、安全に配慮したうえで、ワンポイントデザインで使う場合がある。石材の表面を荒く仕上げれば、滑りにくくなる〔図27-3〕。筆者らがアテネの石の舗装路を歩いた際、アテネには稀な降雪があり大理石の街路は滑りやすくて歩き難かった。しかし、テクスチャがある部分の歩行は容易であった。

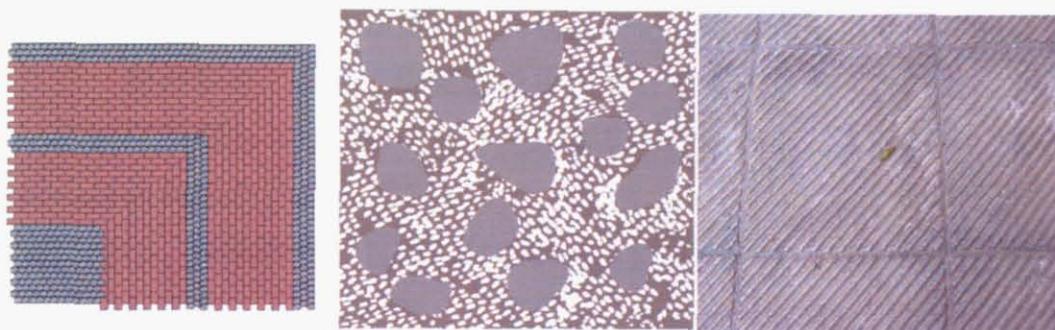


図27-1 Bremen 図27-2 Korea KURO 図27-3 ATENE

## 8. まとめ

これまで、FSDは、土木、建築分野で技術面や材料面を中心に研究がなされてきた。本章では歩行者空間のFSDについて、歩行者に影響を及ぼす感性面のありかたについての整理・検討を行い以下の内容を結果として導出した。

歩行者空間におけるFSDでは、安全と楽しさを与えることが第一である。そして、良好な景観の創出と周辺環境との調和を目指し地域性表現のための色や文様などに配慮がなされることが必要である。地域性を表現するための景観舗装としては、ブロック舗装工法が素材面で多様であることからデザイン展開の可能性が高く、そのパターンのつくりやすさや補修性の高さから施工面でも適切といえる。

これからの時代のFSDには、親環境的な配慮が強く求められる。親環境の舗装材には、まず、生産-流通-施工-使用-廃棄に至るまでのライフサイクルにおいて地球環境に低負荷であることが求められる。そのうえで、景観面で周囲の自然環境と調和しやすいことが大切となる。近年では、都市

化の進展によって発生する諸問題に対処することも重要であり、大雨での冠水やヒートアイランド対策として透水性や保水性が求められる。伝統的な舗装材であり自然の素材から出来ている石材や粘土ブロック材を用いた舗面の施工が、アスファルト舗装ローリング工法など比較したときに、親環境性が高い。現地調査から、これらの舗装がヨーロッパや日本において多く使用されることがわかった。韓国に先行する舗装の歴史の中で培われた知恵が生かされているものといえる。

FSDを通して、通りに個性あるイメージを醸成することが望ましい。象徴的な通りにおいては、歴史、文化などを感じさせる各地域特有の個性を適切な方法によって表現することが求められる。舗装材に地域的な生産物を用いて、個性を表す方法が考えられる。例として、海岸地域で貝殻を利用したり、陶磁器材において陶磁器破片利用したり、あるいは、濟州島のように玄武岩が産出される場所での地域産品の積極利用、森林地域における木材の舗装利用などがあげられる。

本章には、実地調査から得られたデータに基づいて、歩行者空間の目的別の機能と役割により「祈願」「旅行」「休息」「健康」「水」「ショッピング」のFSDを類別した。提示したFSD分類は、FSD計画のひとつの指針として活用可能である。また、地域的、親環境的FSD開発のためのよい参考となりうるものである。

FSDは、ハード面（舗装施工技術面）の計画にとどまらず、通り全体の調和を成すソフト面を創出することが重要である。歩行空間におけるFSDの役割として街路景観の連続性を高める役割がある。統一感のあるFSDによって色んな形、色で複雑な街路景観に一体感を与えて街路景観の全体イメージを決定する重要な要所である。街路景観の全体の調和のために植樹、防護柵、照明など歩道舗装周辺の道路附属物ならびに車道にも配慮しなければならない。

韓国においてFSD開発の今後の課題を指摘する。現在は、まだ多くの街路開発では舗面計画で単に廉価性が優先されている。FSDについての十分な検討のないまま、廉価なセメントあるいはコンクリートのインターロッキングブロックの使用が選択されてしまっている。また各種の必要から、道路が頻繁に掘り返され、その度に舗装が行われている。単に施工時のコストのみで舗面の計画がなされるべきではなく、歩行者の快適性の向上をふまえたうえで、機能、美観、環境対応、経済性などを総合的に検討して

FSD が計画されなければならない。韓国においては、通りの景観やFSDに対する市民意識の高まりが求められる。道路づくりに関わる行政関係者は、FSDに関する詳しい知識を有して、高まる社会要求に応えるよう道路計画を進めていかなければならない。

## 注

- 1) John. J. Fruin : Pedestrian Planning and Design、泰林文化社、p4～9、2001
- 2) 石井一郎編著：都市景観の環境デザイン、森北出版株式会社、p21、2000
- 3) 縁石が車道面より約 20cm 程度高い歩道を「マウントアップ型」という  
(日本まちづくり協会編：道路工学通論、技術書院、p110、2001)
- 4) 日本まちづくり協会編：道路工学通論、2001、技術書院、p 116
- 5) 土木学会編：街路の景観設計、1999、枝報堂出版、p 70
- 6) 鈴木敏：道の環境学、2000、枝報堂出版、p 16
- 7) Harrison, Peter Joel : BRICK PAVEMENT and FENCE-WAJS
- 8) 鈴木敏：景観舗装の知識、p123-153

## 参考文献

- 1) 佐藤□：道との出会い、山海堂、1991
- 2) 日本まちづくり協会：道路工学通論、技術書院、2001
- 3) 鈴木敏：景観舗装の知識、枝報堂出版、1995
- 4) □山一男：道、ダイゴ、2000
- 5) 鈴木敏、澤田晴、委智郎、山本耕一：街路のはなし、枝報堂出版、1994
- 6) イヒョンテク、イジョン：街路の美学、慶北大学校出版局、2000
- 7) Dieter Boeminghaus 著、カンビョンゲン訳：歩行者空間+意匠要素、図書出版ヌリエ、1999
- 8) 芦原義信著、イミョンホ訳：(続)通りの美学、テリム文化社、1998
- 9) 土木学会：街路の景観設計、枝報堂出版、1999
- 10) 建設省道路局企劃課道路環境対策室監修：景観舗装ハンドブック、大成出版社、1995
- 11) 石井一□：都市の環境デザイン、森北出版株式会社、2000

終章

韓国における地域特性に対応したFSDの方針

## 1. 韓国における FSD 開発の課題と指針

FSD のいちばん重要な役割は、快適な歩行者の空間作りであり、街路景観の連続性を高めて地域のアイデンティティを形成することであると思う。パリ（フランス）のラ・デファンス広場の粘土ブロックの自由な舗面パターンは、周辺の芸術彫刻作品と建築などと一体化することで、“芸術の街”としてのパリを象徴しているといえる。イタリアのボローニャは、“ポルティコ”という建築様式で知られている。“ポルティコ”とは、町中に張り巡らされた歩行者専用の回廊であり、通路の FSD は実に多様である。地域の個性とアイデンティティを醸成している好例であるといえる。

このボローニャの例をみるまでもなく、世界の観光名所を通覧すれば、ほとんどの地域において個性的で差別化されアイデンティティを形成する FSD の事例を見ることが出来る。本研究の調査結果からは、地域における FSD の個性表現の多くは、地域の遺物、遺跡などを表現した絵タイル、太極模様で代表される文様などであることがわかった。地域性を感じさせる絵柄やパターンの表現を各地域で産出される舗装材料（素材）を使用することが一般的である。

イタリアの宗教建築物でしばしば見られる舗面パターンは、宗教的空間としての差別化を通じて神聖な空間を演出するの役割を担っている。シエナの教会の舗面パターンとヴェネチアのサンマルコ広場の幾何的な舗面パターンはその代表事例であるといえよう。一方、ミラノのエマヌエーレ 2 世ガレリアは、商業空間における FSD の代表的事例といえる。大理石のパターンによって、高級な絨緞を敷き詰めたような空間を演出する効果があり、その場所を訪れる歩行者に芸術的な空間に対する敬意を起こさせ、また、美の中に身をおくことの喜びを提供する。ミケランジェロのデザインによるローマ（イタリア）のカンピドリオ広場の舗面パターンは、周囲の建築空間と一体となって完璧に差別化された地域的イメージと歴史性を伝達している。

このような先進事例の調査と比較研究を通じて、韓国の伝統的で固有の舗装素材を開発し、快適で美しい親環境的、街路景観開発を誘導するのが本研究の目標である。導出された研究結果を通して、これからの韓国の FSD 開発の課題と指針を提示する。

### 1.1. 地域的・親環境的 FSD 開発のための事例研究およびデータベース化の推進

本研究は、地域的・親環境的 FSD 開発を目標とし、そのために、各地の先進事例の解析ならびに解析結果のデータベース化を実施した。本研究においては、韓国の文化通りとヨーロッパ各国、日本の歩行者専用道路、コミュニティ道路、広場などを中心にアンケート調査および現地調査、調査結果の整理・分析、データベース化、そしてウェブサイトの構築を実施した。また、これらの成果は、外部より、ウェブサイトを通してアクセスできるようになっており、このウェブサイトを通して、FSD の重要性の認識が広まり、FSD 開発の方法論の検討の議論が高まることを期待している。

## 1.2. 歩行者専用道路における FSD 開発の必要性

韓国の文化通りは 36%が歩車共存道路であり、30%が歩行者専用道路である。合わせて 66%の文化通りは歩行者を中心とした道路となっているといえる。現在は歩行者道路に対する法律が制度化されていないものの、歩行者のための施設の必要性に対する認識が高まりつつある。快適な歩行環境の形成に向け、FSD の質の向上に対する要求が高く、それらの要求に応える、地域的・親環境的 FSD 開発に向けた長期的計画が必要である。以外にサイン、標識、遊びの FSD 役割も工夫すべきである。

## 1.3. FSD 要素としての舗装材料

調査したヨーロッパの通りでは小舗石舗装が 70%以上であり、伝統的な FSD のパターン形態の展開を見せていた。小舗石舗装は、舗装材料として親環境的 FSD の要素となる。ヨーロッパの小舗石舗装はヨーロッパ以外の国々にも大きな影響を及ぼしており、調査した日本の通りでは、粘土ブロック舗装と石材舗装が大部分を占めていた。しかしながら、韓国においては、高圧セメントブロック舗装のウエイトが 70%と高く (70%)、次いでアスファルト舗装、粘土ブロック舗装の順である。

上記の調査結果から、ヨーロッパ、日本においては、自然素材中心の舗装材料を使用しているのに対して、韓国はセメント材料が大部分であることがわかる。人体の健康におよぼす影響を配慮しても、伝統的材料である粘土ブロック舗装、石材舗装が望ましいと思われる。韓国においても、かつて舗装材料として使用していた自然材料を早急に見直し、FSD の親環境的伝統性を継承する活動を拡大していかなければならない。

## 1.4. 舗装パターンの視覚資料化とその活用

本研究においては、韓国の文化通りならびに主要な歩行者専用道路の FSD 現況調査から、それらの舗装パターンをイラスト化し、比較イラスト

集を作成した。その結果、ヨーロッパや日本の事例と比較すると、韓国の文化通りならびに主要な歩行者専用道路のFSDにおいては、地域間の差別化や個性表現が大きく不足していることがわかった。この点に関して、FSD計画者や地域自治体は研究努力が必要であろう。ヨーロッパや日本の歩行者専用道路の場合は、舗装パターンが施されていないところは皆無といえる。また、とりわけ、日本では、地域毎の差別化、イメージ類型としての多様化が進んでいることがうかがえた。

舗装パターンを視覚化することは、地域のFSDの現況をわかりやすく認識するために有効な手法であると考えられる。FSD開発においては、他地域や先進事例の舗装パターンを参照しながら、その地域ならではの舗装パターンを探求していくことによって、より良い成果を導くことが期待される。

### 1.5. 地域的FSDの事例と親環境的FSDの事例分類

本研究では、「地域的FSD」の事例と「親環境的FSD」の事例を選別して提示した。「地域的FSD」の事例として選別した基準は、ひとつには、その地域を象徴するようなパターン、例えば、地域の遺物、遺跡などを表現した絵タイルを用いたり、太極文様にみられるような地域性が感じられる図柄が使用されている場合を地域的な表現として考えた。また、各地域で産出される材料（素材）を舗装材料として使用した場合も「地域的FSD」と考えた。「親環境的FSD」の事例としては、自然に親和する素材として、粘土ブロック、土石材料、石材を舗装材料として使用した場合を選別した。ヨーロッパ、日本において地域性を表現した事例には、地域名をイメージ化して、絵タイルや銘板、マンホールの蓋などへの表現することが多かった。しかしながら、韓国の文化通りでは、パターンや絵柄が施されていないアスファルト舗装が全体の21%を占めていることが判明した。より積極的な地域性と個性表現の推進が必要であるといえよう。

### 1.6. FSD資料データベース構築

本研究は、韓国の地域的・親環境的な歩行者空間の拡大に貢献しようとするものである。その推進のための具体的な資料として、韓国の文化通りとヨーロッパと日本の主要な通りをとりあげ、コミュニティ道路を中心としたFSDについてデータベースの構築を行い、ウェブサイトを通して多くの研究者が活用できるように開示した。本研究における現地調査の対象地域は、韓国、日本、ヨーロッパとした。アメリカについては現場調査を実

施することができなかったが、参考資料を参照し、一部データベースに取り入れた。本研究では、上記の調査地域を通覧できる体系的な FSD 資料が構築できたものとする。今後、カナダ、オーストラリアなど西洋的な他の先進 FSD の事例とともに、メキシコ、中国、インド、イスラム諸国など歴史的に固有の文明を発達させた国々における地域的 FSD の事例の調査が進展すれば、世界的な FSD 基盤技術の体系化が出来ると考えられる。

## 2. 親近感と豊かさ、快適さのための FSD ガイドラインの提案

本研究を通して得られた知見を基盤として、韓国において、親近感と豊かさ、快適さを感じさせる FSD 開発に向けてガイドラインを提示する。

### 2.1. FSD 開発の基礎要件

#### (1) 歩行性、走行性への配慮

- ・滑らないこと
- ・硬すぎず、歩行に適切な弾力性があること
- ・水が溜らない程度の排水性と透水性があること
- ・平坦であること
- ・表示物が見やすいこと（サイン、標識の視認性が高いこと）

#### (2) 施工のしやすさ

- ・施工が極度に困難でないこと
- ・施工および養生時間が短いこと

#### (3) 維持管理への配慮

- ・使用時に容易に破損が生じないこと
- ・風雨、凍結、日射、気候の変化によって破損や退色が生じないこと
- ・補修が容易であること
- ・通行や風雨によって甚だしく汚れないこと
- ・汚れを落としやすいこと

#### (4) 快適性

- ・見た目に快適であること（視覚的快適性）
- ・歩きやすいこと（歩行の快適性）
- ・走りやすいこと（走行の快適性）

#### (5) 経済性

- ・道路のライフサイクルを通して見たときに経済的であること

#### (6) 周辺環境との調和性

- ・道路周辺との調和（建物や建物敷地中の舗装との調和）
- ・道路の附属物、占用物件との調和（縁石、防護柵などとの調和）
- ・車道と歩道部との調和

#### (7) 親環境性

- ・経済性を考慮しつつ、自然親和的な舗装素材を用いる

舗装材料の選定においては、景観性を重視するあまり舗装としての基本機能を等閑視するようなことがあってはならない。舗装材料や舗装構造の選定においては、適用場所として要求される機能を満足させる舗装材料を選定すること、ならびに交通条件に適切に対応する舗装構造を採用する必要がある。一種類の舗装材料のみを使うより、複数の舗装材料を組み合わせることで使うことが景観的に優れた効果を得ることが出来ることが多い。このような場合は、異種材料の舗装間で舗装構造に整合性がなければ施工が煩雑になるばかりでなく、接合部が弱くなりやすいことに留意が必要である。また、優秀な景観性を長く維持していくためには、清掃などの日常的な管理を適切に行っていく必要がある。美しく整備された舗面ほど、汚れ、脱色、破損が生じたときに醜悪な印象を与えやすいものである。埋設物などの工事を出来る限り避ける道路整備計画を立てる必要があり、修繕工事の際は従来の景観を維持することができるよう、材料の確保をを必要がある。

#### 2.2. FSDにおける舗面パターンの表現

- ・パターンによって、各地域の歴史、文化、特選品などその地域の特徴を表現する
- ・地域のパターン差別化には、地域の生産物を利用することが有効である
- ・パターンの表現は、交通標識などの表示の視認性と両立することが必要である
- ・地域としての個性的なパターンを作成するためには、制作者が個人的に描いたイメージではなく、地域に関連した意味が認められるイメージとすることが望ましい
- ・舗装材料表面は滑りにくいものとしなければならない。表面のテクスチャが粗いものを反復させながらパターン化させて、雨天時に滑ることを防止しなければならない

ブロック舗装には、実に多様な FSD パターンが表現されている。なかでも最も多く使われるパターンは、色違いのブロックで線画を描く技法である。また、とくに歩行者専用道路の場合は、多様で変化のある FSD のパターンによって、歩行者が楽しみを感じることができるよう設計する必要がある。今後、景観の観点からは、特にブロック舗装の FSD パターンの研究が必要となろう。

FSD パターンの表現の研究は、地域の個性化のためにきわめて重要な位置付けにある。前述したように、地域の個性化は、タイルを用いた絵で表現されることが一般的であるが、さらに地域の歴史や風土などの地域特性を適度に取り入れていくことが重要である。この場合、地域づくりの観点から、地域住民とともに地域の個性を表現した道作りを展開するべきであろう。

### 2.3. FSD における色彩の考え方

FSD における色彩は、舗装材料の種別と関連として配慮がなされなければならない。赤色煙瓦や灰色、またはピンクの花崗岩、大理石、石材類などの舗装材料では、配色が親環境的色彩に制限される。タイルや人造高圧セメントブロックなどは人工的材料でありながら原則的に半永久的に色彩が保持されるものであり、また、多様な色彩表現が可能となる。アスファルトやセメント、コンクリートの上にペインティングして舗面のカラー化を行う場合は、自由な色彩の効果を実施できるものの、ペイントは表面的なもので時間の経過に伴い退色したり、剥げ落ちてしまう傾向にあることを認識しておかなければならない。また、ペインティングによる舗面のカラー化は、とくに、周囲が自然景観である環境では使用すべきではない。

地域的・新環境的な FSD に向けた色彩計画のガイドラインは、以下のよう提示することができる。

- ・赤や青など基本色に近い色相を使用する場合には、低彩度とし、組み合わせるときの色相の種類も単純にする
- ・色彩や模様は周辺環境と調和するように留意し、舗面だけが目立ってしまう華美な色は避ける
- ・地域環境の背景色になる色合いに合わせる（例：地域土地の色を基準にする）
- ・建築物に歴史的性格の強く現れている通りにおいては、低彩度の色相を使うことが望ましい

- ・道路標識物などと同系色にならないようにする
- ・白色の舗装は反射が強くて眩しく感じられ、土色の系統色は反射が少ない。地域の陽光の強さと反射の度合いを考慮して色相を決めなければならない
- ・舗面舗装色として、一般的に使いやすい色相は白、淡い灰色、淡黄（ベージュ～イエローサンド）色系の三色配色といえる。自然材料に近づけて色相、明度、彩度を合わせていくことが環境に合わせやすい

## 2. 4. 地区別FSDガイドライン

地域の特徴を・歴史・文化観光地区、商業地区、住居地区、公園美観地区などの4種類に分類して個性化を図る。

（1）歴史・文化観光地区：象徴性の強い歴史・文化的の建物が必ずしもある所でその空間の主人公を強調するFSDを「地」の表現にすることを勧める。

（2）商業・繁華街地区：活気ある個性を広場形を中心に視覚的楽しみを与えるポイントとして図を表現することを勧める。

（3）住居地区：落ち着いた生活空間を「地」で表現しアクセントとして部分的「図」で演出することを勧める。

（4）公園美観地区：廻りの自然環境と協調できる舗装材・自然材料を活用して「地」の表現にする。広場には視覚的楽しみを与えるポイントとして図を表現することを勧める。

## 謝辞

筆者が歩道舗装デザインに関心を持つようになった切っ掛けは、韓国の地方自治時代の開幕と共に各地域別に人々が多く集まる文化通りを造成しようとする動きが活発になったときに、それらの造成において通りのストリートファニチャーや建築物に対する高い関心と比べて舗面のデザイン（歩道舗装）に対しては無関心に扱われている現状があり、そして、美観上または健康を損なうような通りの環境が形成されていくことにいろいろと感じるものがあつたためである。

2001年度に、筆者が勤務している水原大学と水原大学が属している華城市が連携して華城市景観、特に舗面舗装デザインに対する研究を行い、学術発表大会でその研究成果を発表した。その研究結果を基礎にして、2002年度から2003年度のあいだ、韓国産業資源府傘下韓国デザイン振興院の協力を得て地域的・親環境的FSD開発のための事例研究およびデータベース化（副題：「韓国文化通りと外国の歩行者空間を中心に」）という研究プロジェクトを進めた。その成果報告書を2003年度12月に刊行した。この研究プロジェクトでは、歩行者が多く集まる大都市の歩行者専用道路を中心に調査を行った。研究プロジェクトでは、1年のあいだに、日本をはじめ、ヨーロッパを4回ほど訪れて、世界の文化的中心となる市街を視察調査して、調査から得られた情報を整理した。この研究プロジェクトを韓国のデザイン基盤技術研究として実施することが出来たのは韓国デザイン振興院の孫東範次長、朴喜勉チーフ、産業資源府の朴載孝主務、金東洙課長をはじめとする関係者の方々の深い関心と配慮のおかげである。

最初は、歩道舗装のデザイン研究が必要であるのか、そしてその成果は有益に活用されるのであろうかと悩みを抱えながらスタートしたものであるが2003年度にプロジェクトが終わり、その成果としてフットスケープデザイン研究のウェブサイトを開くと、金海市庁、ソウル慶熙大学前街通り、一山ラフェスタ文化通り、ブチョン文化通り、ブサンの某窯業会社の実務担当者などから問い合わせや顧問要請があり、データベースとなった資料が活用された。それ以外にも、各大学の建築、土木専攻の学生からこのウェブサイトの資料を発見し大いに活用出来たという喜びの声が届けられた。そのため、この資料は世界的にも初めて歩道舗装のデザイン

資料をデータベース化したものであり、今後も、利用価値をより高めるように情報を充実していきたいと考えている。

ヨーロッパの現地調査に立つ前は果たして短い期間でヨーロッパの九カ国を全て回りきれぬかどうか不安があった。初めに訪問したのはドイツのフランクフルトであり、当時フランクフルトの韓国領事館に勤務されていた金栄勳副総領事、ジュネーブ代表部の朴栄国公事の親切な案内と激励に力をつけられたことで心理的に安心し、以来、歩行者専用道路の資料収集に集中することが出来た。この場を借りて心から深く感謝の意を表したい。

韓国文化通りの現地調査と意識調査とパターンの研究においては、尹明淑先生、Kim Jin Kyung 先生、Jung Ku Im 先生と弟子である Sim Hyun Hong, Lee Bum Yung, Sin Bung Ho, Lee Ho Ju, Hong Eun Ju, Cha Min Jae 等の協力があって全国的な韓国のフットスケープデザイン資料を整理できた。各位に深い感謝を申し上げる。

何より、今回の千葉大学に博士学位論文を提出することになった切っ掛けは、筆者が1997年度より工学部デザイン工学科宮崎研究室と交流するなかで、宮崎清教授から上記の成果報告書を基準にして博士学位論文を作成することを助言して頂いたことにある。先生のご指導の下で、上記のプロジェクト報告書を基礎として、体系的にフットスケープ研究を進展させ千葉大学の博士学位論文として書き上げ、それを提出できるようになったことは大きな喜びである。その導きと手助けをしていただいた宮崎清教授に深甚なる感謝の意を述べる次第である。

最後に、今までの本論文が完成するようにいろいろとご指導していただいた千葉大学の樋口孝之先生、植田憲先生に感謝の意を表す。また、編集で苦勞をかけた水原大学出身で千葉大学大学院に留学中の孫大雄君、日本語翻訳で苦心した次男李志鎬にご苦勞さまとお礼を述べたい。

水原大学美術大学デザイン学部

副教授 金明蘭

## 付録 1

### 論文審査（公聴会）の発表資料

# フットスケープデザインに関する調査・研究

地域特質と対応して演出するFSDのあり方

2006年7月  
金明蘭

## フットスケープデザインに関する調査・研究

序 論

第1章 韓国「文化通り」のフットスケープデザインに対する利用者意識

第2章 韓国「文化通り」のフットスケープデザインの現況と分析

第3章 街づくりにおける日本のフットスケープデザインの事例研究

第4章 国外地域事例の比較と韓国のフットスケープデザインの方法論

第5章 フットスケープデザインの枠組みの構築

終 章 韓国における地域特性に対応したフットスケープデザインの指針

## キーワード

### FSD = footscape design

「足に触れる空間のデザイン」

「歩道舗装デザイン」

「歩行者空間の舗装デザイン」

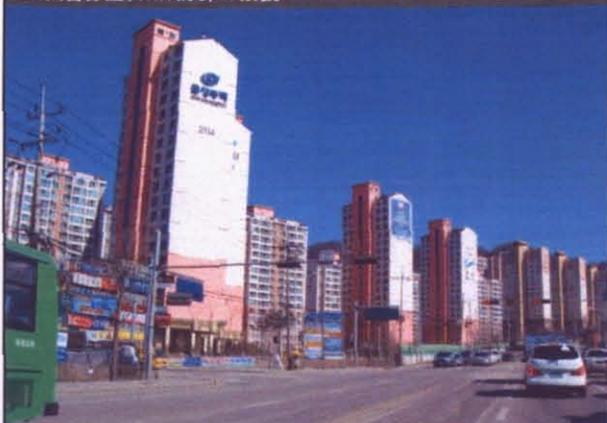
歩行者空間  
街路景観  
親環境的  
個性化  
地域特性表出

### ソウル市「仁寺洞通り」



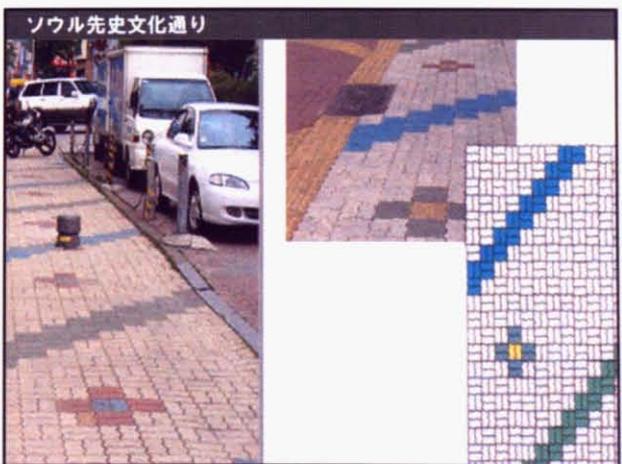
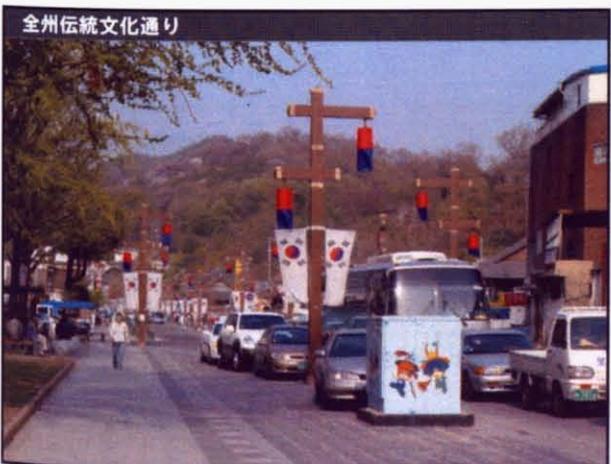
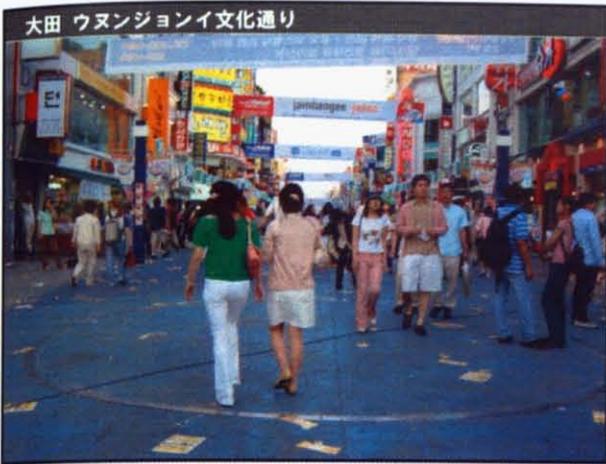
「文化通り」(mun hwa keori)の歩道舗装に関心がない 55%  
関心がある 45%  
一番印象的な歩道舗装は？ ソウル市「仁寺洞通り」

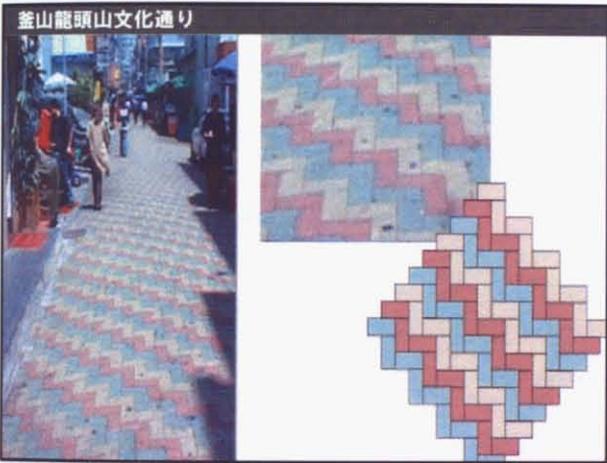
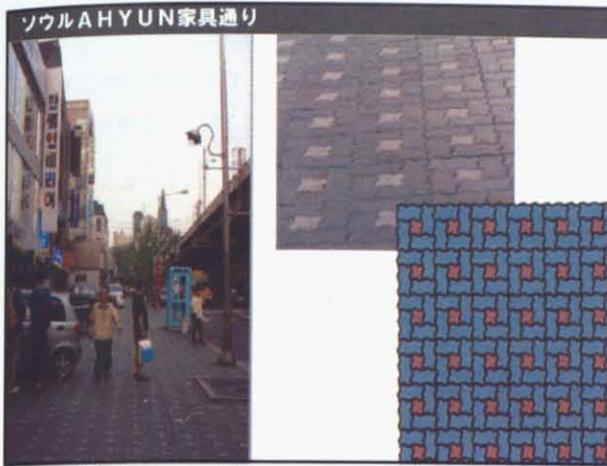
### 韓国首都圏(YANGJU)の景観



### 麗州文化通り







選好度：インターロッキングブロックと粘土ブロック



インターロッキングブロック  
好感度 4%



粘土ブロック  
好感度 24%

自然にやさしい素材 75%  
自然の色彩で周辺環境と調和 24%

親環境的

韓国文化通りの役割・特徴

役割・特徴

- ◆地域住民や訪問者が行き交う場
- ◆地域住民や訪問者がさまざまなコミュニケーションを行う機能をもつ場
- ◆周辺地域の産業の活性化や一般市民の文化活動への参加を促す場
- ◆文化通りの50%ほどでイベントが行われ、各地域の文化的特徴を表す場

韓国文化通りの問題点

問題点

- ◆ローリング工法のアスファルト施工が多く(41%)、地域的特性と対応した事例が少ない。
- ◆インターロッキングブロック工法が約59%と多い。
- ◆親環境的自然材料の使用があまり見られない。
- ◆各地に見られる高圧セメントブロック(30%)は、彩度の高い原色で、周囲の環境になじまない。

韓国文化通りは、それぞれの地域特質を象徴する場であり、優れたFSDがなされなければならない。

よりよいFSDを求めて・・・

### 日本におけるFSD

◆「歩行者優先で歩くことができ、また、歩きたくするような道づくり」が都市計画課題となり、住宅地の通過車両を減らすコミュニティ地区事業が盛ん。1996年には、国土交通省によりウォーキング・トレイル事業が発足。

◆今日、「歩きながら暮ることができる町づくり」が日本各地で重要課題になっている。



◆日本におけるFSD事例は、親環境的配慮や地域的特質を反映するFSDの推進に資するものとなる。

首都東京ならびに近郊、政令指定都市、文化的・歴史的特色のある地方都市・・・計27箇所のFSD調査を実施

商店街などの多くの人々が集まる場：新宿小田急百貨店通り



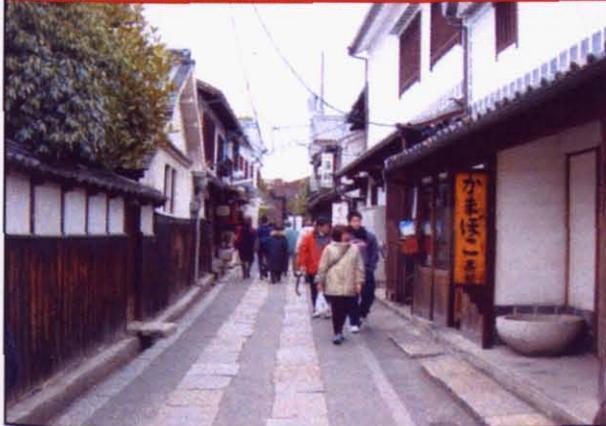
都市の顔としての場：新宿カリオン橋



伝統的な文化を伝える場：信楽



伝統的な趣を残している場：倉敷



歴史を残しつつ快適性を表現した場：恵比寿ガーデンプレイス





住宅地の水路を活かした明るい場：東京用賀プロムナード



住宅街の面白い形をした場：浦安市入船西コミュニティ道路



夜も華やかな場：横浜元町商店街（Woonerf：ボンネルフ）



日本におけるFSDは・・・

地域特性に対応したさまざまなFSD

- ◆駅前広場や繁華街など、都市の顔としてのFSD
- ◆歴史的街路や景勝地など、地域個性を表現するFSD
- ◆商店街など、多くの人々が集まる楽しみの場としてのFSD
- ◆遊歩道など、歩くことが楽しくなるようなFSD
- ◆住宅地など、明るく快適性を高めるFSD
- ◆共同溝事業と連動したコミュニティ道路としてのFSD
- ◆夜の賑わいを演出するFSD

日本におけるFSDは・・・

日本の伝統的なFSD思想

- ◆日本には、舗面の構成変化と視覚的楽しみに配慮する伝統的な教えとして、茶人・千利休の「踏地」思想がある。
- ◆「渡り（移動の意）6分の景（景色の意）4分」または「渡り4分の景6分」といわれ、機能と美観の両面への適切な配慮が、今日まで、庭づくりに活かされてきている。
- ◆近年の日本においては、庭づくりだけでなく、街路と広場などの公共空間の舗面の設計において、舗装材の色彩や大きさ、配列パターンなど、「渡り」だけではなく「景」を考慮した提案が活発になされている。

現代生活のなかで、歩くことが楽しみとなるような「景」への配慮がなされたFSDの役割が極めて重要

日本におけるFSDは・・・

親環境材料への配慮

- ◆調査地域26箇所のなかで、  
ブロック舗装 88%  
アスファルト舗装 12%
- ◆ブロック舗装における舗装材料は、  
石材類（25箇所）  
粘土煉瓦（18箇所）  
磁器質タイル（13箇所）  
コンクリート・インターロッキング（11箇所）  
石器質・絵タイル（6箇所）

親環境材料の多様な多用

FSDの手法を求めて・・・

海外におけるFSD手法の多様性

- ◆ 地域特質と対応したFSDの手法は、さまざまであるに相違ない。世界各地には、どのような手法が見られるのだろうか。
- ◆ それらは、私たちにどのような示唆を与えてくれるのだろうか。

世界におけるFSDの手法を求めて

ヨーロッパの伝統的FSD:ゲルンハート通り、ビエンナ/オーストリア



内部空間を外化する:サンマルコ・ヴェネチア/イタリア



外部空間を内化する:サンマルコ・ヴェネチア/イタリア



「地」を活かす:Covent Garden、ロンドン/イギリス



「図」と「地」を活かす:La Défense/フランス



「国」と「地」を活かす：La Défense／フランス



「国」と「地」を活かす：伊勢崎モール・横浜／日本



建物との連続性を高める：ペローナ／イタリア



連続性を高める：Zeil通り・フランクフルト／ドイツ



建物との連続性を高める：千葉市／日本



歴史を活かす：アクロポリス・アテネ／ギリシャ



歴史を活かす：ヒザンチン博物館・アテネ／ギリシャ



勾配を活かす：カンポ広場・シエナ／イタリア



勾配を活かす：カンポ広場・シエナ／イタリア



名所の画像を活かす：カサミラ通り・バルセロナ／スペイン



地域の伝統を活かす



金州文化通り

ソウル徳壽宮石壁通り

地域特質を伝える：ジュネーブ／スイス、横浜／日本



サインや標識を埋め込む：広島、名古屋／日本



シンボルを活かすFSD：元町・横浜／日本



建物と調和したFSD：ホルティコ・ボローニャ／イタリア



工芸を活かす：フェトホ・ブレーメン／ドイツ

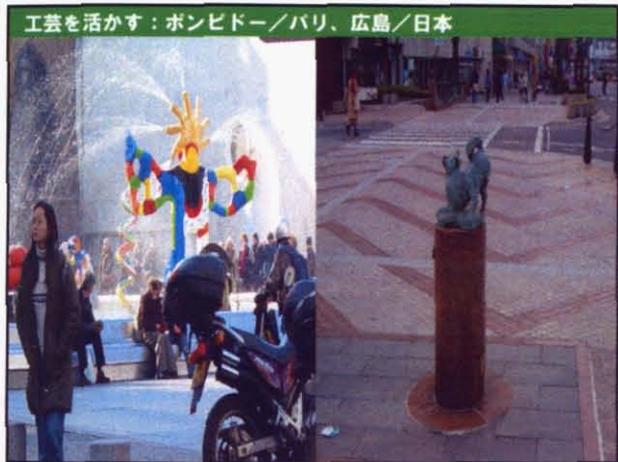


工芸を活かす：ランプラス・バルセロナ／スペイン



工芸を活かす：メル通り・アントワープ／ベルギー





イベントを活かす：コベントガーデン・ロンドン／イギリス



イベントを活かす：インサドン・ソウル／韓国



イベントを活かす：インサドン・ソウル／韓国



噴水を活かす：タワーブリッジプラザ・ロンドン／イギリス



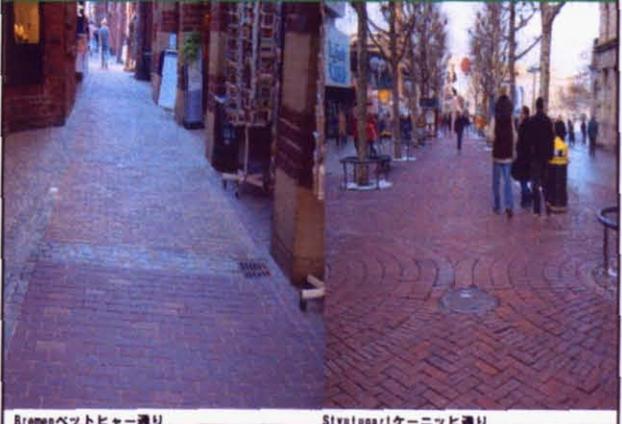
親環境的素材を活かす



Barcelona サンタマリア周辺

London クレンボンストリート

親環境的素材を活かす



Bremen ベットハー通り

Strasbourg / ケーニッヒ通り

色彩を活かす：伊勢崎モール・横浜／日本



休息を支える：新宿MOA4番街／日本



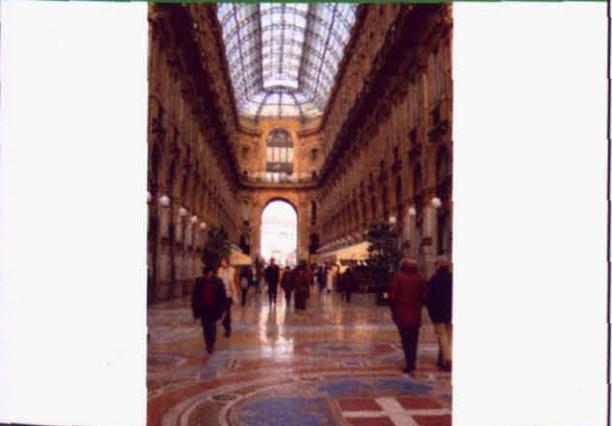
祈りを支える：シエナ／イタリア



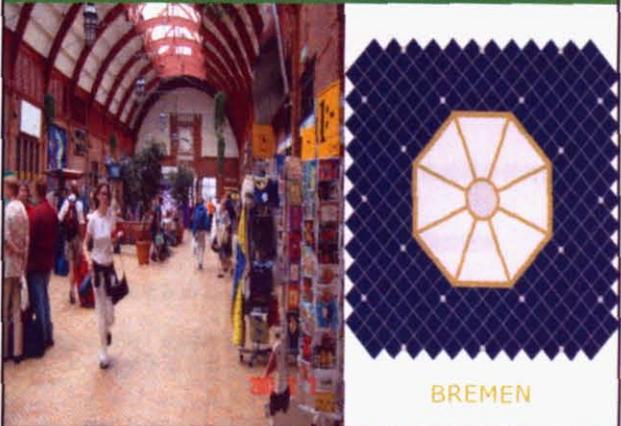
祈りを支える：シュテパン聖堂、ビエンナ／オーストリア



パサージュ(ガラス屋根)のモール(木陰)：ミラノ／イタリア

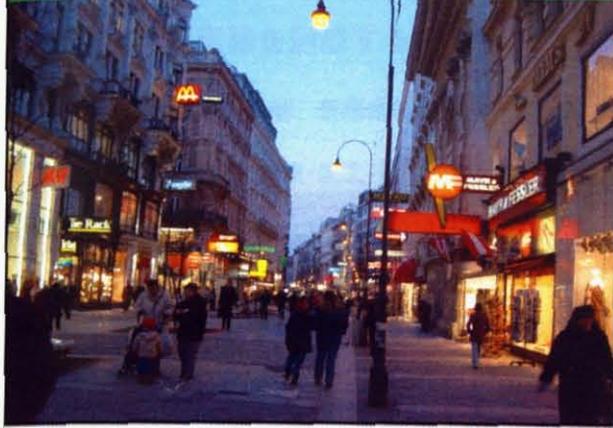


ショッピングを支える：マルモエ／スウェーデン、ブレーメン



BREMEN

ショッピングを支える：シュテパン通り、ビエンナ／オーストリア



水を活かす：横須賀、東京用賀街プロムナード／日本



水を活かす：三笠公園、横須賀／日本



海外におけるFSDの手法は・・・

### 地域特色に対応したFSDのさまざまな手法

- |              |              |
|--------------|--------------|
| ◆「地」を活かす     | ◆イベントを活かす    |
| ◆「地」と「園」を活かす | ◆噴水を活かす      |
| ◆勾配を活かす      | ◆親環境的素材を活かす  |
| ◆名所の図像を活かす   | ◆地域の伝統を活かす   |
| ◆連続性を高める     | ◆色彩を活かす      |
| ◆立ち寄りを誘う     | ◆建物との連続性を高める |
| ◆歴史を活かす      | ◆サインや標識を埋め込む |
| ◆建物と調和する     | ◆折りを支える      |
| ◆内部空間を外化する   | ◆休息を支える      |
| ◆外部空間を内化する   | ◆ショッピングを支える  |
| ◆幾何学模様を活かす   | ◆水を活かす       |
| ◆工芸を活かす      | ・            |
| ◆紋章を絵画化する    | ・            |
| ◆シンボルを活かす    | ・            |

これからの韓国におけるFSDは・・・

### 快適な歩行・歩きたくなるFSDの提供

- ◆ 「歩きやすさ」
- ◆ 「安全性」
- ◆ 「クッション性」
- ◆ 「視覚的快適性」
- ◆ 「体感性」

これからの韓国におけるFSDは・・・

### 通りの個性・地域特性が表出するFSD

- ◆ 歩道空間は沿道の建築物と共に街路空間の大きな部分を占め、都市景観の雰囲気大きく影響する
- ◆ 街路空間には、地形・歴史・文化などの各地域の個性に基づく適切な方法による表現が求められる
- ◆ 地域資源の利活用・地域の伝統的工芸技術の活用
- ◆ 景観の質を高めるモニュメントなどの設置
- ◆ 地域特質・地域名などをイメージ化して、絵タイルや銘板、マンホール蓋などに表現する

これからの韓国におけるFSDは・・・

### 親環境的な街路を形成するFSD

- ◆ これからのFSDには、親環境的な配慮が強く求められる。  
舗装材料は、生産-流通-施工-使用-廃棄-再利用のサイクルにおいて、地球環境に対して低負荷なものではない。
- ◆ 自然に親和する舗装材料として、粘土ブロック、土石材料、石材などの地域の自然素材を有効に活用する。

これからの韓国におけるFSDは・・・

### 人びとの生活を支えるFSD

- ◆ 人びとが通りに対して求める「個性的」「親しみ」「潤い」を重視すべきである。これらは歩行空間構成要素の複合によって表出可能であるゆえに、通りのFSDは、路面舗装材の美観性・地域特質・環境要素などを総合的に検討したうえで、確定していくことが重要である。
- ◆ 通りは、人びとの生活の場である。それゆえ、通りで繰り広げられる人びとの生活そのものが通りのFSDの個性化に繋がることを忘れてはならない。
- ◆ 通りのFSDに対する市民意識を高めていく必要がある。
- ◆ 通りづくりに関わる行政関係者は、FSDに関する十分な知識・認識に基づき、人びとの社会的要求を高めつつ、それらに応えるような計画を進めなければならない。

これからの韓国におけるFSDは・・・

### 地区特性に対応したFSD

#### 地区別FSDガイドライン

地域の特性を、歴史・文化観光地区、商業地区、住居地区、公園美観地区などの4種類に分類して個性化を図る。

- ◆ **歴史・文化観光地区**：FSDを「地」の表現に
- ◆ **商業・繁華街地区**：活気ある個性を「図」で表現
- ◆ **住居地区**：落ち着いた生活空間を演出
- ◆ **公園美観地区**：自然環境と協調できる舗装材・自然材料を活用

これからの韓国におけるFSD構築のために

### FSD資料データベース構築

- ◆ 本研究は、韓国における通りが地域特質を反映し親環境的であることを願い、その実現に貢献しようとするものである。  
そのための具体的資料として、韓国文化通りと日本やヨーロッパにおける主要な通りを取上げ、そのFSDに関するデータベース構築を行い、ウェブサイトを通して多くの人びとが活用できるように開示した。  
なお、本研究では、現地調査対象を韓国・日本・ヨーロッパとした。アメリカについては現場調査を実施することができなかったが、参考資料を参照し、一部データベースに取り入れた。

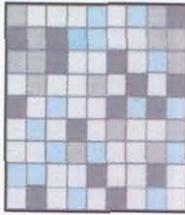
<http://paving.nabia.net>

付録 2 - 1

韓国文化通りフットスケープデザイン事例のイラスト化

## 2-1. 韓国文化通りフットスケープデザイン事例のイラスト化

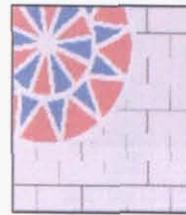
- FSD 패턴 사례 -



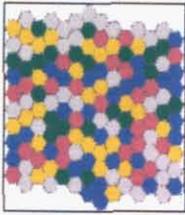
부산  
진구문화의거리  
운영자 (hit:0)



부산  
PIFF문화의거리  
운영자 (hit:0)



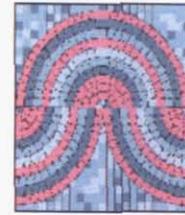
부산  
PIFF문화의거리  
운영자 (hit:0)



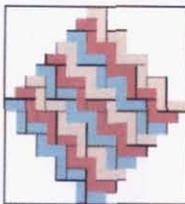
부산  
PIFF문화의거리  
운영자 (hit:0)



부산  
용두산 문화의 거리  
운영자 (hit:0)



부산  
용두산 문화의 거리  
운영자 (hit:0)



부산  
용두산 문화의 거리  
운영자 (hit:0)

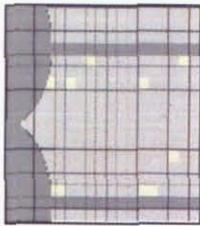


부산  
용두산 문화의 거리  
운영자 (hit:0)

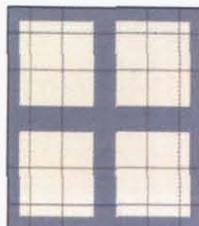


부산  
용두산 문화의 거리  
운영자 (hit:0)

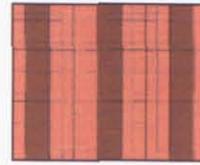
- FSD 패턴 사례 -



서울  
로데오패션문화의거리  
운영자 (hit:0)



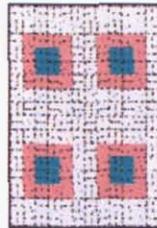
서울  
중앙대문화거리  
운영자 (hit:0)



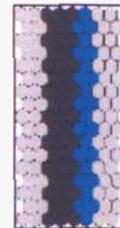
서울  
중앙대문화거리  
운영자 (hit:0)



서울  
중앙대문화거리  
운영자 (hit:0)



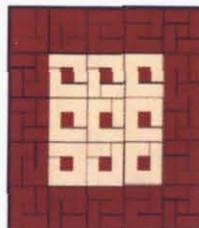
서울  
중앙대문화거리  
운영자 (hit:0)



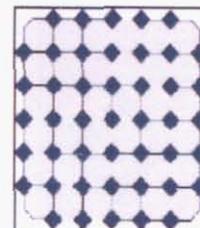
서울  
성수대교  
운영자 (hit:0)



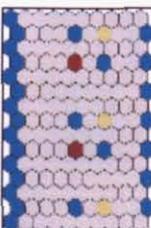
서울  
성수대교  
운영자 (hit:0)



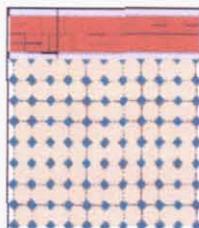
서울  
성수대교  
운영자 (hit:0)



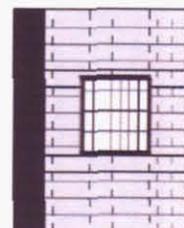
서울  
성수대교  
운영자 (hit:0)



서울  
성북구전통문화의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
양천구문화예술의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
양천구문화예술의거리  
운영자 (hit:0)

- FSD 패턴 사례 -



서울  
양천구문화예술의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
소월의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
소월의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
소월의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
소월의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
선사문화의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
선사문화의거리  
운영자 (hit:0)



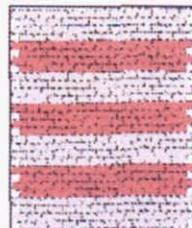
서울  
선사문화의거리  
운영자 (hit:0)



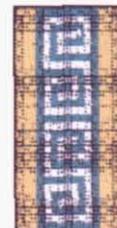
서울  
선사문화의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
선사문화의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
낙성대문화의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
낙성대문화의거리  
운영자 (hit:0)

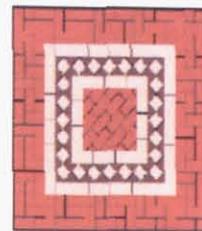
- FSD 패턴 사례 -



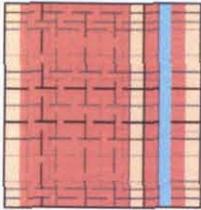
서울  
낙성대문화의거리  
운영자 (hit:0)



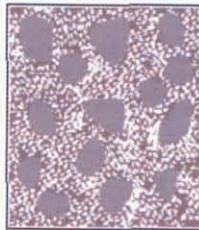
서울  
구로2동거리공원  
운영자 (hit:0)



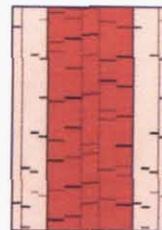
서울  
구로2동거리공원  
운영자 (hit:0)



서울  
구로2동거리공원  
운영자 (hit:0)



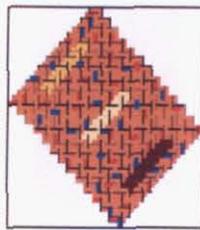
서울  
구로2동거리공원  
운영자 (hit:0)



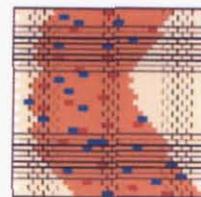
서울  
구로2동거리공원  
운영자 (hit:0)



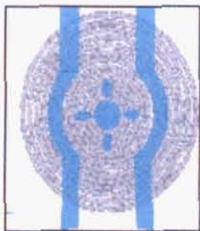
대구  
두류공원  
운영자 (hit:0)



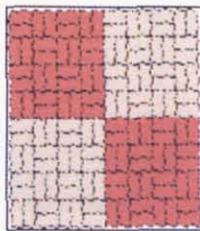
대구  
두류공원  
운영자 (hit:0)



대구  
두류공원  
운영자 (hit:0)



경북  
안동음식의거리  
운영자 (hit:0)

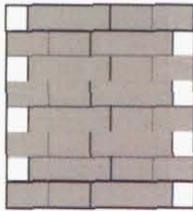


제주  
이중섭거리  
운영자 (hit:0)



제주  
이중섭거리  
운영자 (hit:0)

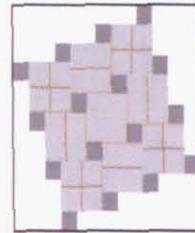
- FSD 패턴 사례 -



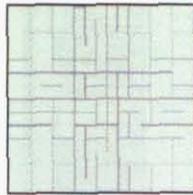
제주  
현대미술거리  
운영자 (hit:0)



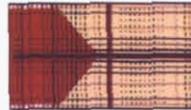
제주  
현대미술거리  
운영자 (hit:0)



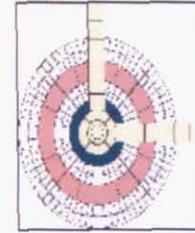
제주  
현대미술박물관  
운영자 (hit:0)



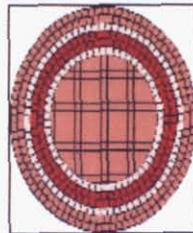
제주  
현대미술박물관  
운영자 (hit:0)



상남  
미술관  
운영자 (hit:1)



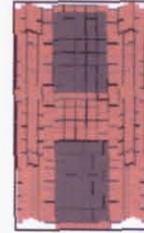
상남  
미술관  
운영자 (hit:0)



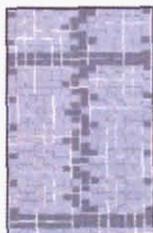
경북  
포천해맞이공원  
운영자 (hit:0)



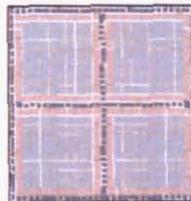
경북  
안동음식거리  
운영자 (hit:0)



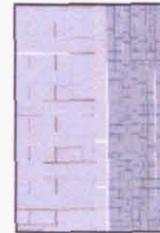
경북  
무주문화거리  
운영자 (hit:0)



경북  
전주문화거리  
운영자 (hit:0)

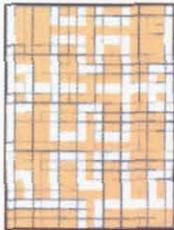


경북  
전주문화거리  
운영자 (hit:0)



경북  
전주전통의거리  
운영자 (hit:0)

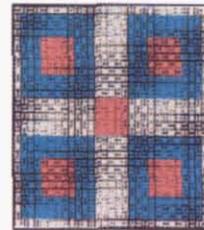
- FSD 패턴 사례 -



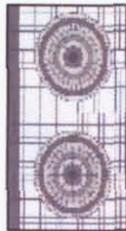
충북  
청주중앙로  
운영자 (hit:0)



경기도  
평택문화거리  
운영자 (hit:0)



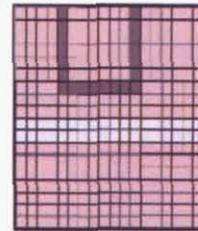
경기도  
평택문화거리  
운영자 (hit:0)



경기도  
송탄관광특구문화거리  
운영자 (hit:0)



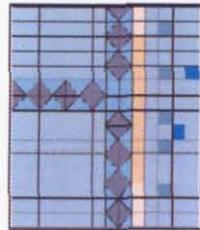
경기도  
송탄관광특구문화거리  
운영자 (hit:0)



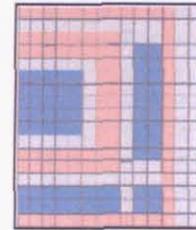
경기도  
수원나혜석의거리  
운영자 (hit:0)



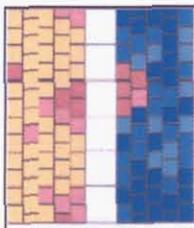
경기도  
수원나혜석의거리  
운영자 (hit:0)



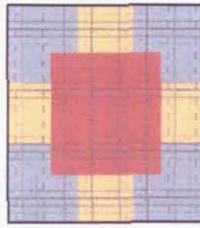
울산  
울산문화예술품의거리  
운영자 (hit:0)



울산  
울산문화예술품의거리  
운영자 (hit:0)



울산  
달동근린공원  
운영자 (hit:0)

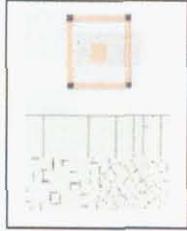


울산  
달동근린공원  
운영자 (hit:0)

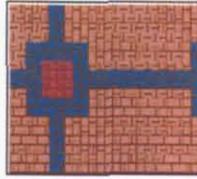


대전  
온천문화의거리  
운영자 (hit:0)

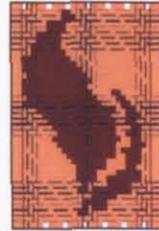
- FSD 패턴 사례 -



대전  
온천로문화의거리  
운영자 (hit:0)



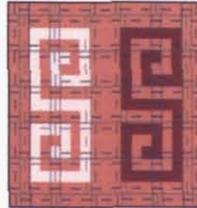
인천  
철미도문화의거리  
운영자 (hit:0)



대구  
대구의료원앞보도  
운영자 (hit:0)



대구  
영남화랑로  
운영자 (hit:0)



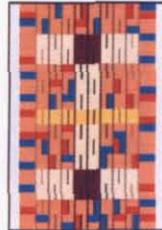
대구  
영남화랑로  
운영자 (hit:0)



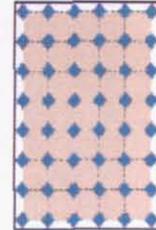
대구  
별드림경기장  
운영자 (hit:0)



대구  
별드림경기장  
운영자 (hit:0)



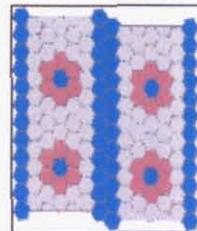
대구  
별드림경기장  
운영자 (hit:0)



서울  
영수대교남단거리  
운영자 (hit:0)



서울  
서초문화예술의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
성북구전통문화의거리  
운영자 (hit:0)

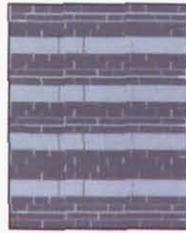


서울  
논현가구문화의거리  
운영자 (hit:0)

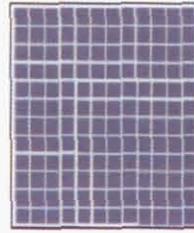
- FSD 패턴 사례 -



서울  
대학교문화예술의거리  
운영자 (hit:0)



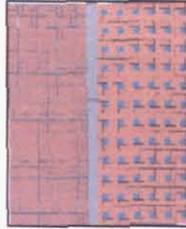
서울  
인사동전통문화의거리  
운영자 (hit:0)



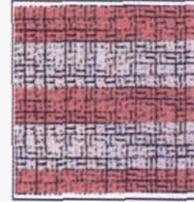
서울  
인사동전통문화의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
마천가구의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
숙대앞문화의거리  
운영자 (hit:0)



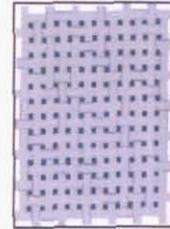
서울  
웨딩의거리  
운영자 (hit:0)



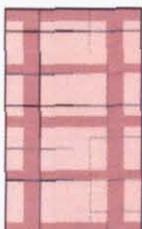
서울  
패션문화의거리  
운영자 (hit:0)



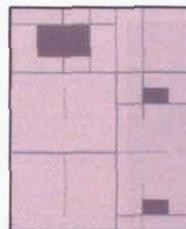
서울  
무역금융의거리  
운영자 (hit:0)



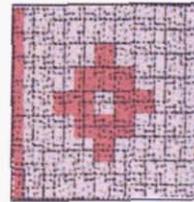
서울  
무역금융의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
정보통신의거리  
운영자 (hit:0)



서울  
정보통신의거리  
운영자 (hit:0)



부산  
진구문화의거리  
운영자 (hit:0)

2-2 日本、ヨーロッパフット스케ープ디자인事例의イラスト化

- FSD 패턴 사례 -



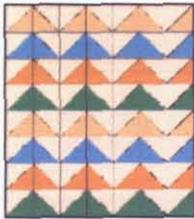
오사카  
NanbaStationPlaza  
운영자 (hit:1)



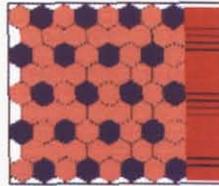
요코스카  
MikasaParkStreet  
운영자 (hit:1)



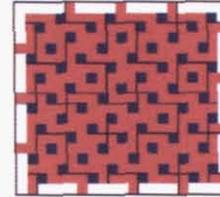
오사카  
KintetsuDepartmentAbeno...  
운영자 (hit:0)



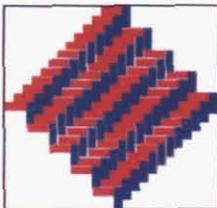
동경  
OdakyuDepartmentStore  
운영자 (hit:0)



동경  
에비스가든  
운영자 (hit:0)



동경  
에비스가든  
운영자 (hit:0)



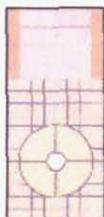
동경  
에비스가든  
운영자 (hit:0)



기타  
Umi-no-NakamichiSeaside...  
운영자 (hit:1)



기타  
ToyamaUniversity\_TheDep...  
운영자 (hit:1)



기타  
TamagawaTakashimayaS[1]...  
운영자 (hit:0)



기타  
Shin-TokigawaBridge3  
운영자 (hit:0)

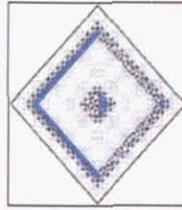


기타  
Shin-TokigawaBridge2  
운영자 (hit:0)

- FSD 패턴 사례 -



기타  
Shin-Tokigawa Bridge  
운영자 (hit:0)



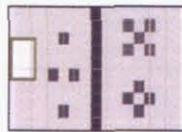
기타  
Sakuragicho Pedestrian De...  
운영자 (hit:1)



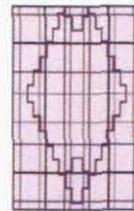
기타  
Obihiro German Village  
운영자 (hit:0)



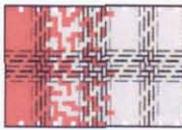
기타  
Kanasugidai Shopping Squa...  
운영자 (hit:0)



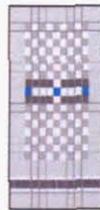
하기  
하기2003\_(59)  
운영자 (hit:1)



하기  
하기2003\_(6)  
운영자 (hit:1)



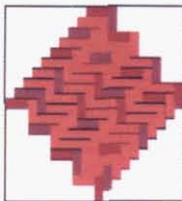
나고야  
나고야\_(95)  
운영자 (hit:0)



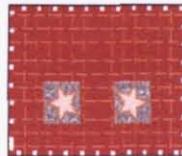
나고야  
나고야\_(79)  
운영자 (hit:0)



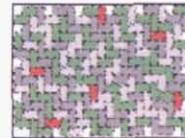
나고야  
나고야\_(41)  
운영자 (hit:0)



나고야  
나고야\_(38)  
운영자 (hit:0)



나고야  
나고야\_(121)  
운영자 (hit:0)



나고야  
나고야\_(106)  
운영자 (hit:0)

付録 2 - 3

各国のフットスケープデザイン現況事例

# 韓国文化通りのFSD現況 ソウル

## ▶ 선샤문광역 거리 000000



도시명	서울시		
거리명	선샤문광역 거리 (일사동 선샤문거리-고덕후문소)		
거리성격	문화예술(미술관, 전시장, 자매관, 박물관, 극장 등), 길 중심		
도로유형	보차공존도로	도로형태	직선형
포장재료	고함 시멘트		
시공방법	2차 채움형 (불착)		
포장디자인과 조형요소	색채 색스치 입면 화면 치역성, 거단	무늬 속각각 색스치 (무선성, 요철감) 직선, 사각, 다각, 점지형 리듬 (인쇄), 선대칭 유회성, 상징성	
거리분류기	현대적인 / 전통형 / 민중형 / 역사적인 / 특색성 / 지역적인 / 절제된 / 동적인		
거리 이용차 유형	30-40대 / 관광차		
지역적 특성	지역적 상징성 (일사동 선샤문거리)		
거리조형경위	남-북 (단면) 중심		

## ▶ 경수대교 남단 거리 000000



도시명	서울시		
거리명	경수대교 남단 거리		
거리성격	오피스 중심		
도로유형	일반도로	도로형태	직선형
포장재료	대스팔트, 고함 시멘트		
시공방법	현장 시공형 (불착) 2차 채움형 (불착)		
포장디자인과 조형요소	색채 입면 화면 치역성, 거단	무늬 고양도, 자매도, 유회성 곡선, 다각, 불규칙 리듬 (인쇄), 점대칭 유회성	
거리분류기	현대적인 / 전통형 / 민중형 / 민중형 / 도시적인 / 지역적인		
거리 이용차 유형	30-40대 / 지역주민		
거리조형경위	남-북 (단면) 중심		

## ▶ 경수대교 남단 거리 000000



도시명	서울시		
거리명	경수대교 남단 거리		
거리성격	오피스 중심		
도로유형	일반도로	도로형태	직선형
포장재료	대스팔트, 고함 시멘트		
시공방법	현장 시공형 (불착) 2차 채움형 (불착)		
포장디자인과 조형요소	색채 입면 화면 치역성, 거단	무늬 고양도, 자매도, 유회성 곡선, 다각, 불규칙 리듬 (인쇄), 점대칭 유회성	
거리분류기	현대적인 / 전통형 / 민중형 / 민중형 / 도시적인 / 지역적인		
거리 이용차 유형	30-40대 / 지역주민		
거리조형경위	남-북 (단면) 중심		

## ▶ 구로5동 거리공원 000000



도시명	서울시		
거리명	구로5동 거리공원 (우성아파트-신구로후문소)		
거리성격	공원, 길 중심		
도로유형	보차공존도로	도로형태	경정연결형
포장재료	고함 시멘트, 포크대포 (표), 석재 (자갈)		
시공방법	2차 채움형 (불착)		
포장디자인과 조형요소	색채 색스치 입면 화면 치역성, 거단	무늬 유회성, 무늬성 속각각 색스치 (무선성, 요철감) 직선, 사각, 다각, 점 리듬 (인쇄), 선대칭, 점대칭 (점대)	
거리분류기	현대적인 / 시민적인 / 전통형 / 민중형 / 도시적인 / 특색성 / 지역적인		
거리 이용차 유형	30-40, 50-60대 / 지역주민		
지역적 특성	지역적 상징성 거리공원		
거리조형경위	남-북 (단면) 중심		

▶ 무역금융의 거리 1 1 1



도시명	서울시	도로형태	직선형
거리명	무역 금융의 거리 (경남역~삼정역)		
거리길이	길, 오피스 중심		
도로유형	일반도로		
포장재료	무수관		
시공방법	현장 시공형 (통형 방법)		
포장디자인과 주요요소	색채 무늬색 텍스처 오실길 형태 직선, 사각, 격자형 패턴 선대칭, 리듬(반복) 지역성, 기타 장식성		
거리분위	현대적인 / 경종관 / 번잡한 / 도시적인 / 획일적인 / 지역적인 / 역동적인 / 쾌적한		
거리 이용자 유형	30~40대 / 지역주민, 기타 (직업인)		
지역적 특성	지역의 상징을 각 은행, 포스트 빌딩		
거리조형경위	남 유 (관인) 중심		

▶ 무역금융의 거리 1 1 1



도시명	서울시	도로형태	직선형
거리명	무역 금융의 거리 (경남역~삼정역)		
거리길이	길, 오피스 중심		
도로유형	일반도로		
포장재료	무수관		
시공방법	현장 시공형 (통형 방법)		
포장디자인과 주요요소	색채 무늬색 텍스처 오실길 형태 직선, 사각, 격자형 패턴 선대칭, 리듬(반복) 지역성, 기타 장식성		
거리분위	현대적인 / 경종관 / 번잡한 / 도시적인 / 획일적인 / 지역적인 / 역동적인 / 쾌적한		
거리 이용자 유형	30~40대 / 지역주민, 기타 (직업인)		
지역적 특성	지역의 상징을 각 은행, 포스트 빌딩		
거리조형경위	남 유 (관인) 중심		

▶ 서초 문화예술의 거리 1 2 3



도시명	서울시	도로형태	직선형
거리명	문화 예술의 거리(예술의 전당~서초역)		
거리길이	문화예술		
도로유형	일반도로		
포장재료	고함 시멘트, 갈보석, 화강석		
시공방법	2차 계층형 (분리, 시트 공법)		
포장디자인과 주요요소	색채 무늬색 텍스처 오실길 형태 직선, 곡선, 사각, 격자형 패턴 리듬 (반복), 선대칭		
거리분위	현대적인 / 쾌적한 / 도시적인 / 획일적인 / 정적인		
거리 이용자 유형	30~40대 / 지역주민, 관광객		
거리조형경위	남 유 (관인) 중심		

▶ 성북구 전통문화의 거리 1 1 1



도시명	서울시 성북구	도로형태	직선형
거리명	전통 문화의 거리 (상선교 로터리~성북역)		
거리길이	길 중심 (전통한옥)		
도로유형	보차 공존 도로		
포장재료	아스팔트, 고탄 시멘트, 1차 콘크리트 불막 돌		
시공방법	현장 시공형 (통형 방법 등) 2차 계층형 (분리, 시트 공법)		
포장디자인과 주요요소	색채 무늬색 형태 직선, 곡선, 사각, 격자 패턴 리듬 (반복)		
거리분위	전통적인 / 선명한 / 번잡한 / 획일적인 / 정적인 / 쾌적한 / 지역적인 / 다양한		
거리 이용자 유형	30~40대 / 지역주민, 관광객		
지역적 특성	지역의 상징을 이태원 고택 마을을 고택 (삼우길)		
거리조형경위	남 유 (관인) 중심 / 남 유 (관인) 중심		

▶ 4월의 거리 0000



도시명	서울시	도로형태	직선형
거리명	소월의 거리 (홍익미술관-영등포)		
거리성격	길 중심		
도로유형	보차공존도로		
포장재료	다스알레, 고강 시멘트, 투석재표 (점보석들)		
시공방법	현장 시공형 (홍익), 2차 시공형 (홍익)		
포장디자인과 주요요소	색채	자갈색, 유황색	
	텍스처	육각형 텍스처 (투석재, 유황갈)	
	형상	직선, 사각, 격자형	
	문양	회문 (한쪽), 선대칭, 그래픽미선 (양대)	
	자색성, 거단	거동성, 장식성, 심미성	
거리분류기	서민적인 / 선민한 / 번잡한 / 지역적인		
거리 이용차 유형	30 40 대 / 지역주민		
지역적 특성	지역적 상징성	홍익미술관, 영등포	
거리조성규모	남(남) 동남		

▶ 신촌 횡단의 거리 0000



도시명	서울시	도로형태	직선형
거리명	죽림의 거리 (대현-이현역)		
거리성격	상가 중심		
도로유형	보차공존		
포장재료	진디, 시멘트		
시공방법	2차 시공형 (홍익 공법)		
포장디자인과 주요요소	색채	유황색	
	텍스처	유황갈	
	형상	직선, 사각, 단각	
	문양	선대칭	
	자색성, 거단	심미성	
거리분류기	현대적인 / 지역적인 / 단정함		
거리 이용차 유형	10 20 대 / 지역주민		
거리 건축적 배경	독일 거구 건축 (역사적)		
지역적 특성	가구의 거리와 이면도로의 이면도가 동시에 공존		
거리 조성 규모	남(남) 동남		

▶ 공평대 문화의 거리 0000



도시명	서울시	도로형태	직선형
거리명	공평대주변 문화예술의 거리 (옥석역-지-영등포역)		
거리성격	상가 (소형점, 서점 등) 중심, 길 중심		
도로유형	보차 공존 도로		
포장재료	다스알레, 고강 시멘트, 투석재표 (점보석들, 진디, 석재)		
시공방법	현장 시공형 (홍익), 2차 시공형 (홍익)		
포장디자인과 주요요소	색채	유황색, 유황갈	
	텍스처	육각형 텍스처 (투석재, 유황갈)	
	형상	선 (직선), 점 (삼각, 사각), 격자형	
	문양	회문 (한쪽), 선대칭	
	자색성, 거단	거동성, 장식성	
거리분류기	서민적인 / 선민한 / 번잡한 / 위잡한 / 지역적인 / 역동적인		
거리 이용차 유형	20 40 대 / 지역주민, 기타 학생		
지역적 특성	지역적 상징성	공평대학교, 옥석역수지	
거리 조성 규모	남 (남) 동남		

▶ 공평대 문화의 거리 0000



도시명	서울시	도로형태	직선형
거리명	공평대주변 문화예술의 거리 (옥석역-지-영등포역)		
거리성격	상가 (소형점, 서점 등) 중심, 길 중심		
도로유형	보차 공존 도로		
포장재료	다스알레, 고강 시멘트, 투석재표 (점보석들, 진디, 석재)		
시공방법	현장 시공형 (홍익), 2차 시공형 (홍익)		
포장디자인과 주요요소	색채	유황색, 유황갈	
	텍스처	육각형 텍스처 (투석재, 유황갈)	
	형상	선 (직선), 점 (삼각, 사각), 격자형	
	문양	회문 (한쪽), 선대칭	
	자색성, 거단	거동성, 장식성	
거리분류기	서민적인 / 선민한 / 번잡한 / 위잡한 / 지역적인 / 역동적인		
거리 이용차 유형	20 40 대 / 지역주민, 기타 학생		
지역적 특성	지역적 상징성	공평대학교, 옥석역수지	
거리 조성 규모	남 (남) 동남		

# 京畿道

## ▶ 수원관동학구 문화거리 1 1 1 1



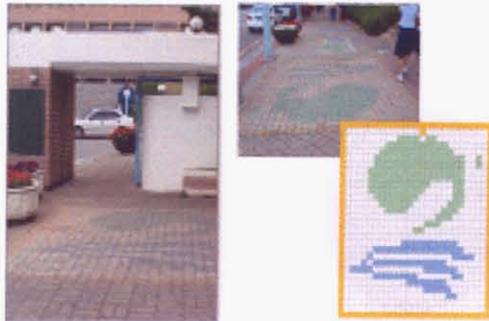
도시명	경기도 수원시		
거리명	수원관동학구 문화거리		
거리성격	남가(소공원, 시장 등), 관광 중심		
도로유형	보행자 전용 도로	도로형태	직선형
포장재료	도자기 (여기, 자기)		
시공방법	2차 지공형 (분할, 시공 방법)		
포장디자인과 조형요소	색채 형태 문양 지역성, 기단	R, 유채색 곡선, 시각 리듬(반복) 상징성	
거리분류기	현대적인 / 도시적인 / 이국적인 / 특색적인		
거리미용차	20 ~ 30대 / 관광차		
거리 성격에 부합한 이벤트의 활용	있다		
거리조성경위	남(남) 중심		

## ▶ 수원관동학구 문화거리 1 1 1 1



도시명	경기도 수원시		
거리명	수원관동학구 문화거리		
거리성격	남가(소공원, 시장 등), 관광 중심		
도로유형	보행자 전용 도로	도로형태	직선형
포장재료	도자기 (여기, 자기)		
시공방법	2차 지공형 (분할, 시공 방법)		
포장디자인과 조형요소	색채 형태 문양 지역성, 기단	R, 유채색 곡선, 시각 리듬(반복) 상징성	
거리분류기	현대적인 / 도시적인 / 이국적인 / 특색적인		
거리미용차	20 ~ 30대 / 관광차		
거리 성격에 부합한 이벤트의 활용	있다		
거리조성경위	남(남) 중심		

## ▶ 양재 문화거리 1 1 1 1



도시명	경기도 수원시		
거리명	양재 문화거리		
거리성격	관상(시장, 문화회관 등) 중심		
도로유형	보행자 전용 도로	도로형태	직선형(대부분 도로)
포장재료	대소광면, 고풍시멘트		
시공방법	전갈 시공형 (통일 방법 등) 2차 지공형 (분할, 분할)		
포장디자인과 조형요소	색채 형태 지역성, 기단	Y, B, G, 유채색, 무채색 시각 장식성	
거리분류기	서민적인 / 정돈된 / 도시적인 / 특색적인		
거리미용차	10 ~ 20대, 30 ~ 40대 / 지역주민		
거리 성격에 부합한 이벤트의 활용	있다		
거리조성경위	남(남) 중심		

## ▶ 양재 문화거리 1 1 1 1



도시명	경기도 수원시		
거리명	양재 문화거리		
거리성격	관상(시장, 문화회관 등) 중심		
도로유형	보행자 전용 도로	도로형태	직선형(대부분 도로)
포장재료	대소광면, 고풍시멘트		
시공방법	전갈 시공형 (통일 방법 등) 2차 지공형 (분할, 분할)		
포장디자인과 조형요소	색채 형태 지역성, 기단	Y, B, G, 유채색, 무채색 시각 장식성	
거리분류기	서민적인 / 정돈된 / 도시적인 / 특색적인		
거리미용차	10 ~ 20대, 30 ~ 40대 / 지역주민		
거리 성격에 부합한 이벤트의 활용	있다		
거리조성경위	남(남) 중심		

# 慶尚道

## ▶ 안동 문화포럼광장 0000



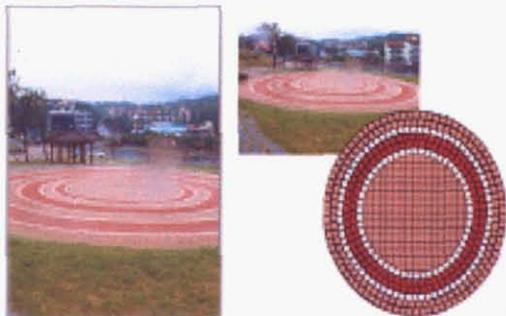
도시명	경남 창원시	도로형태	직선형
거리명	안원읍지문화광장 (경남 문화읍, 중앙동 일원)		
거리성격	문화예술, 길가		
도로유형	보차 공존 도로 (4차선)		
포장재료	정호석, 화강석		
거리분류	현대적인 / 경관원 / 도시적인 / 쾌적한		
거리이용자	호소가 되지않아 이는 사람이 거의 없음		
거리 성격에 부합한 이벤트의 활용	거리축제 (4월1일 건후 국제행사유치)		
지역적 특성	대표적 산물	상행인양, 공구SET	
거리조성경위	남(남) 중심		

## ▶ 안동 문화예술광장 0



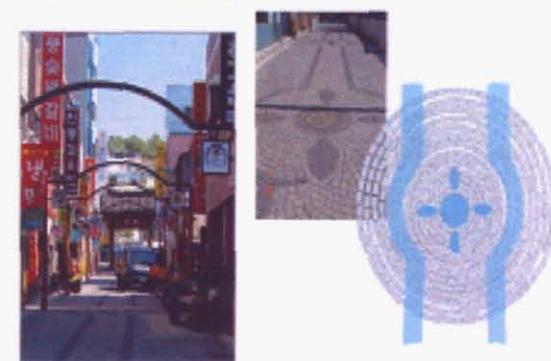
도시명	경남 창원시	도로형태	직선형
거리명	안원읍지문화광장 (경남 문화읍, 중앙동 일원)		
거리성격	문화예술, 길가		
도로유형	보차 공존 도로 (4차선)		
포장재료	갈색석, 화강석		
거리분류	현대적인 / 경관원 / 도시적인 / 쾌적한		
거리이용자	호소가 되지않아 이는 사람이 거의 없음		
거리 성격에 부합한 이벤트의 활용	거리축제 (4월1일 건후 국제행사유치)		
지역적 특성	대표적 산물	상행인양, 공구SET	
거리조성경위	남(남) 중심		

## ▶ 동양 새천년 광장 0



도시명	대구 약현시	도로형태	직선형 (폭 약 8-10m)
거리명	대구 동산문화거리		
거리성격	상가 (대형, 중소형, 휴가) 중심		
도로유형	보차 공존 도로		
포장재료	아스팔트(특별히 호소가 인정되지 않았다)		
재료감도	기본도로에 한함(물에서면서 자연스럽게 지감되었으므로 특별히 조성한게 없다)		
시공방법	기본도로에 한함(물에서면서 자연스럽게 지감되었으므로 특별히 조성한게 없다. (천정 시공중)		
거리분류	보통형 / 역동적인(경시달)-경락형(중앙S/D)		
거리 이용자 유형	30~40대, 20대, 노년층 및의 소위		
거리 성격에 부합한 이벤트의 활용	홍산미술제 (매년10월)		
지역적 특성	대표적 산물	그림, 공예품(새들의 인사를 거리와 유사한 성격)	
거리 조성 경위	동 쪽(관인) 중심(천정) 특별 한함(물에서면서 시적인 거리였으나, 흡수 관해 서 일대지에 조성되었다)		

## ▶ 안동 성서의 거리 0000



도시명	안동시 (동부동)	도로형태	직선형
거리명	성서의 거리 (형성전지 약 2km이 되었음)		
거리성격	상가(소형상, 시장, 용서길 등) 중심		
도로유형	보행자 전용 도로		
포장재료	도자기 (자갈), 석재 (대리석, 화강석)		
시공방법	2차 지공형 (블럭, 시트, 화강)		
	벽돌	고려도	
포장디자인과 주요요소	벽돌	광역성	
	블럭	리듬 (반복)	
	자갈	장식성, 지역상징성(타일)	
거리분류	경관원		
거리 이용자 유형	주 30~40대의 다양한 연령층 / 지역주민		
지역적 특성	지역의 상징물	안동성, 화성마을	

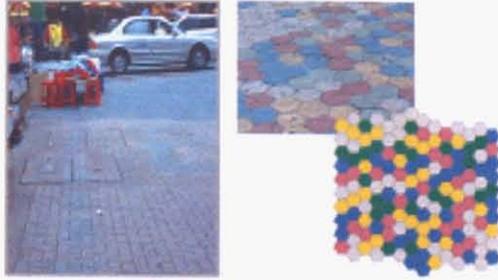
# 釜山

## ▶PPT 문화의 거리 1 1 1



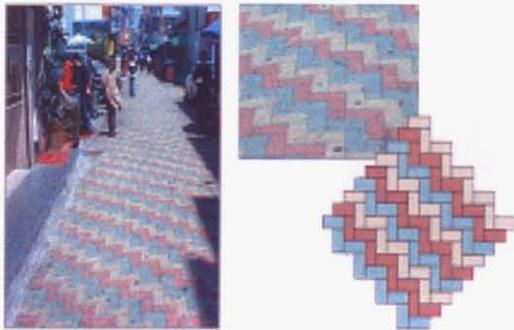
<b>도시명</b>	부산 남포동		
<b>거리명</b>	PPT 문화의 거리		
<b>거리성격</b>	상가(소형몰, 시장 등), 문화예술(미술관, 연주, 자매관, 박물관, 국립 등) 중심		
<b>도로유형</b>	보행자 전용 도로	<b>도로형태</b>	직선형 (도로의 폭이 약15m의 평상형)
<b>포장재료</b>	점토박물, 화강석(거칠석)		
<b>재료경도</b>	차도: 압도중시 (약75a), 보도: 미끄럼 방지 (약5a)		
<b>시공방법</b>	2차 배움형 (복합 공법)	<b>시공비율</b>	혁신성 1(20%)
<b>포장디자인과 조형요소</b>	색채 R, V, 저채도 형태 불규칙성 패턴 직방 (간격) 지역성, 거대 질서성, 지역성질서 (경화요소인, 이크를 밖스속에 강조)		
<b>거리분류기</b>	현대적인 / 서민적 / 번잡함 / 현란함 / 역동적		
<b>거리 이용자 유형</b>	10~20대, 30~40대 / 지역주민		
<b>거리 성격에 부합된 대안도의 활용</b>	부산 문화재		
<b>지역적 특성</b>	지역의 상징물 국제 가깝다 시장		
<b>거리 조성 권위</b>	방(안) 중심		

## ▶PPT 문화의 거리 1 1 1



<b>도시명</b>	부산 남포동		
<b>거리명</b>	PPT 문화의 거리		
<b>거리성격</b>	상가(소형몰, 시장 등), 문화예술(미술관, 연주, 자매관, 박물관, 국립 등) 중심		
<b>도로유형</b>	보행자 전용 도로	<b>도로형태</b>	직선형 (도로의 폭이 약15m의 평상형)
<b>포장재료</b>	점토박물, 화강석(거칠석)		
<b>재료경도</b>	차도: 압도중시 (약75a), 보도: 미끄럼 방지 (약5a)		
<b>시공방법</b>	2차 배움형 (복합 공법)	<b>시공비율</b>	혁신성 1(20%)
<b>포장디자인과 조형요소</b>	색채 R, V, 저채도 형태 불규칙성 패턴 직방 (간격) 지역성, 거대 질서성, 지역성질서 (경화요소인, 이크를 밖스속에 강조)		
<b>거리분류기</b>	현대적인 / 서민적 / 번잡함 / 현란함 / 역동적		
<b>거리 이용자 유형</b>	10~20대, 30~40대 / 지역주민		
<b>거리 성격에 부합된 대안도의 활용</b>	부산 문화재		
<b>지역적 특성</b>	지역의 상징물 국제 가깝다 시장		
<b>거리 조성 권위</b>	방(안) 중심		

## ▶용두산 문화의 거리 1 1 1



<b>도시명</b>	부산		
<b>거리명</b>	용두산 문화의 거리		
<b>거리성격</b>	상가(소형몰) 공원 (용두산 공원부근)		
<b>도로유형</b>	보행자 전용도로	<b>도로형태</b>	직선형, 곡선형
<b>포장재료</b>	점토박물, 화강석		
<b>시공방법</b>	2차 배움형(복합공법)		
<b>포장디자인과 조형요소</b>	색채 R, B, G, Y, 중채도 형태 규칙적 패턴 반복 지역성, 거대 질서성		
<b>거리분류기</b>	현대적 / 서민적 / 번잡함 / 현란함 / 역동적		
<b>거리이용자</b>	20~30대, 40~50대 / 지역주민		
<b>지역적 특성</b>	용두산 공원을 둘러싼 소포, 신학로		
<b>거리 조성 권위</b>	방(안) 중심		

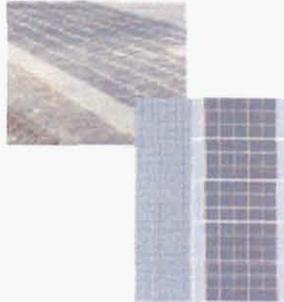
## ▶용두산 문화의 거리 1 1 1



<b>도시명</b>	부산		
<b>거리명</b>	용두산 문화의 거리		
<b>거리성격</b>	상가(소형몰) 공원 (용두산 공원부근)		
<b>도로유형</b>	보행자 전용도로	<b>도로형태</b>	직선형, 곡선형
<b>포장재료</b>	점토박물, 화강석		
<b>시공방법</b>	2차 배움형(복합공법)		
<b>포장디자인과 조형요소</b>	색채 R, B, G, Y, 중채도 형태 규칙적 패턴 반복 지역성, 거대 질서성		
<b>거리분류기</b>	현대적 / 서민적 / 번잡함 / 현란함 / 역동적		
<b>거리이용자</b>	20~30대, 40~50대 / 지역주민		
<b>지역적 특성</b>	용두산 공원을 둘러싼 소포, 신학로		
<b>거리 조성 권위</b>	방(안) 중심		

## 全羅道

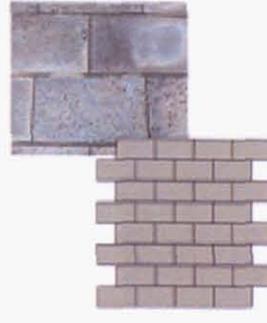
▶ 전주 전통거리 1 2 3



도시명	전북 전주사		
거리명	전주 역사의 거리(전통성당-영기전-오씨대, ~역사)		
거리성격	산가		
도로유형	보행자 전용 도로(사인화 보자공존도로)	도로형태	직선형
포장재료	화강석, 고품질모래		
시공방법	2차 재층법 (불의 공법)		
포장디자인과 조형요소	색채 화강석 화강 직선 지역성, 기단 기역상(상위)전주 주요 역사내용을 도면으로 제작(상하부 화)		
거리분류기	전통적인 / 자연적인 / 역사적인 / 지역적인 / 일관성		
거리 이용자 유형	관광객		
거리 성격별 특징	화강, 화강질 자갈을 주로 관음송재질 보사		
지역적 특성	역사적문화유산 역사 거리 (대규모 산물 공법)충정시공(전통신지, 부속 등)		
거리 조성 권위	국(국) 중심		

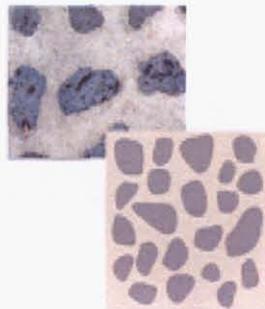
## 濟州道

▶ 중문거리 1 2



도시명	제주 중문
거리명	중문 거리
거리성격	관광(역사시설), 산가 중심
도로유형	보차 공존 도로
포장재료	아스팔트, 화강석, 현무암
시공방법	한정 시공법 (통정 방법 등) 2차 재층법 (불의 공법)
포장디자인과 조형요소	색채 화강 지역성, 거리 장식성
거리분류기	전통적인 / 지역적인 / 자연적인 / 일관성 / 일관성
거리 이용자 유형	산, 중문을 및 노년층 / 기타 관광객
지역적 특성	대규모 산물 현무암
거리 조성 권위	국(국) 중심

▶ 중문거리 1 2



도시명	제주 중문
거리명	중문 거리
거리성격	관광(역사시설), 산가 중심
도로유형	보차 공존 도로
포장재료	아스팔트, 화강석, 현무암
시공방법	한정 시공법 (통정 방법 등) 2차 재층법 (불의 공법)
포장디자인과 조형요소	색채 화강 지역성, 기단 장식성
거리분류기	전통적인 / 지역적인 / 자연적인 / 일관성 / 일관성
거리 이용자 유형	산, 중문을 및 노년층 / 기타 관광객
지역적 특성	대규모 산물 현무암
거리 조성 권위	국(국) 중심

▶ 대포대역 박물관 1 2



도시명	제주 중문
거리명	제주 중문 대포대역 박물관
거리성격	관광, 산가 중심
도로유형	보차 공존 도로
포장재료	아스팔트, 현무암
시공방법	한정 시공법 (통정 방법 등) 2차 재층법 (불의 공법)
포장디자인과 조형요소	색채 화강 지역성, 기단 장식성
거리분류기	전통적인 / 지역적인 / 자연적인 / 일관성 / 일관성
거리 이용자 유형	산, 중문을 및 노년층 / 기타 관광객
지역적 특성	대규모 산물 현무암
거리 조성 권위	국(국) 중심

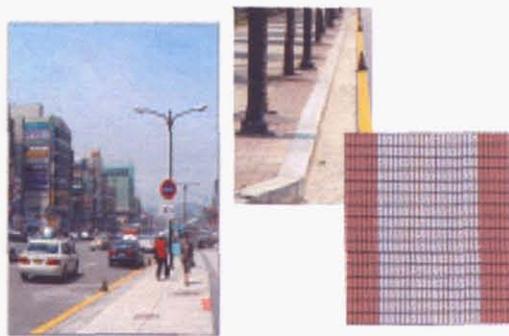
# 忠清道

## ▶ 공주 역사문화의 거리 0000



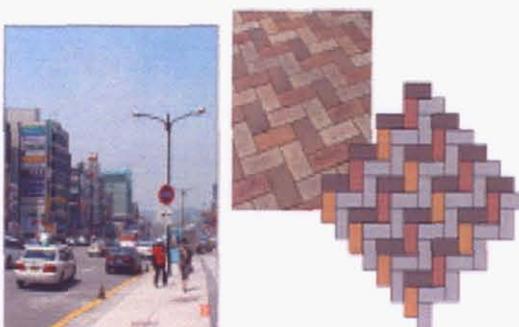
도시명	충남 공주시		
거리명	충남 공주시 역사문화의 거리 (무성일출사적지-공주국산일지)		
도로유형	일반도로	도로형태	평상면갈형
포장재질	미스알파		
시공방법	현장 시공형 (혼합 방법 중)		
포장디자인과 주요요소	색상 무늬색 지역성, 기단 지역상징성 (무성일출의 전통을 여백한 제1도 길조)		
거리분류기	전통적인 / 슬롯형 / 격조있는 / 획일적인 / 특색성 / 지역적인 / 실용적인 / 역동적인		
거리 이용차 유형	10~20대 / 30~40대 / 지역주민, 관광객		
거리 성격에 부합한 이벤트의 활용	문화성 수문물 근무 고대사 (도, 일)		
지역적 특성	지역의 상징을 무성일출		
거리 조성 권위	문화거리로 지정하여 살고 돌아온 것도 없다		

## ▶ 천안 이리거리 광장 0000



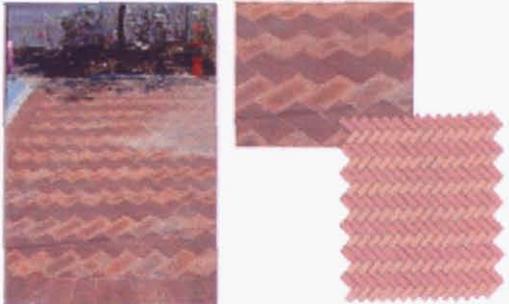
도시명	충남 천안		
거리명	대전시외교통시정관리처와의 5년 문화의 거리는 아니라고함		
거리성격	미술품		
도로유형	보행자 전용 도로	도로형태	평상면갈형
포장재질	고급시멘트, 1형 콘크리트 블록, 정방블록, 대리석		
시공방법	2차 적용형 (블록 방법)		
포장디자인과 주요요소	색상 지형도 형태 시각 표면 건물(반복)		
거리분류기	현대적인 / 정돈된 / 도시적인 / 격조있는 / 쾌적한		
거리 이용차 유형	10~20대 / 지역주민		
거리 성격에 부합한 이벤트의 활용	대형놀이 (대형연말), 인형극 (소극장)		
지역적 특성	역사의 특기사항 (2차의 특이성 (대형의 다양성))		
거리 조성 권위	비인) 중심 (개인이 조각품을 전시하면서 이루어졌음)		

## ▶ 천안 이리거리 광장 0000



도시명	충남 천안		
거리명	대전시외교통시정관리처와의 5년 문화의 거리는 아니라고함		
거리성격	미술품		
도로유형	보행자 전용 도로	도로형태	평상면갈형
포장재질	고급시멘트, 1형 콘크리트 블록, 정방블록, 대리석		
시공방법	2차 적용형 (블록 방법)		
포장디자인과 주요요소	색상 지형도 형태 시각 표면 건물(반복)		
거리분류기	현대적인 / 정돈된 / 도시적인 / 격조있는 / 쾌적한		
거리 이용차 유형	10~20대 / 지역주민		
거리 성격에 부합한 이벤트의 활용	대형놀이 (대형연말), 인형극 (소극장)		
지역적 특성	역사의 특기사항 (2차의 특이성 (대형의 다양성))		
거리 조성 권위	비인) 중심 (개인이 조각품을 전시하면서 이루어졌음)		

## ▶ 단양 0000



도시명	단양		
거리명	문화, 리조트 관광 중심		
거리성격	문화, 리조트 관광 중심		
도로유형	보행자 전용 도로, 장애인(휠)	도로형태	직선형
포장재질	정방콘크리트블록, 정방블록, 대리석		
시공방법	2차 적용형 (블록, 시공 방법)		
포장디자인과 주요요소	색상 무늬색, 무늬색 형태 선, 비현 표면 건물(반복) 지역성, 기단 장식성, 직물 표시		
거리분류기	현대적인 / 정돈된 / 쾌적한		
거리 이용차 유형	30~40대 / 지역주민, 관광객		
거리 성격에 부합한 이벤트의 활용	실용적, 관광진흥추진		
지역적 특성	대표적 산물 리얼(드라마촬영지)		
거리 조성 권위	비인) 중심		

## その他の地域

▶ 분당 서편역 주변 분화거리



(1) (2)



▶ 분당 한국디자인센터 주변



(1) (2)



▶ 청담동



▶ 화성 시청앞 광장



▶ 계포동



▶ 화성 일죽동-계후사



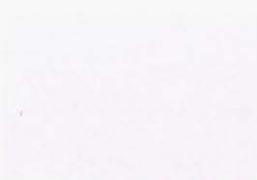
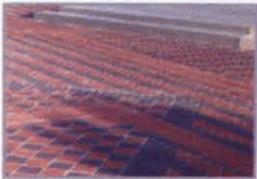
## 2-3 各国フットスケープデザイン現況

### 日本

▶에비스가든 (1) (2)



▶에비스가든 (1) (2)



▶ 用賀町(요가마치) 삼거리 (1) (2)



▶ 用賀町(요가마치) 유보도로



(1) (2)



▶ 吉福寺 祿로드 삼거리



(1) (2)



▶ 후다코다마가와



(1) (2)



▶ 무사시노 미술대학



▶ 미케부쿠로 산사안60



▶ 하치오지시 히가시야마보도 다리



▶ 지유카오카역 앞 보행자도로



▶ 横須賀(よこすか) 중앙로 및 공원

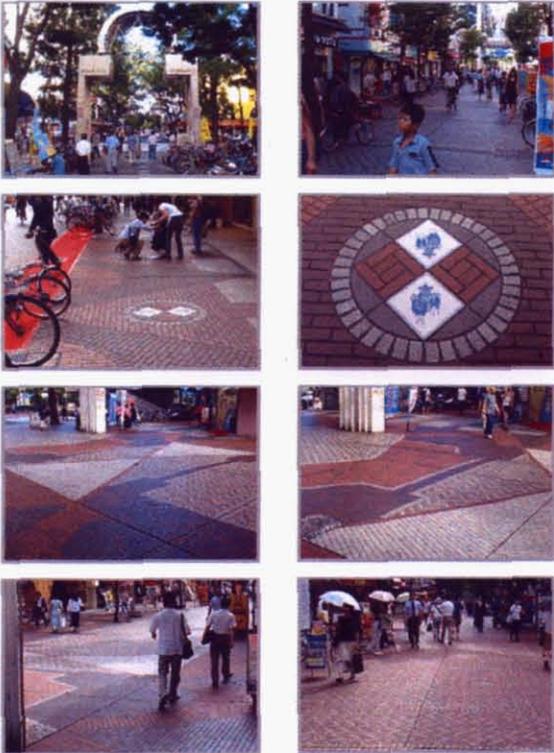


▶ 横須賀(よこすか) 중앙로 및 공원



▶ 横濱(よ코하마) 미세자키울

(1) (2) (3) (4)



▶ 横濱(よ코하마) 야마시타 공원내

(1) (2) (3) (4)



▶ 信樂(시가라키) 도메의 숲



▶ 信樂(시가라키) 요업시험소



▶ 横須賀(요코스카) 구리하마유보도로



▶ 大阪(오사카) 요츠바시



▶ 大阪(오사카) 미노스



▶ 大阪(오사카) 미도스시, 신사이바시



▶ 横兵(요코하마) 아미사타 공원내

(1) (2) (3) (4)



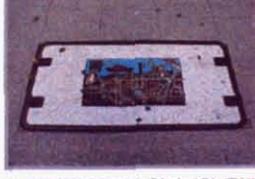
▶ 横兵(요코하마) 아미사타 공원주변

(1) (2) (3) (4)



▶ 横兵(요코하마) 중화거리

(1) (2) (3) (4)



▶ 名古屋(나고야) 사카에마치

(1) (2)



▶ 名古屋(나고야) 디자인박물관

▶ 横兵(요코하마) 간나미역 주변

▶ 横兵(요코하마) 시청앞



▶名古屋(나고야) 센트럴파크



(1) (2)



▶福冈(후쿠오카) 캐널시티



▶福冈(후쿠오카) 다이마루 백화점 주변



▶名古屋(나고야) 물의 정원



▶福冈(후쿠오카)다이마루 백화점 앞



▶福冈(후쿠오카) 미관지구



## フットスケープデザイン現況 (外国事例)

### ドイツ

▶Stuttgart(스튜트가르트) 역중앙로



▶Frankfurt(프랑크푸르트) 차일거리



▶Frankfurt(프랑크푸르트) 작센하우젠거리



▶Frankfurt(프랑크푸르트) 퀴어광장



## デンマーク

▶Hamburg(함부르크) 뮌헨스터거리



▶Copenhagen(코펜하겐) 스트로미에거리 (1) (2)



▶Hamburg(함부르크) 현대미술관



▶Hamburg(함부르크) 역 부근



## オランダ

▶암스텔담역 내부



▶Brussel(브뤼셀) 그랑플래스역 주변



▶암스텔담 담광장



▶암스텔담역 주변



▶암스텔담역 주변



▶Brugge(브뤼헤) 구시가지



▶암트베르펜역과 메이르거리



## 스웨덴

## 스페인

▶Stockholm(스톡홀름) 외토리예거리 (1) (2)



▶Barcelona(바르셀로나) 까사밀라주변 (1) (2)



▶Stockholm(스톡홀름) 마리아뚝겟알대

▶Barcelona(바르셀로나) 구엘공원, 주벽 벽



## イタリア

▶Milano(밀라노) 엠마누엘2세 갤러리아



▶Milano(밀라노) 두오모광장



▶Milano(밀라노) 스카라극장 부근



▶Milano(밀라노) 시내



▶Como(코모)



▶Rome(로마) 캄피톨리오광장



## フランス

▶Paris(파리) 라태팡스 (1) (2)



▶Paris(파리) 라태팡스 (1) (2) (3)



▶Paris(파리) 브쟁앙백화점



▶Paris(파리) 상제리제 거리



▶Paris(파리) 루브르박물관앞



# イギリス

▶ London(런던) 코벤트가든 소호일대

(1) (2) (3) (4)



▶ London(런던) 옥스포드셔커스역, 캐너비스트릿 (1) (2) (3) (4)



▶ London(런던) 타워브릿지프라자 주변

(1) (2) (3) (4)



▶ London(런던) 제럴드스트릿, 차이나타운 (1) (2) (3) (4)



▶ London(런던) 디자인센터 주변



付録 2 - 4

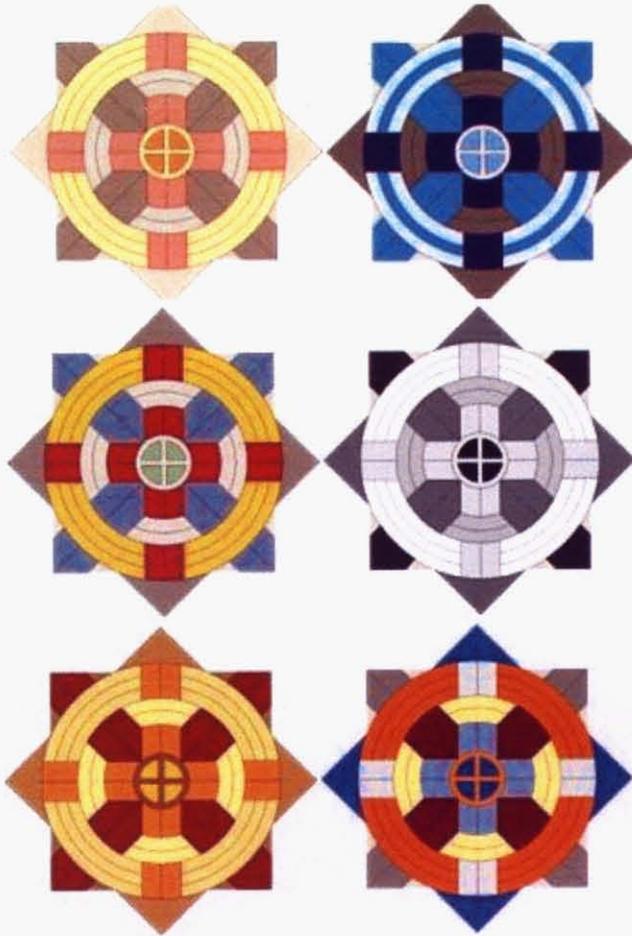
フットスケープデザイン開発事例と SIMULATION

1-4. FSD開發事例とSIMULATION

釜山文化芸術通り

친구의 거리

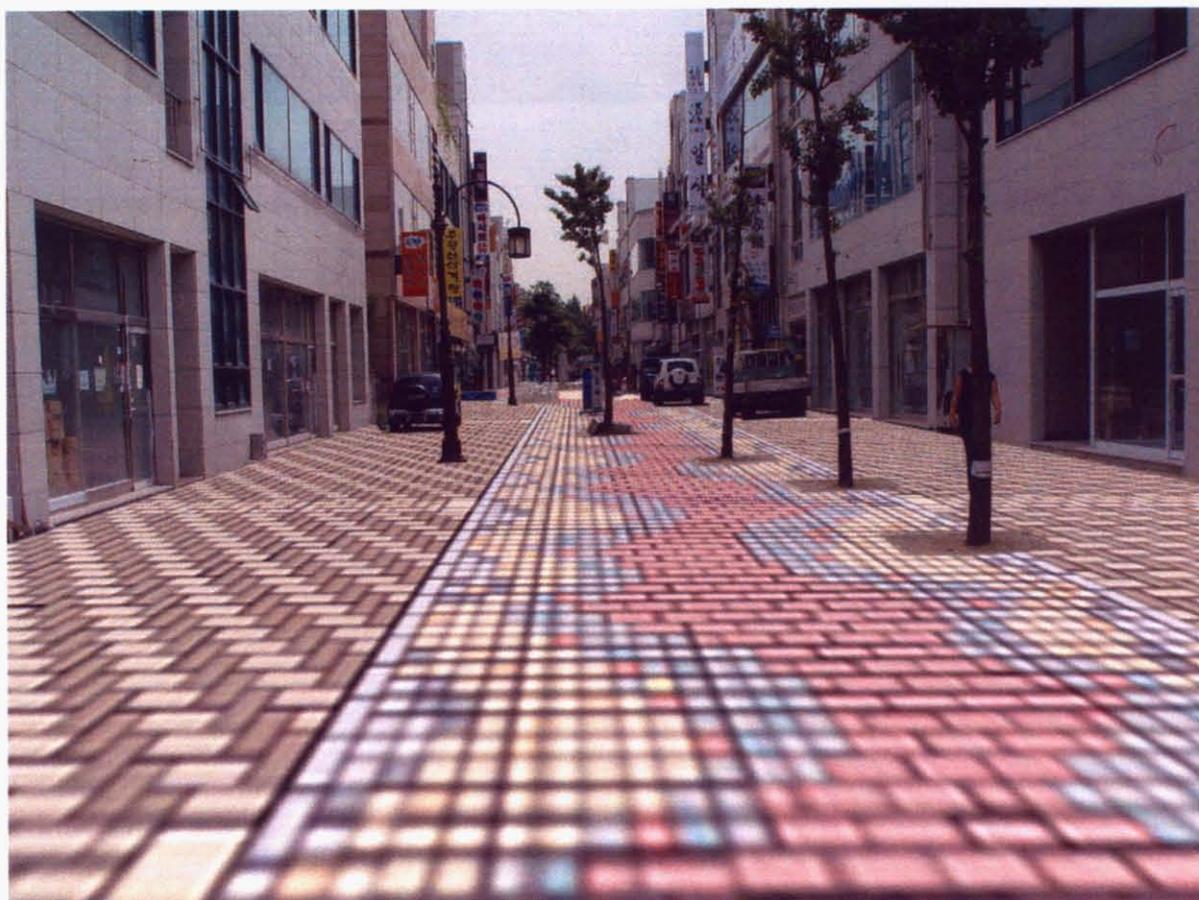
▶ 부산 해변문화예술의 거리



1-4. フットスケープデザイン開発事例と SIMULATION 2 (プチョン中央公園)



1-4. フットスケープデザイン開発事例と SIMULATION 2 (プチョン文化通り)

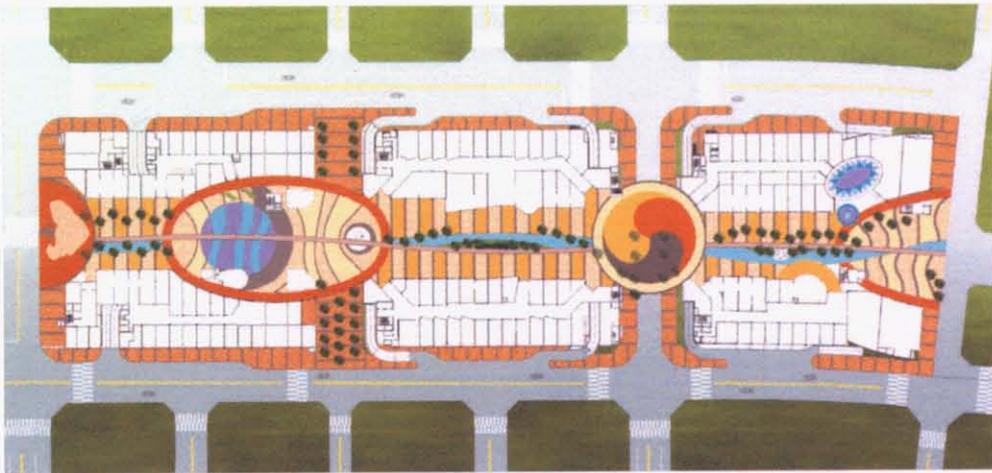


1-4. フットスケープデザイン開発事例と SIMULATION 3 (高陽 ラフェスタ通り)

라페스타 쇼핑몰 보도디자인

삼한기술연구소 Tel : (053) 756-0051 Fax : (053)755-0405

- 0.7500 직경부치



**SAMHAN BRICK & PAVER** | 본 디자인은 삼한기술연구소에서 개발한 것으로 불법복제나 모방을 금합니다.



付録 3.

参 考 文 献

## 参考文献

NO	著者名	書籍名および論文タイトル	発行年度
1	鳴海邦碩+都市環境デザイン會議関西ブ ロック	都市環境デザインの仕事	2001
2	J.バネット著 兼田敏之譯	都市デザイン・野望と誤算	
3	静水忠男	行動・文化とデザイン	
4	G.カレン著	都市の景観	
5	北原理雄譯 三輪正弘	環境デザインの思想	
6	フォレスト・ウィルソン著 山本學治・稲葉武司譯	構造と空間の感賞	
7	宮後 治+渡邊康人	建築と色彩-インテリアから景観まで	1999
8	伊奈英次	驛デザインとパブリックアート 21世紀の地下鐵をめざして	平成 12
9	勝井規和	ヨーロッパの街並と窓	1998
10	樫野紀元	初學者のための建築材料入門	1997
11	芦原義信	續・街並の美學	1983
12	ラインハルト・グレーベ著 中村静夫譯	みんなでまちを造った	1984
13	吉田慎悟	まちの色をつくる, 環境色彩デザインの手法	1998
14	小池岩太郎 細野尚志	公共の色彩を考える	1989
15	小林重順	景観の色とイメージ	1994

16	池澤 寛	街づくりデザインノート・活性化のための考現 学 12 章	1987
17	まちづくり研究会	あなたのまちをデザインする 61 の方法	1992
18	地域活性化センター	まちの顔づくり 195 人が集まる魅力と個性を決める	平成 7
19	まちづくりイベント研究会	まちづくりイベント ハンドブック	1996
20	環境デザイン研究会	環境をデザインする	1997
21	世田谷まちづくりセンター	わが町発見 総地図づくりからまちづくりへ	1995
22	ヘンリー・サノフ 小野啓子譯/林泰義解説	まちづくりゲーム 環境デザイン・ワークショップ	1993
23	J. ツァイゼル著 根建 金男/大橋靖史	デザインの心理學	1995
24	通商産業省九州通商産業局	地域活性化とデザイン 九州地域デザインビジョン	1991
25	小林章男	かわら瓦歴史とデザイン	2001
26	喜田信代	日本れんが紀行	平成 12
27	伊奈輝三	れんがと建築・積み重ねた美の表情	1988
28	カトリーヌ・グル著 藤原えりみ譯	都市空間の藝術・パブリックアートの現在	1997
29	榮久庵憲司 監修 ボイスオブデザイン編	都市とデザインが都市を創る都市がデザイン を育む	1997
30	清水忠男	ふれあい空間のデザイン	

NO	著者名	書籍名および論文タイトル	発行年度
31	산업도서출판공사	한국의 주택표정	1995
32	서현	건축 음악처럼 듣고 미술처럼 보다	2001
33	어니스트버든-저 주승범-역	건축디자인요소	1996
34	유병림	문화예술의 거리(계획과 실제)	1996
35	김기환-역	랑크로의 색채디자인	1994
36	社團法人建築設備技術者協會 編	建築.環境キーワード事典	平成 14
37	松田 豊	色彩のデザイン	2000
38	윤혁경	도시.건축 옛보기	2001
39	산업도서출판공사	한국의 주택표정	1995
40	서현	건축 음악처럼 듣고 미술처럼 보다	2001
41	어니스트버든-저 주승범-역	건축디자인요소	1996
42	유병림	문화예술의 거리(계획과 실제)	1996
43	김기환-역	랑크로의 색채디자인	1994
44	박돈서	건축의 색.도시의 색	1996
45	サトウ クニヒロウ	풍토색과 기호색	1986
46	권영걸	공간디자인 16講	2001
47	鳴海邦碩	景觀からのまちづくり	1988
48	임영주	傳統紋樣資料集	1986

49	한국문화재보호재단	한국의 무늬(개정판)	1996
50	Harrison, Peter Joel	BRICK PAVEMENT and FENCE-WAJS	2000
51	오근재	韓國 紋樣의 展開·瓦塼篇	1985
52	Pierre Chabat	VICTORIAN BRICK AND TERRA-COTTA ARCHITECTURE	1989
53	dominique coughlin	the floor book	2001
54	松田 豊	色彩のデザイン	2000
55	윤혁경	도시·건축 옛보기	2001
56	グラフィック社	Urban Equipment Design	2002
57	R. Brambilla G. longo	歩行者空間	1999
58	Faber Birren	빛·색채·환경	1989
59	李明浩	續·거리의 美學	1998
60	李鉉澤 李姬	街路의 美學	2000

NO	著者名	書籍名および論文タイトル	発行年度
61	Arian Mostadi	sustainable architecture-lowtech houses	2002
62	Kim Williams	Italian Pavements Patterns in Space	1997
63	Billingham And Cole	The Good Place Guide	2002
64	E. J. Yoder M. W. Witczak	Principles Of Pavement Design	1975
65	David Croney Paul Croney	Design And Performance Of Road Pavements	1998
66	이시이 이치로	도시디자인	2000

	카메노 타츠미 타케다 코이치		
67	Maggy Howarth	Kieselstein·Mosaik	2001
68	조현세, 정병두, 권영인, 민병기, 김정환	가로환경 계획 매뉴얼	2001
69	은평구청	은평구 가로환경디자인에 관한 연구	2000
70	Wolfgang Lauter	PASSAGEN	1996
71	Issam El-Said	Islamic and Architecture THE SYSTEM OF GEOMETRIC DESIGN	1993
72	Andre Bruyere	SOLS	1990
73	Dieter Boeminghaus	보행자공간+ 의장요소	1999
74	Christoph Höcker	ARCHITECTURE A CONCISE HISTORY	2000
75	한국 디자인 진흥원	도시이미지 개선-사례모음집	2001
76	Sammartini Crozzoli	STEINBÖDEN IN VENEDIC	2000
77	グラフィック社	Urban Pavement Design	2002
78	グラフィック社	Urban Waterscape Design	2001
79	グラフィック社	Urban Landscape Design	2001
80	黒川紀章	길과 建築	1996
81	배호영	보차공존도로의 계획과 기법	1999

## 付録 4 フットスケープデザインの意識調査用データ

- 4-1 地域別歩道舗装デザイン調査資料分析用シート（現地調査用）
- 4-2 地域別歩道舗装デザイン調査資料分析シート（専門家用）
- 4-3 フットスケープデザインに関するアンケート（一般人用）

付録 4 - 1 地域別歩道舗装デザイン調査資料分析用シート (現地調査用)

(調査日:                      時:                      )

フィールド名		データ 内容				
都市名						
通り類型	通り名					
	通りの性格	공원중심(미관광장), 상가(쇼핑몰, 시장 등)중심, 역전중심, 문화예술(미술관, 민속, 자료관, 박물관, 극장 등)중심, 관청중심, 리조트관광중심, 다리중심, 길중심				
道路 類型	보행자 전용 도로					
	보차 공존 도로					
	광 장					
道路 形態	직선형					
	광장 연결형					
舗装材料	舗装材料	고분자 재료 (폴리우레탄, 아크릴, 폴리 에스테르, 아스콘 등)				
		瀝靑 재료 (아스팔트)				
		시멘트 (고합시멘트, I 형콘크리트블럭 등), 콘크리트				
		도자기 (석기, 자기)				
		토석재료 (점토벽돌, 흙, 모래 등)				
		석재 (御影石, 대리석, 사암, 화강석 등)				
		목재 (코르크, 나무 등)				
	材料強度					
	施工費用					
施工方法	현장 시공형(몰링방법 등)		시공상태	좋다	보통이다	나쁘다
	2 차 제품형(블럭, 시트 공법)					
舗装デザイン と造形要素	色 彩	색상(Y,R,B,G...), 고명도, 저명도, 고채도, 저채도, 유채색, 무채색				
	テクスチャ	촉각적 텍스처(쿠션성, 요철감등)				
		비주얼 텍스처(광택성, 자연성등)				
	形 態	점				
		선(직선, 절선, 곡선)				
형(삼각, 사각, 다각, 원, 타원, 불규칙)						

		기타(십자형, 격자형)		
	패턴	대칭(선대칭, 점대칭), 가로 선적인 패턴		
		리듬(반복)		
		그라데이션(색채, 형태)		
その他	기능성, 장식성, 유희성(그림, 타일, 금속, 부조) 상징성(이정표, 각종표식, 강조)			
수경 시설, 식재 (장식화분, 가로수, 수경시설)				
맨홀, 핸드홀, 뚜껑류, 배전상자, 쓰레기통, 가로등, 블라드, 커브 (CURB 연석부분)				
通りの雰囲気	전통적인-현대적인 / 귀족적인-서민적인 / 산만한-정돈된 / 널널한-번잡한 / 안전한-위험한 / 전원적인-도시적인 / 현란한-격조있는 / 획일적인-독특한 / 지역적인-이국적인 / 역동적인-정적인 / 쾌적한-답답한 /			
通り利用者の類型	年齢別	10・20代	30・40代	50・60代
	地域住民	観光客		その他
通りの性格に合わない	ある			
イベント活動	ない			
地域的 特性	歴史的特技事項			
	代表的産物			
	地域の象徴物			
通り 造成 経緯	官(관) 중심	民(민) 중심		官·民(관·민) 중심

付録 4 - 2 地域別歩道舗装デザイン調査資料分析シート (専門家用)

수신:

성명:

해당번호에 관련된 내용 또는 ○를 기입해 주십시오.

본 조사는 산업자원부의 지정과제로서 진행중인 것으로, 기재된 내용은 데이터 베이스화될 예정이오니 정확히 기입하여 주시면 감사하겠습니다.

1. 거리명:

2. 거리성격: 공원중심, 상가(쇼핑몰, 시장 등)중심, 역전중심, 문화예술(미술관, 민속, 자료관, 박물관, 극장 등)중심, 관청중심, 리조트관광중심, 다리중심, 길중심

3. 도로 유형: 보행자 전용 도로, 보차 공존 도로, 광 장

4. 도로 형태: 직선형, 광장 연결형

5. 포장 재료:

6. 재료강도:

7. 시공비용:

8. 시공방법:

9. 거리 분위기: 전통적인-현대적인 / 귀족적인-서민적인 / 산만한-정돈된 / 쓸렁한-번잡한 /  
안전한-위험한 / 전원적인-도시적인 / 현란한-격조있는 / 획일적인-독특한 /  
지역적인-이국적인 / 역동적인-정적인 / 쾌적한-답답한 /

10. 거리 이용자: 연령별(            ), 지역주민, 관광객, 기타(            )

11. 거리 성격에 부합된 이벤트의 활동: 있다(이벤트명 :            ), 없다

12. 지역적 특성:

1) 역사적 특기사항(거리와 관련된 역사적 인물, 기사, 사건 등):

2) 대표적 산물(거리와 관련된 특산품, 공예품 등):

3) 지역의 상징물(지역을 상징하는 동·식물 등):

13. 거리 조성 경위: 官(관) 중심, 民(민) 중심, 官·民(관·민) 중심

수원대학교 미술대학 디자인학부 교수 김명란, 특별연구원 윤명숙

연락처: 전화 및 팩스 031-220-2286

### 付録 4-3 フットスケープデザインに関するアンケート (一般人用)

안녕하십니까?

저희 수원대학교에서는 “지방자치 특성을 고려한 친환경적 경관디자인개발 연구”를 수행 중에 있습니다. 현재 본 연구를 수행하기 위하여, 국내 대표적인 문화예술거리의 보도포장 특성 및 개발의 방향에 관한 자료를 수집하고 있으며, 본 설문은 이를 위한 기초연구로서 해당 도시에 거주하시는 분들을 대상으로 있습니다. 귀하가 답변하신 내용은 본 연구를 위한 귀중한 자료로 활용될 것이며, 연구목적 이외에는 어떠한 용도로도 사용되지 않을 것입니다. 바쁘시더라도 설문에 정성껏 응해주시면 감사하겠습니다.

2003년 3월 수원대학교

(E-mail : mrkim@suwon.ac.kr, Tel. 031-220-2286, Fax 031-220-2554)

연구책임자 김명란 교수/공동연구책임자 최형석 교수

1. 귀하께서는 국내 보도포장의 수준에 대해 어떻게 생각하십니까? 각 항목별로 해당란에 표시하여 주십시오.

	매우 우수하다	우수하다	그저 그렇다	열등하다	매우 열등하다
소재					
디자인					
색채					
시공/관리					

2. 귀하께서는 국내의 문화·예술의 거리(예: 올림픽 공원, 인사동, 경주...)를 방문하신 적이 있습니까? 1) 예 2) 아니오

2-1. 상기 문항 2번에 “예”라고 답하신 분만 응답하여 주십시오.

귀하께서는 국내의 문화·예술의 거리가 일반거리와 차별화 되었다고 생각하십니까?

1) 예 2) 아니오

2-1-1. 상기 문항 2-1번에 “예”라고 답하신 분만 응답하여 주십시오.

차별화 되었다고 생각하신다면 그 이유는 무엇입니까? 가장 중요한 이유부터 차례대로 번호를 나열하여 주십시오. ( )

- 1) 거리경관의 조화      2) 지역 정체성 구현
- 3) 자연친화적 공간 조성      4) 체계화된 공공서비스 (홍보·안내/유지·관리)

2-2. 상기 문항 2번에 “아니오”라고 답하신 분만 응답하여 주십시오.

귀하께서 문화·예술의 거리를 방문하신 경험이 없는 이유는 무엇입니까?

- 1) 주변에 문화·예술의 거리가 없어서
- 2) 문화·예술의 거리가 어딘지 모르기 때문에
- 3) 간접경험 상 가고싶은 흥미를 못 느꼈기 때문에
- 4) 기타( )

3. 귀하께서는 문화·예술의 거리의 보도포장을 관심 있게 보신 적이 있습니까?

(상기 문항 2 번에 “예”라고 답하신 분만 응답하여 주십시오)

- 1) 예                      2) 아니오

3-1. 상기 문항 3 번에 “예”라고 답하신 분만 응답하여 주십시오.

귀하께서는 문화·예술의 거리의 보도포장이 일반거리의 보도포장과 비교하여 어떻다고 생각하십니까? 각 항목별로 해당란에 표시하여 주십시오.

	매우 우수하다	우수하다	그저 그렇다	열등하다	매우 열등하다
소재					
디자인					
색채					
시공상태					

3-2. 상기 문항 3 번에 “예”라고 답하신 분만 응답하여 주십시오.

귀하께서는 경험하셨던 국내의 문화예술의 거리 중 보도포장이 가장 인상깊었던 곳은 어디라고 생각하십니까?(가장 인상 깊었던 곳을 한 곳만 적어 주십시오)

3-2-1. 상기 문항 3-2 번에서 답하신 거리의 보도포장이 가장 인상적이라고 생각하시는 이유는 무엇입니까?(가장 적합한 이유부터 차례대로 적어 주십시오)

- 1) 소재가 특이하고 자연친화적이어서    2) 디자인이 미적이어서  
3) 색채가 주변과 잘 어우러져서        4) 시공과 관리가 우수하여

5. 귀하께서 국내 보도포장에 있어서 문제점으로 생각하시는 점은 무엇입니까?(가장 심각하다고 생각하시는 문제부터 순서대로 번호를 적어 주십시오)

- 1) 획일화된 회색의 시멘트나 콘크리트 보도블록에서 느껴지는 주변 경관이나 자연과 유리된 정서  
2) 보행을 방해하는 요철이 심한 보도포장 가로환경  
3) 수시로 이루어지는 잦은 공사로 인한 경제적 손실  
4) 도로포장에 의한 지하수부족 (도로포장으로 눈, 비 등이 바다로 흘러가 버리기 때문)

6. 귀하께서는 보도포장과 관련된 다음의 측면 중 가장 중요하다고 생각하시는 것은?

- 1) 경제성(시공 및 유지관리)              2) 심미성(아름다움)  
3) 실용성(견고)                              4) 기능성(보행과 안전성)

7. 귀하께서는 문화·예술의 거리의 보도포장 디자인을 어떠한 이미지로 표현하는 것이 바람직하다고 생각하십니까?

- 1) 전통적 문양으로 이루어진 고유의 이미지  
2) 단순한 형태의 현대적 이미지  
3) 지역의 특성을 강조한 차별화된 이미지

4) 기 타( )

8. 귀하께서는 지역을 상징하는 지역 색채가 필요하다고 생각하십니까?

- 1) 필요하다      2) 필요하지 않다

9. 귀하께서는 각 지역의 보도포장색채로써 어떤 것이 바람직하다고 생각하십니까?

- 1) 자연 그대로의 흙바닥의 색.  
2) 붉은 점토 벽돌색  
3) 무채색(회색) 계통의 콘크리트, 시멘트의 색  
4) 볼거리가 있는 다채로운 색

10. 귀하께서는 현재 국내 보도포장의 소재로 많이 쓰이고 있는 고압시멘트벽돌에 대해서 어떻게 생각하십니까?

- 1) 좋다      2) 보통이다      3) 나쁘다      4) 관심 없다

11. 귀하께서는 보도포장의 소재로서 점토성 벽돌에 대해서 어떻게 생각하십니까?

- 1) 좋다      2) 보통이다      3) 나쁘다      4) 관심 없다

11-1. 상기 문항 11 번에 “좋다”라고 답하신 경우, 점토성 벽돌의 장점은 무엇이라고 생각하십니까?

- 1) 흙이라는 자연재료를 사용하여 자연친화적이다  
2) 자연의 색채로서 주변환경과 잘 조화된다  
3) 기 타( )

11-2. 상기 문항 11 번에 “나쁘다”라고 답하신 경우, 점토성 벽돌의 단점은 무엇이라고 생각하십니까?

- 1) 가격이 비싸다  
2) 붉은 점토벽돌색이 싫다.  
3) 기 타( )

12. 귀하께서는 최근(2001년 이 후)에 덕수궁 돌담길을 가보신 적이 있습니까?

- 1) 예      2) 아니요

12-1. 상기 문항 12 번에 “예”라고 답하신 분만 응답하여 주십시오.

덕수궁 돌담길을 가보신 적이 있다면, 가장 좋았던 느낌의 번호를 순서대로 나열하여 주십시오.

- 1) 보도포장재의 점토성 벽돌이 정서적 안정감을 준다.  
2) 보도포장재의 점토성 자연의 색채가 주변환경과 조화를 이루고 있다.  
3) 보도포장디자인의 계획이 잘 되어있다



付録 5

文化通り造成現況(2002.8.)

地域別 (箇所)	通り名	区間 (km)	位置	備考
서울 (21 개소)	대학로 문화예술의거리	2.2	혜화동 ~ 돈화문	종로구
	인사동 전통문화의거리	0.6	안국로터리 ~ 대일빌딩	종로구
	숙대앞 문화의거리	1.1	숙대입구 ~ 효창공원 입구	용산구
	소월의 거리	3.0	왕십리로터리 ~ 성동교	성동구
	온달의 거리	2.4	능동로 군자역 ~ 건대역	광진구
	문화의 거리	1.5	경희대앞회기로변 ~ 회기동 60 일원	동대문구
	영화의 거리	1.5	돈암동 4거리 ~ 정릉동	성북구
	전통문화의 거리	0.8	삼선교로터리 ~ 성북동	성북구
	강북문화예술의 거리	3.5	덕성여대앞~4.19 로터리~아카데미하우스	강북구
	문화예술의 거리	2.2	빠리공원 ~ 오목공원	양천구
	웨딩의 거리	0.7	이대역 ~ 아현역	서대문구
	가구의 거리	0.5	북아현동 135-4 ~ 775 번지	서대문구
	구로 5 동 거리공원	0.8	우성아파트 ~ 신구로주유소	구로구
	중앙대주변 문화의 거리	0.8	흑석유수지 ~ 중앙대 정문	동작구
	낙성대 문화의 거리	1.1	낙성대입구 ~ 서울대후문	관악구
	문화예술의 거리	1.3	예술의전당 ~ 서초역	서초구
	패션문화의 거리	3.18	성수대교입구	강남구
	정보통신의 거리	1.09	테헤란로 ~ 청담동 4 거리	강남구
	가구문화의 거리	0.85	강남구청사거리 ~ 영동시장사거리	강남구
	무역금융의 거리	4.46	강남역 ~ 삼성역	강남구
	선사문화의 거리	0.8	암사동선사주거지 ~ 고덕주유소	강동구
부산	PIFF 문화의 거리	0.39	부영극장 ~ 아카데미극장 ~ 충무동육교	중구

(7 개소)	테즈락 문화의 거리	1.48	부산세관 ~ 수미르공원 ~ 테즈락공원	중구
	용두산 문화의 거리	1.82	용두산공원~미문화원~백산거리(동광동)	중구
	부산진구 문화의 거리	1.1	부전동유원오피스텔~범천동혜화문리학원	부산진구
	범어로 문화의 거리	2.2	범어사 경의주차장 ~ 상마부락	금정구
	해변문화예술의 거리	2.8	동백섬 순환도로 ~ 해수욕장 순환도로	해운대구
	달맞이언덕문화의거리	3.0	달맞이길 ~ 달맞이 언덕 일원	해운대구
대구 (2 개소)	봉산문화거리	0.6	봉산동대구학원 ~ 봉산오거리	중구
	약령시거리	0.6	중구 남성로	중구
인천 (3 개소)	월미도 문화의 거리	0.77	월미파출소 ~ 영종선착장	중구
	남동 문화의 거리		만수동 1009 번지 일원	남동구
	부평 문화의 거리	0.27	부평구명신당앞 ~ 부평시장로터리	부평구
광주 (1 개소)	예술의 거리	0.3	동부경찰서 ~ 중앙로입구	동구
대전 (4 개소)	온천로 문화거리	1.0	유성호텔 ~ 계룡호텔 ~ 갑천변	유성구
	대학로 문화거리	1.0	충남대 ~ 홍인호텔 ~ 유성파출소	유성구
	으능정이 문화거리	0.25	은행동 이안경원 ~ 라자가구	중구
	문화의 거리	0.6	중구 대흥동, 중구청 주변	중구
울산 (2 개소)	문화의 거리	0.5	울산교 ~ 울산초등학교앞	중구
	문화예술의 거리	1.8	예술회관 ~ 선경아파트	남구

地域別 (箇所)	通り名	区間 (km)	位置	備考
경기도 (12 개소)	나혜석,홍난파의 거리	0.3	팔달구 인계동	수원시
	성남문화거리	0.332	분당구 수내동	성남시
	광명문화거리	0.27	철산동 상업지구내	광명시
	평택문화거리	0.2	문예회관(시청앞)	평택시
	송탄관광특구문화거리	0.284	송탄관광특구일원	평택시
	다산문화공원내문화거리	1.5	정약용묘역일원	남양주시
	하남문화거리	0.8	시청앞(덕풍천변)	하남시
	여주문화거리	1.51	여주읍 흥문리 ~ 상리	여주군
	오산문화거리	0.12	터미널 앞	오산시
	연천문화거리	0.8	문화원 주변	연천군
대성 MT 문화거리	0.56	대성국민관광지	가평군	
양평문화거리	0.2	군민회관 주변	양평군	
강원도 (2 개소)	춘천 문화의 거리	1.0	춘천문화원 ~ 중앙로터리	춘천시
	강릉 문화의 거리	0.19	기업은행 ~ 세브란스약국	강릉시
충북 (3 개소)	중앙로문화의 거리	0.6	장글제과 ~ 국민은행	청주시
	청주 문화의 거리	0.2	홍덕구 사직 1 동	청주시
	보은 문화의 거리	0.5	보은읍 이평리 일대	보은군
충남 (5 개소)	천안 문화의 거리	0.6	아라리오 조각공원 ~ 천안대로사거리	천안시
	백제 문화의 거리	2.0	무령왕릉사적지 ~ 곱나루관광지	공주시
	아산 문화의 거리	0.3	구 가나다철물 ~ 제 3 구획정리지구	아산시
	서산 문화의 거리	0.5	제일예식장 ~ 문화회관 ~ 도서관	서산시
	부여 문화의 거리	0.5	이화가든 ~ 청소년수련원	부여군
전북 (1 개소)	역사의 거리	0.87	전동성당 ~ 경기전 ~ 오목대	전주시
전남	도시범 문화의 거리	2.4	갯바위 ~ 공원으로로변	목포시

(5 개소)	왕인 문화의 거리	2.0	왕인박사 유적지 구간	영암군
	문화활동의 거리	0.75	쏘울호텔~여서동로타리	여수시
	순천 문화의 거리	2.5	황금프라자~의료원, 순천대~문예회관	순천시
	나주 문화의 거리	0.2	구 나주등기소~나주목사 내아	나주시
경북 (5 개소)	신라의 거리	0.55	내남사거리~법원앞 사거리	경주시
	안동 문화의 거리	0.14	태사로(조흥은행 ~ 농협동부지소)	안동시
	포항 문화의 거리	0.68	포항역 앞~육거리	포항시
	문화로	0.55	중앙시장~캐피탈호텔	구미시
	도약의 거리	2	영양기독병원 앞~공설운동장	영양군
경남 (8 개소)	창원용지문화벨트	5.4	용호동, 중앙동 일원	창원시
	남가람 문화의 거리	2.9	진주 천수교 ~ 진주교	진주시
	시민 문화의 거리	0.35	진해소방서 ~ 신흥동아파트앞	진해시
	문화예술의 거리	1.6	남망진공원입구 ~ 여객선터미널광장	통영시
	김해문화의 거리	2.5	국립김해박물관 ~ 전하고	김해시
	문화거리	1.2	두모로타리 ~ 여객선터미널	거제시
	상림공원	일원	운림리 제3교 ~ 상림공원	함양군
	거창 문화의 거리	0.5	거창교회 ~ 침류정 강변로	거창군
제주 (1 개소)	이중섭 거리	0.36	매일시장입구 ~ 솔동산	서귀포
계	82 개소			